

工6E-34

産業調査報告書

(農家副業、蠶絲業)

第八卷

北海道廳



始



本調査ハ主トシテ左記ノ主査及委員之レヲ担当調査セリ



農家副業

主査 農學博士

大島金太郎

委員

蠣崎知二郎

蠶絲業

主査 農學博士

大島金太郎

委員

角田啓司

大正
4. 7. 23
内交

目次

農家副業

第一	副業經營農家戶數並生產額.....	一頁
一	副業生產價額及販賣價額一戶當表.....	一
二	副業種類別價額一戶當表.....	二
三	副業區支應別表.....	四
四	各支應特殊副業狀況表.....	一五
第二	副業ノ必要.....	一六
第三	副業ノ選擇及其種類.....	一七
第四	各種副業.....	一九
一	將來有望ト認ムルモノ.....	一九
(一)	畜産.....	一九
(二)	養蠶.....	二〇
(三)	果樹栽培.....	二二
(四)	澱粉製造.....	二三
(五)	藁細工.....	二六
(六)	木炭製造.....	三〇



家庭製絲及機業.....	三二
蘭細工.....	三四
杞柳細工.....	三七
野生柳細工.....	三九
養蜂.....	三九
除蟲菊製粉.....	四二
竹細工.....	四四
薄皮.....	四六
木工品.....	四七
籐器.....	四八
桐.....	五一
栗.....	五一
薄荷油製造.....	五二
椎茸.....	五四
澤庵漬.....	五六
製紙.....	五七
マニラ麻繫.....	五八
養魚.....	五八
將來研究ヲ要スルモノ.....	五八

第五

水豆腐.....	六〇
水大根.....	六一
湯葉.....	六一
寒天.....	六二
經木細工.....	六三
將來有望ナラサルモノ.....	六三
蘆粟製糖.....	六三
製網.....	六四
醋酸石灰製造.....	六五
運送業.....	六六
副業獎勵ノ方法.....	六六
現在ノ獎勵方法及其成績.....	六六
將來ノ獎勵方法.....	六七
補助事業.....	六八
指導及試驗.....	六九
指導獎勵上ノ注意.....	六九

蠶絲業

目次

四

第一	本道ノ自然の要素ト養蠶	七一
一	氣候	七一
二	土性	七五
第二	蠶絲業沿革概要	七六
第三	生産	七七
一	桑園	七七
(一)	面積	七七
(二)	桑樹ノ種類	七九
二	育蠶法及繭ノ生産	八一
三	製絲及製綿	八四
四	蠶種	八七
第四	蠶絲業ノ收支計算	八八
一	桑園ノ收支計算	八九
二	養蠶ノ收支計算	九一
三	蠶種製造收支計算	一〇二
四	製絲ノ收支計算	一〇五
第五	集散	一〇六

第六

一	輸移出入	一〇六頁
二	販賣方法及狀況	一一〇
第六	蠶絲業ニ對スル現在ノ施設及其成績	一一〇
一	蠶業補助	一一〇
一	種蠶共同飼育場	一一一
二	簡易養蠶傳習所	一一二
三	蠶業教師	一一三
桑園	園	一一四
桑苗	親木圃	一一五
生繭	殺蛹乾燥場	一一六
器械	製絲場	一一八
共同	製絲組合	一一九
製絲	器械購入費	一一九
北海道	蠶絲會	一二〇
蠶絲	同業組合	一二三
蠶業	指導	一二四
種苗	配付	一二五
蠶病	豫防	一二七
種繭	審査	一二九

五

農家之副業

六	試験調査及講習生養成.....	一三〇頁
第七	将来ノ産繭額.....	一三〇
一	養蠶ニ従事シ得ヘキ戸數ヨリ推定スルモノ.....	一三一
二	東北六縣ノ實例ニヨルモノ.....	一三二
三	本道ノ現況ニヨルモノ.....	一三二
四	桑園ニ使用シ得ヘキ面積ヨリ推定スルモノ.....	一三三
五	需給ノ關係ヨリ推定スルモノ.....	一三五
六	結 論.....	一三六
第八	蠶種製造ノ将来.....	一三七
一	蠶種製造ノ利トスル點.....	一三七
二	蠶種製造ノ不利トナル點.....	一三八
第九	蠶絲業ニ對スル将来ノ方針及施設.....	一四〇
一	方 針.....	一四〇
二	施 設.....	一四〇
(一)	補助事業.....	一四一
(二)	蠶種及桑苗配付.....	一四三
(三)	指導及講習.....	一四三

目次

六

農家之副業

六	試驗調査及講習生養成	一三〇頁
第七	將來ノ産繭額	一三〇
一	養蠶ニ従事シ得ヘキ戸數ヨリ推定スルモノ	一三一
二	東北六縣ノ實例ニヨルモノ	一三二
三	本道ノ現況ニヨルモノ	一三二
四	桑園ニ使用シ得ヘキ面積ヨリ推定スルモノ	一三三
五	需給ノ關係ヨリ推定スルモノ	一三五
六	結 論	一三六
第八	蠶種製造ノ將來	一三七
一	蠶種製造ノ利トスル點	一三七
二	蠶種製造ノ不利トナル點	一三八
第九	蠶絲業ニ對スル將來ノ方針及施設	一四〇
一	方 針	一四〇
二	施 設	一四〇
(一)	補助事業	一四一
(二)	蠶種及桑苗配付	一四二
(三)	指導及講習	一四三

321
144

産業調査報告書 (第八卷)

農家副業

本道農家ノ副業經營ハ農家經濟上輕視スベカラザル地歩ヲ占ムベキモノニシテ之ガ過去現在ノ實狀ニ鑑ミ將來ニ對スル策案ヲ立ツルノ研究ヲナスハ最モ緊要ノコトニ屬セリ而カモ本道開拓日尙淺ク農業組織未ダ固定セズ從テ副業ノ普及遅々トシテ進マズ實績ノ微スベキモノニ至ツテハ其種類頗ル少クシテ研究資料ノ甚ダ貧弱ナルヲ覺ユルハ頗ル遺憾トスルトコロナルモ亦已ムヲ得ザルニ出ヅルモノナリ今以下數章ニ分カチテ記述スルトコロアルベシ

本調査ニ於テ「農家ノ副業」トハ農業本來ノ性質上ヨリ區別セル農業ノ主業ニ對セル副業ノ謂ヒニ非ラズシテ本道普通五町歩農家ノ餘力ヲ利用シテ經營シ得ベキ生産業一切ヲ意味セルモノナリ是レ本調査ヲ特ニ「農家ノ副業」ト題シテ「農業ノ副業」ト區別セル所以ナリ

第一 副業經營農家戸數並生産額

一 副業生産額及販賣價額一戸當表 (大正元年度調)

支區別	副業生産額	販賣價額	農家戸數	農家一戸當生産額	同販賣價額	副業經營農家戸數	同生産額	同販賣價額
函館	4,500,000	3,500,000	1,510	2,980	2,319	5,150	7,700	6,000
檜山	3,500,000	2,500,000	8,470	3,305	2,951	2,660	2,760	2,700
室蘭	10,000,000	7,500,000	7,700	13,117	9,740	11,600	15,000	12,000
札幌	17,287,000	12,488,000	23,800	7,263	5,246	6,800	15,000	13,700
後志	10,177,000	7,486,000	25,900	3,930	2,891	9,800	10,700	10,000
空知	15,130,000	11,210,000	26,300	5,753	4,263	14,000	15,000	14,000

農家副業

農家副業

備考 本表澱粉薄荷等ノ生産價額ニハ原料價額ヲモ含ムヲ以テ純粹ノ副業生産價額ト見ルベカラザルモ原料生産ト加工トハ經濟共通ノ場合多ク加工ノ分ノミヲ計算スルコト困難ナルヲ以テ暫ラク其儘之ヲ掲出セリ
備考 副業ヲ有スル農戶數ハ一戸ニシテ一種以上ノ副業ヲ有スルモノアルヲ以テ重複計上セラレタルモノアリ

三、副業 區支應別表 (大正元年度調査)

區支應別	副業種類	副業經營農戶數	生産額	價額	總販價額	販路及取引方法
函館	養蠶	六	二、三〇〇	八、一〇〇,〇〇〇	七、六〇〇,〇〇〇	函館區商人ニ直接販賣ス多クハ現金取引ナリ
	養禽	二七	一、三〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	四、五〇〇,〇〇〇	仲買人ニヨリ主トシテ函館ニ販賣ス取引ハ多ク現金ナリ
	養畜	一五	一、五〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	本道各地及府縣へ仲買業者ノ手ヲ經テ販賣スル者多シ
	澱粉	一七	三、〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	主トシテ函館ノ商人ニ販賣スルモ直接東京、大坂下ノ關ニ移出スルモノモアリ
	果樹	五	一、〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	販路ノ主ナルハ函館トス商人又ハ需用者ニ現金ヲ以テ直接販賣スルモノ多シ
	薪炭	八	一、〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	道内需要者ニ直接販賣ス
	植樹	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	地元附近直接需要者ニ販賣ス
	畜産製造	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
	畜産收入	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
	製絲	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
計		五、三三	一、三〇〇,〇〇〇	一、三〇〇,〇〇〇	一、三〇〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	副業經營農戶數	生産額	價額	總販價額	販路及取引方法
檜山	養蠶	五	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	行商人又ハ仲買人ニヨリ大部他管内ニ移出セラル取引ハ現金ナリ
	養禽	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	行商人又ハ地元取引人ニヨリテ幾分地元ニテ需要セラル、モ多クハ函館ニ移出ス
	養畜	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	全部他管内ニ移出ス牛馬仲買人ニ販賣シ又ハ軍馬トシテ購買セラル
	澱粉	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	現金取引ヲ以テ仲買人ニ販賣ス地元ニ於テ消費スルハ僅少ニシテ多クハ他管内ニ移出ス
	果樹	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	地元ニ於テ販賣シ函館ニ移出セラル、モノ僅少クハ大凡現金取引トス
	薪炭	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	大部分地方ニ於テ販賣スルモ又仲買人ニ移出スルモノモアリ
	製材	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	地元番業者ニ販賣ス取引方法ハ多クハ現金取引ナリ
	製茸	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	地元商人ニ現金ニテ販賣ス
	製絲	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	仲買人ニ依リ他管内ニ販賣ス多クハ現金取引ナリ
	計		三、〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	副業經營農戶數	生産額	價額	總販價額	販路及取引方法
室蘭	養蠶	三〇〇	一、三〇〇	六、七三三,〇〇〇	六、三三三,〇〇〇	仲買人ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ販路ハ室蘭函館、横濱等トス
	養禽	三六八	四、五〇〇	一〇、〇〇〇,〇〇〇	九、五〇〇,〇〇〇	地元附近市街又ハ室蘭町ニ販賣ス多クハ商人ノ來タルヲ待テ取引ス
	養畜	三九八	一、八〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、八〇〇,〇〇〇	家治市場或ハ牛馬商等ノ仲介ニテ道内各地又ハ府縣ニ販賣ス
	澱粉	七	三、〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	地元商人又ハ他ヨリ來ル仲買人ニ販賣ス
	果樹	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	附近市街ノ需要者又ハ商人ニ販賣ス多ク現金取引ナリ
	薪炭	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	自家用ニ過ギズ
	製絲	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	室蘭、函館、小樽、札幌ニ直接又ハ仲買人ノ手ヲ經テ販賣スルモノ多シ
	計		一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	副業經營農戶數	生産額	價額	總販價額	販路及取引方法
農家副業	養蠶	三〇〇	一、三〇〇	六、七三三,〇〇〇	六、三三三,〇〇〇	仲買人ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ販路ハ室蘭函館、横濱等トス
	養禽	三六八	四、五〇〇	一〇、〇〇〇,〇〇〇	九、五〇〇,〇〇〇	地元附近市街又ハ室蘭町ニ販賣ス多クハ商人ノ來タルヲ待テ取引ス
	養畜	三九八	一、八〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	二、八〇〇,〇〇〇	家治市場或ハ牛馬商等ノ仲介ニテ道内各地又ハ府縣ニ販賣ス
	澱粉	七	三、〇〇〇	七、〇〇〇,〇〇〇	五、〇〇〇,〇〇〇	地元商人又ハ他ヨリ來ル仲買人ニ販賣ス
	果樹	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	附近市街ノ需要者又ハ商人ニ販賣ス多ク現金取引ナリ
	薪炭	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	自家用ニ過ギズ
	製絲	三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	室蘭、函館、小樽、札幌ニ直接又ハ仲買人ノ手ヲ經テ販賣スルモノ多シ
	計		一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	

農家副業

室蘭	支應別	副業種類	農戶數	生一ヶ年	價額	價販	販路及取引方法
運送業	養蠶	養蠶	七	三〇〇	八七五〇〇	八七五〇〇	室蘭町及地元ノ需用者又ハ販賣業者ニ販賣ス現金取引多シ
杣業	養蠶	養蠶	一〇	二〇〇	八六〇〇〇	八六〇〇〇	
製材	養蠶	養蠶	一〇	二〇〇	七〇〇〇〇	七〇〇〇〇	
桐樹	養蠶	養蠶	二〇	三〇〇	九〇〇〇〇	九〇〇〇〇	
機業	養蠶	養蠶	三三	一五〇	七五〇〇〇	七五〇〇〇	
製絲	養蠶	養蠶	二六	一五〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	
計			一〇六	一〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	

札幌	支應別	副業種類	農戶數	生一ヶ年	價額	價販	販路及取引方法
養蠶	養蠶	養蠶	一八	三〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	札幌ニ於ケル仲買商人ニ現金ヲ以テ購取スルモノ多シ
養蠶	養蠶	養蠶	一九	三〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	札幌ヨリ來ル商人ニ現金ヲ以テ取引スルモノ多シ
養蠶	養蠶	養蠶	一五	三〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	同
養蠶	養蠶	養蠶	一	三〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	札幌區及小樽區ニ於ケル商人ニ販賣スルモノ多シ
果樹	養蠶	養蠶	一三	三〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	地元又ハ札幌ノ商人ニ販賣シ浦潮方面へ輸出スルモノアリ現金取引多シ
薪炭	養蠶	養蠶	七	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	地元農家又ハ札幌ノ商人ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
薪炭	養蠶	養蠶	七	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	主トシテ札幌其他市街斯出シ直接需用者又ハ商店へ即時拂シテ販賣スルモノ多シ
運送業	養蠶	養蠶	一	三〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	札幌ニ於ケル新業者へ直接現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
杣業	養蠶	養蠶	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	札幌ノ需用者へ直接販賣スルモノ多シ
製材	養蠶	養蠶	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
機業	養蠶	養蠶	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
計			八三	三〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	一三、〇〇〇、〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生一ヶ年	價額	價販	販路及取引方法
竹細工	竹細工	五	一〇〇	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	附近農家ニ販賣スルモノ多シ
賃収入	賃収入	一六	一〇〇	五、三〇〇、〇〇〇	五、三〇〇、〇〇〇	附近農家及札幌ニ於ケル需用者ニ販賣ス
植樹	植樹	五	一〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	
製絲	製絲	三	一〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	
計		二九	一〇〇	一七、三〇〇、〇〇〇	一七、三〇〇、〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生一ヶ年	價額	價販	販路及取引方法
薪炭	薪炭	二〇	三〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	地元ノ需用者及商店へ販賣スルモノ最モ多シ又仲買人ニヨリ生産少キ附近山村ニ販賣ス現金取引ナリ
養蠶	養蠶	一〇	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	取引ニ凡テ地元ニテ現金トシ小樽、札幌方面ヨリ仲買人來ルモノニ販賣スルモノ多シ
果樹	果樹	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	地元ニ於ケ小賣シ又ハ附近市街ノ商店ニ販賣ス代金ハ即時拂多シ
澱粉	澱粉	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	小樽、函館、岩内等ノ商人ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
其他賃収入	其他賃収入	五	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	概テ山元ニ於テ地元ノ販賣業者及指物業者ニ現金ヲ以テ販賣ス
製材	製材	五	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	小樽へ運搬シ商店及一般需用者ニ販賣ス取引ハ現金多シ
植樹	植樹	九	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	販賣ニ到ラズ
養畜	養畜	一五	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	主トシテ馬仲買業者ニヨリ道日各埠又ハ青森岩手ノ諸縣ニ販賣ス現金ニテ取引スルモノ多シ
養禽	養禽	四	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	地元需用者及商店へ販賣スルモノ及小樽、岩内ノ方面ヨリ仲買人ニ販賣スルモノアリ代金ハ即時拂ナリ
製絲	製絲	三	三〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	
計		八二	三〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	販賣額	販路及取引方法
空知	養蠶	三,〇〇五	一七,五三三	三,五七五,〇〇〇	三,五七五,〇〇〇	地元商人又ハ組合ニ販賣スルモノアリモ多クハ札幌地方ヨリ仲買人ノ來賣ルモノ多シ現金販賣ス小樽ヨリ道内各市場ニシテ多クハ仲買人ノ手ヲ經テ販賣シ現金取引ナリ
	養禽	二,三三三	七,三三六	一,一七五,〇〇〇	一,一七五,〇〇〇	店ニ直接販賣ス取引ニシテ仲買人ノ媒介ニヨリ又ハ肉店ニ直接販賣ス取引ハ現金トス又ハ小樽地方ヨリ來ル仲買人ニ販賣ス取引ハ現金ヲ主トシ路販ハ大坂、横濱其他本道各市場トス
	養畜	二,二八六	一,〇八八	一,五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	地元及附近市街ニシテ各市場ヨリ來ル仲買人ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
	果樹	四〇五	三,四一四	二,六七〇,〇〇〇	二,六七〇,〇〇〇	地元及附近市街ノ商店ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
	薪炭	五,四三七	二,四六六,三三三	九,〇八八,〇〇〇	九,〇八八,〇〇〇	地元附近市街ハ搬出ノ上直接需者及薪炭商ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ木炭ハ札幌地方ノ仲買人ニ販賣スルモノ多シ
	薪炭	一,〇三六	二,一〇六,三三三	三,〇七五,〇〇〇	三,〇七五,〇〇〇	附近ノ販賣業者及指物業者へ現金ニテ販賣スルモノ多シ
	運送業	三三三	一,〇〇〇	八,〇三三,〇〇〇	八,〇三三,〇〇〇	地元需用者ニ販賣シ亦内地府縣ニ移出スルモノアリ
	柳業	一四八	〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	附近市街ノ商店又ハ農家ニ直接販賣スルモノ多シ
	畜産製造	一	三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	札幌ニ於ケル商店ニ委託販賣スルモノ多シ
	機業	四	三	一三,〇〇〇	一三,〇〇〇	地元及附近市街ニ小賣ス
	竹細工	三	〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	地元ノ商店及需用者ニ現金以テ直接販賣スルモノ多シ
	蠶表	五	〇	二〇,〇〇〇	二〇,〇〇〇	地元商店へ現金ニテ販賣スルモノ多シ
	氷豆腐	二	〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	薪切搬運除雪等ノ人夫ヲ主トス
	其他質收入	六	〇	八五,〇〇〇	八五,〇〇〇	
計		一,〇三〇		三六,三三三,〇〇〇	三六,三三三,〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	販賣額	販路及取引方法
上川	養蠶	九三	八,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	主トシテ旭川、札幌、小樽等ヨリ來ル仲買人ニ現金販賣ス
	養禽	四,一六	一八,三三〇	一,三三〇,〇〇〇	一,三三〇,〇〇〇	現金ニシテ附近市街及前記區方面ヨリ仲買人ノ來ルモノニ販賣スルモノ多シ
	養畜	九六	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	市街ノ肉店又ハ牛馬仲買人ニ販賣スルモノ多シ
	果樹	一〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	地元販賣ハ少數ニシテ札幌、小樽、旭川等ノ商人ニ現金販賣シ之等商人ヨリ本道各地及府縣ニ移出スルモノ多シ
	薪炭	一,一〇〇	二,一六二	七,五〇〇,〇〇〇	七,五〇〇,〇〇〇	地元附近ニ小賣スルモノ多シ
	運送業	八,三三五	四,九三三,三三三	三,六七一,〇〇〇	三,六七一,〇〇〇	本ダ幼稚ニシテ自家用ヲ主トス其販賣スルモノハ旭川町ニシテ現金取引ス
	柳業	三三	四,一〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	旭川町ノ如キ市街ニ各自運搬ノ上需用者商店へ現金販賣スルモノ多シ
	其他質收入	六	〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	運搬販賣セルモノ多シ
	製材	七	〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	本業ハ各季ノ主ナル副業ニシテ運搬物ハ木材ヲ主トセリ
	製絲	六	〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	凡テ仲買人ノ手ヲ經テ道外ニ移出ス取引ハ現金又ハ定期拂懸等トス
計		一,六二七		二〇,三三三,〇〇〇	二〇,三三三,〇〇〇	地元需用者ノ依頼ニ依リ製材シ現金ヲ以テ取引ス

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	販賣額	販賣及取引方法
河西	養蠶	二七	八,四八〇	二,九三三,〇〇〇	二,九三三,〇〇〇	附近市街地ヨリ仲買人ノ來ルヲ待ツテ販賣シ現金取引ヲナスコト多シ
	家禽	六〇	一五,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	一,五〇〇,〇〇〇	同
	澱粉	二	一〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	帯廣町へ搬出シ商人ニ販賣スルモノ多ク大凡現金取引トス
	製絲	三	〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	自家用

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販額	販路及取引方法
河西	薪炭	800	1,500,000	1,500,000	1,500,000	附近市街ノ需用者ニ現金販賣スルモノ多シ
	運送業	7	500	500	500,000	
	柿業	5	200	200	200,000	
	養畜	3,233	7,600,000	7,600,000	7,600,000	
	製絲	2	1,100,000	1,100,000	1,100,000	
	薄荷	3	800,000	800,000	800,000	
計		4,556	11,300,000	11,300,000	11,300,000	

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販額	販路及取引方法
增毛	養畜	2,808	7,000,000	7,000,000	7,000,000	販路ハ主トシテ小樽區ニシテ地元及福井縣ニ販賣スルモノアレバ少數ナリ仲買人ニヨルモノ多ク現金取引多シ
	養禽	1,212	3,300,000	3,300,000	3,300,000	雅内及地元附近ニ販賣ス取引ハ現金ニシテ仲買人ニヨルモノ最モ多シ
	養畜	321	700,000	700,000	700,000	多クハ仲買人ノ手ヲ經テ附近部落へ販賣ス
	薪炭	3	2,000,000	2,000,000	2,000,000	小樽港へ移出シ全地商人ニ販賣ス代金即時拂ノコト多シ
	運送業	12	10,000,000	10,000,000	10,000,000	地元附近市街及利尻嶋へ直接或ハ商人ニヨリ現金販賣ヲナスモノ多シ
	薄荷	3	800,000	800,000	800,000	
	製材	2	1,000,000	1,000,000	1,000,000	仲買人ニ販賣ス現金取引多シ
	椎茸	2	300,000	300,000	300,000	全部小樽港へ輸出シ三井物産會社及小樽木材會社ト特約ヲ結ビ販賣スルモノ多シ
	機業	1	100,000	100,000	100,000	小樽へ卸賣ニ地元附近市街へ小賣シ現金取引多シ
計		6,661	24,400,000	24,400,000	24,400,000	部落ニテ現金販賣スルモノ多シ

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販額	販路及取引方法
宗谷	養禽	55	1,100,000	1,100,000	1,100,000	地元附近ノ需用者ニ現金ヲ以テ販賣スルモノ多シ
	養畜	22	3,700,000	3,700,000	3,700,000	販路ハ雅内町ニ於ケル商店ニシテ全町へ搬出シ現金ヲ取引ヲナスモノ多シ
	薪炭	2	1,000,000	1,000,000	1,000,000	仲買人ニ依リ雅内町へ搬出スルモノアレバ多クハ地元附近ノ商店又ハ需用者ニ現金ニテ小賣ス
	運送業	1	1,100,000	1,100,000	1,100,000	
	薄荷	1	300,000	300,000	300,000	源粉ニ同シ
	柿業	1	200,000	200,000	200,000	
	其他貨收入	4	800,000	800,000	800,000	地元及附近市街ノ指物業者並ニ商店ニ現金ニテ販賣スルモノ多シ
	製材	4	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
	養畜	2	1,100,000	1,100,000	1,100,000	
	製絲	2	1,100,000	1,100,000	1,100,000	
計		156	11,300,000	11,300,000	11,300,000	

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販額	販路及取引方法
浦河	養畜	10	1,800,000	1,800,000	1,800,000	
	副業種類					
	農戶數					
	生産額					
	價額					
	價販額					
	販路及取引方法					

支應別	副業種類	農戶數	生産ケ年	價額	價販額賣	販路及取引方法
浦河	養畜	一六八	一、八〇〇	一、〇四〇,〇〇〇	六八〇,〇〇〇	地元販賣ヲ主トシ現金ニテ取引スルモノ多シ
	養畜	一、三五五	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	五〇〇,〇〇〇	家畜市場ニ於テ販賣ヘルモノ多ク販路ハ本道各地方ヲ主トセリ
	澱粉	二	三、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	現金ニテ地元小賣ヲナスモノ多シ
	木炭	三三	一、〇〇〇	四、七五〇,〇〇〇	四、七五〇,〇〇〇	地元附近ノ需用者ニ小賣スルモノ多シ
	製材	一	五、七〇〇	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	販路ハ函館及府縣トス
	果樹	八	二〇	七五〇,〇〇〇	一五〇,〇〇〇	仲買人ノ手ヲ經テ現金ニテ販賣スルモノ多シ
	運送	九	一〇	六〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	填方ニテ現金取引ニテ小賣スルモノ多シ
	運送	三	一	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
	製絲	三	一	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
計		一、七三三		六、四〇〇,〇〇〇	三、〇六〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生産ケ年	價額	價販額賣	販路及取引方法
釧路	養畜	三	一、八〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	地元及附近ノ主ナル市街ニ於テ商人ニ現金ニテ販賣スルモノ多シ
	養畜	三三	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	牛馬商ニヨリ地元附近ヘ販賣スルモノ多ク現金取引ヲ普通トス
	薪炭	〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	附近各村市街ヘ搬出シ直接需用者又ハ商店ヘ現金取引ニテ販賣ヘルモノ多シ
	運送	一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	同
	其他貨收入	一、七七一		六、二〇〇,〇〇〇	六、二〇〇,〇〇〇	
計		一、七七一		六、二〇〇,〇〇〇	六、二〇〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生産ケ年	價額	價販額賣	販路及取引方法
根室	養畜	五	八、〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	根室町其他附近ノ需用者ニ直接販賣スルモノ多シ
	養畜	五	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	根室町商店ヘ販賣ス現金取引ノ法ニ依ルモノ多シ
	計	一〇		一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	亦仲買人ノ手ヲ經テ道内各地ニ移出スルモノ多シカラズ

支應別	副業種類	農戶數	生産ケ年	價額	價販額賣	販路及取引方法
網走	養畜	三三	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	三、〇〇〇,〇〇〇	管内各市街地ヘ販賣シ現金取引ナルコト多シ
	養畜	二、五二五	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	管内各地ヘ主トシテ牛馬商ニヨリ販賣スルモノ多シ
	澱粉	一、二一六	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	函館小樽ヘ販賣ス多クハ仲買人トノ間ニ現金販賣ヲナス
	薪炭	一、一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	管内各地ニ販賣ス現金取引ヲ主トセリ
	柳業	一、七三〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	仲買人ノ手ヲ經テ存貯ニ移出シ又ハ府縣商人或ハ外國商人ニ直接移出販賣ヲナスモノモ尠ナカラズ
	薄荷	五〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	管内地方ヘ販賣ス
	實荷	八	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
	製絲	一〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	
計		九、七三三		一、〇〇〇,〇〇〇	一、〇〇〇,〇〇〇	

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販	額賣	販路及取引方法
函館區	澱粉	三	四、六〇〇	七、五〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	仲買人ノ手ヲ經テ内地ニ移出スルモノ多シ
計							

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販	額賣	販路及取引方法
小樽區	養禽	四	一、八〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	市街ニ直接販賣シ現金取引ノコト多シ
	養畜	三	八、一〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	全
	養樹	三	三、七〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	全
計							市街ニ直接販賣スルヲ主トシ種レニ本道各地分ニ移出セラル

支應別	副業種類	農戶數	生産額	價額	價販	額賣	販路及取引方法
札幌區	養禽	三〇〇	四、九〇〇	四、九〇〇	四、九〇〇	四、九〇〇	市街ニ直接販賣シ現金取引ナルコト多シ
	養畜	一八	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	全
	養樹	一	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	市街ニ直接販賣スルヲ主トスルモノ又ハ道内各地方及道外ニ移出セラル、コトアリ
計							

四、各支應特殊副業状況表

支應名	種	類	状	况
札幌	炭	製スゴ製作	本業ハ野原ニ生育スル炭ノ類ヲ以テ製造スルモノニシテ本炭製造地方ニハ盛ニ製造セラレ冬期間ニ於ケル婦女ノ仕事トシテ有利ナルモノナリ是等ハ特ニ奨励セザルモ本炭ノ産出増加スルニ伴フテ増進スベシ	
空知	製	製絲製綿	原料ハ現今ニ於テ生産スル丈ケハ有リ但シ蠶繭ノミニシテ本綿糸モ糸類ノ原料ハナシ此原料ハ織ヲ仕入ルモノナリ冬期間ニ於テ副業ニシテ秩父別、浦臼ノ兩村ニ於テ生産セラル未ダ十分發展ヲ見ルモカワズ	
上川	笠	製	原料ハ充分ニシテ今後數十年間ハ不足ノ告ケザルベシ四十一年度管下各密村ニ於テ製笠ニテ製造ニ従事スルモノナリ冬期間ニ於テ副業ニシテ適當ノ手工ト認ム市場ニ販賣シタルニ需用ハ相當ニアルモ内地産ニ比シテ廉價ナラザル爲メ充分ナル生産ヲ見ズ	
後志	苹果袋	製	原料ハ西洋紙ヲ用フルヲ以テ他ヨリ購入ヲ爲シ果樹栽培者ノ使用スルモノ其數量極メ多ク要スルモノ以テ自製ノミニテ足ザル爲メ冬期間婦女ノラシテ製作シテシム方法ハ從三尺巾二尺二寸五分西洋紙ヲ製出ス地方ノ若葉栽培業者ノ需要ニ止マラ未ダ輸出セズ	
	葎	製	生産額ハ一校ニ五單位ニテ沿岸各地ノ鱈漁場並ニ各團等へ除々實行キ販路益々擴張スルノ傾アリ	
	葎	製	原料ハ山間至ル處ニ産スルナリ以テ冬期各戸ニ於テ製作ニ従事ス	
	葎	製	原料ヲハ自産ニシテ堤防地へ栽植ス曾テ戰役當時甚ダ盛ナリシモ今ヤ昔日ノ如クナラザルモ將來及經營ノ基礎確立セハ振興ノ見込アリ	
函館	柵柳及野柳	細工	柵柳及野生柳ノ二種ニシテ野生柳ヲ主トシ柵柳ヲ其他種々ノ容器ニ製造シ江差町ニ於テ之ガ傳習所ヲ開設セルモノアリモ傳習希望者少ナク予斯ノ成績ヲ納ムル能ハザリキ生産高少キ爲メ地方ノ需用ヲ充スルニ止ル木ノ材市價ニ販賣セラレズ	
	籠	細工	鮎田村戸籠細工ヲ副業トスルモノアリ原料ハ其附近地方林ヨリ年々獲者ノ拂下ヲ受ケ多クハ年額一戸百五十圓ニ上ガリ一時盛ナリシモ今衰イタリ	
	花	製	原料ハやなめ草ト稱シ地方沼澤ニ生ス之ヲ副業トシテ製作スルモノナルモ未ダ確立セル副業ニアリザルモ望ヲ囑スベキモノアリ	
	炭	製	本地方生産ノ本炭後裝ハ從來炭籠一依ニ筑入リ用ヒタリシガ近年漸次運テ用ヒ現今コト始メ吟詠トナレバ炭ヲ製スルニ從事スルモノナキニ至レリ然レモ本炭ノ品質改良ト共ニ價格騰貴シ吟詠十貫成ニテハ賣買上不便ヲ感スルヲ以テ運込ヲ禁止シ炭籠後裝ニ更メテ運込トシ五五ニ至レリ原料タル茅ハ御料林官林其運込所ニ發生シ材料豊富ナリ後裝ノ運込ニ更メテ結果ハ炭ノ輸入トシテ得ルナリ	
	玉蜀黍	製	従業者僅々三四戸ニシテ生産額モ微々タルモノニ過ギザルモ品質ノ實用ニ適スルト原料輸入ノ要ナキハ新業獎勵上頗ル便ナリトス原料不足ナシ	
河	燕麥	製	原料不足ナシ製作ニ従事スルモノハ一戸ニ數百俵ヲ作ルモノアリ從來商家ハ燕麥俵ヲ拒否シタルヲ以テ之シモ近來商店ニ於テモ燕麥俵ヲ歡迎スルノ傾向アルガ故ニ漸次従業者數ヲ増加セントス	

根室	籠編	曾テ本地分魚村ノ注文ニテ網スキナ副業トシタルモノアリシモ一時生産額約三千五百圓金百八十圓位ニ及ビシコトアリシモ今ヤ不振ナリ
網走	疊表製造	管下常呂郡野付村ニ於テ間草ヲ培養シ冬期副業トシテ一家舉ゲテ之ニ従事スルモノ目下五戸ニシテ其ノ最多数製作ハ疊表百枚以上申間八十枚小間六十五枚製作セリ
宗谷	白子簾製造	白子採簾ハ主トシテ春季越冬期ニ於テ白子乾燥ニ用テ他乾草代用品ニ使用スルモノニシテ原料ハ野生ノ薄茅ニ稱ルル生産地ハ利尻ニシテ杏形見島兩村ニモ多少製造スルモノアルモ原料不足ノ爲メ産額鮮少ナリ
製材	刺手掛製造	本業ハ漁期中最モ需用多ク婦女子ニ取リテハ好適ノ手工業ナルヲ以テ曾テ戦時出征軍人家族保護ヲ機トシ製材ニ當テ時相應ノ製作者モアリテ盛大ナリシカ現今ニモ僅カニ自家用製作者アルニ過ギズ
業		木炭製造業ニ亞ク有利ノ業ナリ冬期間労働ノ爲メ木材業者ニ雇傭セラレテ製材ニ従事スルモノナリ

第二 副業ノ必要

本道農業經營上副業ノ經營ハ其農業組織ノ上ヨリ見ルモ其收入擴充ノ上ヨリ見ルモ甚ダ必要ノコトニ屬セリ就中冬期副業一至リテハ特ニ其必要ヲ認ムルモノニシテ其理由タル言フ迄モナク本道ノ氣候ハ寒冷ニシテ降雪期長ク一年中其半ハ屋内借居ノ止ムヲ得ザルモノアリ且時ニ氣候不良ノ結果穀實稔實セズシテ凶歉ノ厄ニ遭フコトアリ然レバ耕種上改良ヲ必要トスルト、モニ各種副業特ニ冬期副業ヲ營ミ勞力ノ利用分配ヲ行ヒ以テ收益ノ増加ヲ圖ルハ農家經濟上最モ適實ナルコトニ屬セリ然ルニ山來本道農家ノ副業特ニ冬期副業不振萎靡驚クベキモノアリ今其理由ヲ案ズルニ

- 一、本道ノ農業ハ其新開時代又ハ地味肥沃ノ地方ニアリテ一般ニ其粗收入ノ豊富ナルコト府縣ノ比ニアラザルモノアリ從ガツテ其收入比較的僅微ナル副業經營、如キヲ忽諸ニ附スルノ傾向ヲ馴致スルニ至リシコト
- 二、本道冬期間ノ氣温寒冽ナルヲ以テ屋外ハ勿論屋内ニ於テモ冬期副業經營ノ作業ニ堪エザルモノ、如ク農家ヲシテ理想スルニ至ラシメシコト
- 三、本道開拓以來日尙淺ク爲メニ其農業經營ノ組織未ダ固定セザルモノアリ從ガツテ副業ヲ以テ農業經營ノ必須要素ト見做スノ域ニ進マザルコト
- 四、本道農業經營組織ハ府縣ニ比シ比較的大ナルヲ以テ農家ハ不知不識ノ間ニ副業ノ如キ僅微收入ノモノヲ閉却スルニ至ルコト

ルニ至ルコト

- 五、從來副業ノ利益ハ其何種タルヲ問ハズ餘リニ僅微ナリシコト
 - 六、副業ノ最モ普遍的ニシテ且ツ有利有望ノモノ極メテ少ナカリシコト
- 以上各因ハ皆本道農家副業不振ノ要因ト認ムベキモノナルモ時代ノ推移ト智識ノ進歩ハ到底長ク現状ニ放任スルヲ允ルスベカラザルモノアリ今ヤ本道農家ハ彌々其好望副業ヲ選擇シテ熱誠之ニ着業シ一面ニ於テハ適當ノ研究ヲ重テ以テ事業ノ改達ヲ圖ルコト共ニ副業收益ヲ増大スルノ方法ヲ講ジ以テ農家經濟ノ上進ヲ圖ルノ緊要ヲ告グルノ時運ニ逢着シツ、アリ

第三 副業ノ選擇及其種類

抑モ副業ノ選擇ハ其地方ノ風土主業ノ種類及規模原料ノ供給成品ノ販路金融ノ便否等ニヨリ一樣ニ云フベカラザルモ大体ニ於テ左ノ七項ヲ以テ必須標準トナサルベカラズ

- 一、材料ヲ其地方ニ豊富ニ獲得シ得ベク又獲得上困難ナカルベキコト
- 二、主業トノ勞力分配宜シキヲ得テ苟クモ主業ヲ侵蝕スルノ患ナカルベキコト
- 三、冬期副業ニアリテハ氣候上ヨリモ勞力供給上ヨリモ都合良キモノナルベキコト
- 四、老幼男女夫々ニ着業シ得ルモノナルコト
- 五、販路永久のニシテ確實ナルモノナルベキコト
- 六、企業ニ際シ資本ヲ多ク要セザルモノナルコト
- 七、資本ノ回收可成速カナル性質ノモノナルコト

以上ノ標準ニ依リ本道農家ノ副業ヲ選擇シ其將來ノ見込ニヨリ區別スレバ左ノ如シ

一、將來有望ト認ムルモノ

- (一) 畜産
- (二) 養蠶

農家副業

農家副業

- (三) 果樹栽培
- (四) 澱粉製造
- (五) 藁細工
- (六) 木炭製造
- (七) 家庭製絲及機業
- (八) 繭細工
- (九) 杞柳細工
- (一〇) 野生柳細工
- (一一) 養蜂
- (一二) 除虫菊製粉
- (一三) 竹細工
- (一四) 薄皮
- (一五) 木工品
- (一六) 筵
- (一七) 桐
- (一八) 栗
- (一九) 薄荷製造
- (二〇) 椎茸
- (二一) 澤庵漬
- (二二) 製紙

(二三) マニラ麻繫

二、將來研究ヲ要スルモノ

- (一) 養魚
- (二) 水豆腐
- (三) 水大根
- (四) 湯葉
- (五) 寒天
- (六) 經木細工
- (一) 蘆粟製糖
- (二) 製網
- (三) 醋酸石灰製造
- (四) 運送業

三、將來有望ナラザルモノ

以下其各種ニツキ逐次記述スベシ

第四 各種 副業

一、將來有望ト認ムルモノ
畜産

農業經營ノ要素トシテ家畜飼養ノ有要ナルノミナラズ飼畜ハ亦農家副業中最モ重要ナルモノナリトス副業トシテ飼畜ノ種類ハ牛、馬、豚、綿羊、家禽等ニシテ農家ハ家畜家禽ノ適當數量ヲ飼養シテ農耕ニ使役シ肥料ヲ獲得シ運搬ニ利用シ以テ農業經營ノ要素ヲ充實スルノ外ニ副業トシテ適當ニ經營シ其産仔乳汁、卵等ニヨル收益ヲ擧グルニ努ムベキナリ蓋シ副業

農家副業

トシテノ畜産ハ飼料農ノ合理的節減ヲ圖リ飼養製造等其方法ヲ謬ラズ經營宜シキヲ得ルニ於テハ必ズヤ有利安全ノモノタルヲ得ベキヲ以テナリ尙本項ノ詳細ハ畜産ノ部ニ於テハ(産業調査)ニ掲記スルヲ以テ茲ニ之ヲ省略セリ

養蠶

養蠶ハ本道農業副業中ノ主要ナルモノニシテ其勞力配當宜ロシキヲ得經營其道ヲ得ルニ於テハ主業ノ進行ヲ障害スルコトナクシテ農家ノ臨時収入ヲ増大スルコト著シ而シテ養蠶副業トシテ適スル理由ハ(一)斯業ノ沿革久シクシテ本邦農家皆其技術ニ多少ノ心得アルコト(二)其販路比較的確實ニシテ新ニ開發ヲ要セザルコト(三)老幼男女皆夫々ニ着業シ得ルコト(四)企業ニ際シ資本ヲ多ク要セズ其回收速カナルコト等之ナリ副業トシテ養蠶從業上注意スベキコト不撻就中其生産額ノ品質産額ノ佳蹟ナルヲ期スルタメニ必須ノ技術ヲ熟達セザルベカラザルコト次ニハ其販賣上ノ設備ヲ整ヒ商權ノ失退ヲ免ルベキコト並ニ勞力配當ノ上ヨリ最モ適量ノ飼育ヲナサザルベカラザルコトノ如キ最モ重要トナス今畑作五町歩經營水田二町五反經營ノ小農家ニツキ勞力配當ヲ見ルニ左表ノ如クニシテ畑作地方ニアリテハ春夏蠶ノ經營ニ適スルモ水田地方ニアリテハ事ロ夏蠶之ニ適セルモノ、如シ其飼養量ハ春夏蠶共蠶量約四匁ヲ適當トシ之ニ要スル桑園ハ一反五畝ヲ標準トスルヲ得ベシ左ニ其配當表ヲ掲グ

地積五町歩ニシテ秋小麥四反、裸麥二反、燕麥五反、豌豆二反、大小豆一町五反、馬鈴薯一反五畝、薯蕷八反、玉蜀黍一反五畝、粟一反、稻黍一反、菜豆五反、蕎麥三反他ニ蔬菜ヲ耕作シ春夏蠶蠶量四匁桑園一反五畝ヲ經營スル場合ニ於ケル月別勞力配當ハ左ノ如シ

月別	可給總勞力	作物ノ行事	同上所要勞力	蠶業行事	同上所要勞力	勞力合計	差
四月	八〇	整地、播種、肥料運搬	六九	桑園中耕肥培	六	七四、九	五、一
五月	同	除草中耕	三、五	「掃立飼育桑園除草」	一五〇	三八、五	四一、五
六月	同	第二回中耕培土收穫	四八、一	同上收穫殺蛹桑園除草	二〇〇	六八、一	一一、九
七月	同	收穫	六二、〇	同上	一、五	六三、五	一七、五
八月	同	收穫	六二、〇	同上	一、五	六三、五	一七、五

月別	可給總勞力	作物ノ行事	同上所要勞力	蠶業行事	同上所要勞力	勞力合計	差
九月	三〇	同上及播種	五、〇	同上	一、五	五七、五	二二、五
十一月	同	馬耕	一〇、〇	桑園剪枝結束	六、〇	一六、〇	一四、〇

同上作物ノ場合夏蠶蠶量四匁桑園一反五畝經營ノ勞力配當表左ノ如シ

月別	可給總勞力	作物ノ行事	同上所要勞力	蠶業行事	同上所要勞力	勞力合計	差
七月	八〇	第二回中耕培土收穫	四八、一	掃立桑園除草	五、〇	五三、一	二六、九
八月	同	收穫	六二、〇	上表收穫殺蛹桑園除草	三三、〇	八四、〇	四、〇

備考 記載外ノ月ニ於ケル桑園勞力ハ前表同斷ニシテ不足ヲ感ゼザルガ故ニ茲ニ省ケリ以下準之

水田地方ニ於テ春夏蠶蠶量四匁桑園一反五畝經營ノ場合ニ於ケル勞力配當表左ノ如シ

月別	可給總勞力	作物ノ行事	同上所要勞力	蠶業行事	同上所要勞力	勞力合計	差
六月	八〇	實播田ノ除草採直、移植	四、〇	掃立	一五、〇	五六、〇	二四、〇
七月	同	收穫	二〇、〇	收穫殺蛹	九五、〇	一五、〇	一五、〇

備考 本表ハ移植水田八反實播水田一町七反合計二町五反ヲ經營シ畑作ハ蔬菜類少額ノ外ハ兼營セザルモノトス次表

モ亦同シ

同上地方ニ於ケル夏蠶四匁桑園一反五畝ノ場合ノ勞力配當表左ノ如シ

月別	可給總勞力	作物ノ行事	同上所要勞力	蠶業行事	同上所要勞力	勞力合計	差
七月	八〇	實播田ノ除草移植田ノ除草	五、〇	掃立	一五、〇	八〇、〇	〇
八月	同	收穫	七、四	收穫殺蛹	三三、〇	三〇、四	四九、六

以上各表ニヨリ觀察スルニ畑作地方ニ於ケル春蠶飼育及夏蠶飼育ハ其主業トノ勞力配當稍佳ニシテ只八月ニ夏蠶ニ少額ノ勞力不足ヲ告グルガ如キモ之等ハ農作及飼蠶技術ノ習熟ニヨリ容易ニ節約ヲ得ルトコロナルヲ深ク憂トナスニ足ラザルモノ、如シ茲ニ於テカ畑作地ノ方ニアリテハ春蠶夏蠶共ニ蠶量四畝桑園一反五畝ノ經營ニ適スルヲ認メ得ベシ次ニ米作地方ニアリテハ其勞力配當夏蠶ニ於テ甚ダ佳ナルモ春蠶ニ於テハ七月ニ多數ノ勞力不足ヲ告グルヲ以テ水田地方ニ於テハ夏蠶ノ經營最モ適シ春蠶ハ多少其飼養量ヲ減ズルノ要アルベシ尙本項養蠶ニ關シテハ別ニ「蠶絲業」ニ於テ調査スルトコロールヲ以テ茲ニハ其詳述ヲ畧セリ

果樹栽培

農家副業トシテ果樹栽培ハ其經營法宜ロシキヲ得ルニ於テハ或ハ傾斜地ノ利用トナリ或ハ農屋周圍ノ利用トカ最モ有利ナルモノニシテ普通ノ地ニアリテハ農家一戸ニ其農屋ノ周圍ニ二十本位ヲ栽植スルヲ可トス若シ其以上ナレバ病虫害ノ防除ニ勞力多ク從ツテ失敗ニ了ルベシ今各戸二十本ヲ栽植シ經營其宜ロシキヲ得ルニ於テハ其總收入少クモ六十圓以上ニ上ルベク斯クシテ各戸ノ收穫ヲ蒐集シテ共同販賣組合ヲ設ケ検査ノ上販出スルトキハ以テ一村ノ副業收入ノ見ルベキモノアルニ至ルベシ左ニ二十本ニ對スル收入計算ヲ掲グベシ(華果空知郡瀧川村梨子札幌郡平岸村ニ於ケル大正元年ノ調査)

出	部										收入之部				收支差引之部(益)																		
	勞働賃銀		肥料費		農具及除却費		運搬費		果計		收量	地産元單價		小賣單價	地産元單價	小場相額		地元販賣ノ場合		小場相額ノ場合													
	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸		甲	乙			丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸										
18,375	15,100	9,750	7,650	800	850	1,780	3,100	65	8,45	56	6,45	40	9,95	44,00	0,20	0,23	88,000	101,300	22	155	31	525	38,005	35	355	44	525	51	2,05				
16,875	13,900	9,000	7,650	800	850	1,780	2,900	62	57	0	62	67	0	47	67	0	0	23	77,000	88,550	14	430	23	330	29	37	0	25	980	34	880	40	880
15,625	13,300	8,625	7,650	800	850	1,780	2,600	57	22	0	48	77	0	42	5,95	0,20	0,23	66,000	75,900	8	780	17	220	23	0	0	18	680	27	130	32	905	
16,750	13,400	8,650	5,750	650	1,120	1,650	2,600	51	120	45	9,50	40	9,20	27,5	2,00	2,20	75,000	82,500	23	880	29	0	50	34	780	31	380	0	580	42	280		
15,250	13,200	7,400	5,750	650	1,120	1,650	2,700	47	77	0	42	9,00	37	3,20	2,00	2,30	62,000	68,200	14	230	19	100	24	680	17	0	80	26	11	0	30	880	
14,500	11,600	7,525	5,750	650	1,120	1,650	2,450	43	200	28	6,00	33	2,45	270	2,00	2,20	54,000	59,400	10	800	15	400	20	755	16	200	20	800	26	1,55			

單價ニ五ヶ年間ノ上中下区當總收入ヲ總生産額ニテ除キ平均ヲ求メタリ但シ厘以下總テ四捨五入トス又地ヨリ小樽迄ノ運賃ヲ要スルハ勿論ナリトス又果樹園ハ札幌附近ヲ調査シタリ二町歩以上ノ耕作者ハ利益

以上各表ニヨリ觀察スルニ畑作地方ニ於ケル春蠶飼育及夏蠶飼育ハ其主業トノ勞力配當稍佳ニシテ只八月ニ夏蠶ニ少額ノ勞力不足ヲ告グルガ如キモ之等ハ農作及飼蠶技術ノ習熟ニヨリ容易ニ節約シ得ルトコロナルヲ深ク憂トナスニ足ラザルモノ、如シ茲ニ於テカ畑作地ノ方ニアリテハ春蠶夏蠶共ニ蠶量四匁桑園一反五畝ノ經營ニ適スルヲ認メ得ベシ次ニ米作地方ニアリテハ其勞力配當夏蠶ニ於テ甚ダ佳ナルモ春蠶ニ於テハ七月ニ多數ノ勞力不足ヲ告グルヲ以テ水田地方ニ於テハ夏蠶ノ經營最モ適シ春蠶ハ多少其飼養量ヲ減ズルノ要アルベシ尙本項養蠶ニ關シテハ別ニ「蠶絲業」ニ於テ調査スルトコロアルヲ以テ茲ニハ其詳述ヲ畧セリ

果樹栽培

農家副業トシテ果樹栽培ハ其經營法宜ロキヲ得ルニ於テハ或ハ傾斜地ノ利用トナリ或ハ農屋周圍ノ利用トカ最モ有利ナルモノニシテ普通ノ地ニアリテハ農家一戸ニ其農屋ノ周圍ニ二十本位ヲ栽植スルヲ可トス若シ其以上ナレバ病虫害ノ防除ニ勞力多ク從ツテ失敗ニ了ルベシ今各戸二十本ヲ栽植シ經營其宜ロキヲ得ルニ於テハ其總收入少クモ六十圓以上ニ上ルベク斯クシテ各戸ノ收穫ヲ蒐集シテ共同販賣組合ヲ設ケ検査ノ上販出スルトキハ以テ一村ノ副業收入ノ見ルベキモノアルニ至ルベシ左ニ二十本ニ對スル收入計算ヲ掲グベシ(苹果空知郡瀧川村梨子札幌郡平岸村ニ於ケル大正元年ノ調査)

種別	地位	支 出 之 部										收 入 之 部				收 支 差 引 之 部 (益)																									
		種 苗 費		裝 裝 費		地 代		勞 働 賃 銀		肥 料 費		農 具 及 農 具 修 理 費		運 搬 費		收 入		地 代 賣 買 價 差		小 樽 相 場 之 差																					
		數	單 價	數	單 價	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙	甲	乙																				
苹果	上	4	080	320	箱 604	2,100	12,000	18,575	15,100	9,750	7,650	800	820	1,780	3,100	65	845	56	645	40	935	4400	020	023	83	000	101	200	22	155	31	355	38	005	35	44	555	51	205		
	中	4	080	320	箱 7	45	16,500	9,000	16,875	13,900	9,000	7,650	800	820	1,780	2,900	63	570	53	670	47	670	3850	020	023	77	000	88	550	14	430	23	330	29	370	25	980	34	880	40	880
	下	4	080	320	箱 7	38	13,400	7,000	15,625	13,300	8,025	7,650	800	820	1,780	2,600	57	220	48	770	42	935	3200	020	023	66	000	75	900	8	780	17	230	23	005	18	680	27	130	32	905
日本梨	上	5	060	300	箱 100	12,000	10,000	16,750	13,400	8,650	5,750	650	1,120	1,650	2,900	51	120	45	350	40	220	375	200	220	75	000	82	500	23	880	29	050	34	780	31	380	56	550	42	280	
	中	5	060	300	箱 7	80	10,000	8,000	15,250	12,300	7,900	5,750	650	1,120	1,650	2,700	47	770	42	300	37	320	310	200	220	62	000	68	200	14	230	19	100	24	680	17	080	26	110	30	850
	下	5	060	300	箱 7	60	7,800	6,000	14,500	11,600	7,525	5,750	650	1,120	1,650	2,450	43	200	38	600	33	245	270	200	220	54	000	59	400	10	800	15	400	20	755	16	200	20	800	29	155

備考 需品中ニハ藥品及袋ヲ含ミ單價ニ五ヶ年間ノ上中下反當總收入ヲ總生産額ニテ除キ平均ヲ求メタリ但シ厘以下總テ四捨五入トス又小樽相場ニ對シテハ生産地ヨリ小樽迄ノ運賃ヲ要スルハ勿論ナリトス又果樹園ハ札幌附近ヲ調査シタリ二町歩以上ノ耕作者ハ利益半減スル如シ

澱粉製造

本道馬鈴薯澱粉製造事業ハ副業トシテ比較的有利好望ノ事業ニシテ特ニ新開地ノ如キ交通不便ノ地ニアリテハ其地力ヲ利用シテ馬鈴薯ヲ栽植シ其容量ヲ縮少シテ搬出スルヲメニ澱粉製造ヲ行フコトハ最モ有利ノ事ニ屬セリ其販路ハ道内消費ノ外東京、大坂、神戸、馬關等ヲ中心トシテ其他ノ各府縣及露領浦鹽、朝鮮ニモ達シ本邦人口増殖ニ伴隨シテ自今彌々優勢ノ傾向ヲ示セリ(生産、販路状況等ハ飲食物工業編參照)

副業トシテノ澱粉製造ハ目下主トシテ人力、馬力及水車ノ三種ニ依レルモノ多分ヲ占ムルガ故ニ左ニ其各種ノ收支計算ヲ掲グベシ

一 人力ニヨルモノ

膽振國山越郡八雲村 (大正元年調査)

收入ノ部

一日ノ製造高	二三、五五〇	澱粉二百八十五斤 一斤ニ付金八錢ノ割
計	二三、五五〇	二番粉及粕代七十五錢

支出ノ部

原料	一三、一二五	原料三百七十五貫代
人夫賃	三、三〇〇	製造及乾燥人夫賃
荷造費	一、九〇〇	函、卷鐵代等
雜費	三〇〇	原料入吹代其他
計	一八、六二五	

差引益金四圓九拾貳錢五厘

農家副業

二、馬力ニヨルモノ

石狩國上川郡士別村 (同)

収入ノ部

一日ノ製造高	五八、二〇〇	澱粉七百五十斤一斤ニ付金七錢五厘 二番粉及粕一圓九十五錢
計	五八、二〇〇	

支出ノ部

原料	三〇、〇三〇	原料九百拾斤代	
馬及人夫賃	六、〇〇〇		製造及乾燥人夫賃
荷造費	四、〇〇〇		函、卷鐵代等
雜費	三、〇〇〇		原料代及乾燥用薪
計	四三、〇三〇		

差引益金拾五圓拾七錢

石狩國空知郡角田村 (同)

収入ノ部

一日ノ製造高	三五、五〇〇	澱粉四百斤一斤ニ付金八錢四厘 二番粉二十二斤半及粕代一圓九十錢
計	三五、五〇〇	

支出ノ部

原料	一七、五五〇	原料五百八十五貫代	
人夫賃	四、六〇〇		製造及乾燥人夫賃
荷造費	一、二五〇		函、及卷鐵代
雜費	二、三九四		薪代其他
計	二五、七九四		

差引益金九圓七拾錢六厘

三、水力ニヨルモノ

膽振國山越郡八雲村

収入ノ部

一日ノ製造高	五七、九六〇	澱粉六百八拾四斤一斤ニ付金八錢貳厘 二番粉及粕代一圓八拾七錢貳厘
計	五七、九六〇	

支出ノ部

原料	三一、五〇〇	原料九百貫代	
人夫賃	三、六〇〇		製造及乾燥人夫賃
荷造費	四、五〇〇		函、卷鐵代等
雜費	二、八八八		原料入代其他
計	四一、八八八		

差引益金拾六圓七錢貳厘

農家副業

石狩國空知郡士別村

收入ノ部

一日ノ製造高	五三、三〇〇	澱粉六百三拾斤一斤ニ付金八錢
計	五三、三〇〇	二番粉三拾五斤及粕代二圓九十錢

支出ノ部

原料	二九、四〇〇	原料九百拾貫一貫三錢二厘三毛餘
人夫賃	四、〇〇〇	製造乾燥人夫賃
荷造費	二、〇〇〇	函、卷鐵代
雜費	二、四一〇	薪代等
計	三七、八一〇	

差引益拾五圓四拾九錢

副業トシテノ澱粉經營上注意スベキハ(1)產品々質ノ優良ナルベキコト從ツテ販リニ大量ノ製造ヲナサザルコト(2)需給ノ關係ヲ審ニスベキコト(3)販賣ノ方法宜シキヲ得ルコト(4)原料ノ改進製造法ノ改良ニ努ムルコト等ニシテ要スルニ販賣生産組合及同業組合ノ一員トシテ他ノ組合員ト一致ノ行動ヲ執リ慎重ノ經營ニ從ハザルベカラザルナリ

藁細工

本道年々需要藁細工品ハ土木繩、中間繩、大倉繩其他ノ繩類ヲ始メトシ蓆類草鞋、爪甲以下各種特殊品等ニシテ殆ド其全部ハ伏木、敦賀、三國、酒田、加賀、佐渡、東京、七尾、青森、新潟、土崎、伯耆方面ノ移入ニ仰ギ其移入額ヲ見ルニ大正元年ニ於テ繩類ハ二百三十五万二千六百三十九圓、蓆類ハ百四十一万五千六百二十圓、叭類ハ十六万六千〇三十九圓、草鞋ハ二十万四千三百四十六圓其他二万六千七百七十二圓ノ巨額ニ上レリ而モ拓殖ノ進歩ハ一年其輸入ノ増額ヲ來タス

ベキハ疑フベカラザルモノナリ、然ルニ從來本道農家ニシテ是ニ從業スルモノ殆ドナク萎靡不振ヲ極メ、アル而カモ道産藁ハ府縣産藁ニ比シ劣リ其製品モ亦劣レルハ事實ナルモ製繩ハ荷造等ノ如キ堅固ヲ要スルモノニ使用セバ損傷速カナルヲ免レザルベキモ他ノ使用ニハ差支ナク特ニ草鞋草履爪甲其他ノ特殊品ニ製シテ充分ノ用途アリ販路亦確實ナルモノアルガ故ニ自今道産ノ原料ヲ撰擇シテ充分打方ニモ注意シ能ク柔軟ナラシメタル後製造セハ一層改良シ得テ或程度迄ハ輸入品ニ對抗スルヲ得ルコト決シテ難事ニアラザルベシ

藁細工ノ收支

(大正二年札幌郡白石村ニ於ケル調査)

手製土木繩

支出

金五拾錢

收入

金壹圓五拾錢

一九賣上代

大倉繩

支出

金六十錢

收入

金二圓

中間繩

一九賣上代

金十七錢七厘

支 出

出來上四貫七百匁ニ對シ原料二割五分減ニテ七貫六十七匁代

金四十錢

收 入

差引益金二十二錢三厘

一九一日半ニテ仕上グルモノトシテ一日ノ賃收入十五錢ニ當ル

草 鞋

金三錢二厘

支 出

藁一貫八十匁一ノニ付金三錢ノ割減歩前者ニ同様ナリ

金二十四錢

收 入

草鞋十五足(一足金二錢一人一日作製工程)

差引益金二十錢八厘

支 出

金二錢七厘

藁九百匁(一貫匁ニ付金三錢ノ割)

金十八錢

收 入

藁草履十五足(一足ニ付金一錢五厘一日一人ニテ作製スル工程)

差引益金十五錢三厘

ツマゴ

金三錢二厘

支 出

藁一貫八十匁一貫目ニ付金三錢ノ割

收 入

金十九錢

ツマゴ六足分(一足ニ付金四錢一人ニテ作製スル一日ノ工程)

差引益金十九錢六厘

二 斗 吠

支 出

金六錢二厘

藁二貫〇四十八匁代藁一貫ニ付三錢ノ割

收 入

金三十二錢

吠八枚代(一枚ニ付金五錢二人ニテ作製スル一日ノ工程)

差引益金二十五錢九厘(一人平均十五錢八厘)

器 械 繩

製繩器製ハ内地産ノモノニテモ手製ニ比シ多少ノ廉價ナルコト及器械製ハ其技術ノ熟否ニ與カルコト多大ナルモノナルガ
今熟達ノ功ヲ積ミタルモノ、收支ヲ示セバ左ノ如シ

一人一日ノ收支計算

支 出

金六十五錢

原料藁十三貫目一貫五錢(但シ本道優良藁)

金三錢

器械捐料

計金六十八錢

收 入

金一圓十一錢

大倉繩十貫匁代一九二圓ノ割

差引賃收入四十三錢

以上稻藁ヲ原料トスル場合ノ藁細工ニ關シ掲記スルトコロアリシガ尙ホ本道藁細工トシテ閉却スベカラザルモノハ稻藁以

外ノ稿稈類即ハチ燕麥稈及ライ麥稈ヲ原料トスル藁細工之ナリ燕麥稈ハ目下主トシテ俵製作ニ用ヒラレ用途廣クライ麥稈ハ稿稈類中ノ優良品質ノモノニシテ之ヲ以テ製セル草鞋草履蓆繩等ハ持久力ニ富ミ用途廣クアルベキモ本道ハ未ダ殆ンド其着業ヲ見ザルノ狀況ナルハ遺憾トスベシ茲ニ於テ燕麥ライ麥稈ノ藁細工ハ爾今畑作地方ニ適當ニ獎勵スルノ有利ナルヲ認ムルモノナリ

木炭製造

製炭業ハ副業トシテ亦有利ナル事業ナリ蓋シ本道拓殖ノ進歩ト共ニ木炭ノ需要追歲増加シ來タリ今ヤ道内需要ヲ充タスノミニテモ其額尠少ノモノニアラザルナリ更ラニ進ンデ販路ヲ府縣ニ求メンカ豊富ナル材料ヲ有スル本道木炭ノ將來頗ル有利ナリト云フベシ先ニ道廳ガ山鼻ニ於テ行ヒル檜崎式木炭製造ノ經濟調査ヲ見ルニ最モ好成绩ナリシモノハ一竈ニ就キ楓炭九十四錢五厘、檜炭一圓十三錢ノ利益ヲ擧グルヲ得タリ即チ左表ノ如シ

收入

種類	一竈製炭量	五貫單價	計
楓炭	八五	二二〇	三、九一〇
檜炭	九〇	一三〇	四、一四〇

支出

樹種	貫材數	價料額	製炭人夫數	同一人賃金	夫總賃
楓	三四〇	四五〇	三五	五〇〇	一、七五〇
檜	三六〇	四五〇	三五	五〇〇	一、七五〇

(二)

俵數	單價	價額	一俵ニ付炭	計損	料計
楓一七枚	〇二五	四二五	〇二〇	三四〇	二九六五
檜一八枚	〇二五	四二五	〇二〇	三六〇	三、〇一〇

收支差引

種類	收入	支出	差引	益
楓炭	三、九一〇	二、九六五	九四五	
檜炭	四、一四〇	三、〇一〇	一、一三〇	

備考 原料ハ伐採後二十日乾燥セシ百二十年以上ノ老木ヲ用ヒ平均一俵ノ利益楓金五錢六厘檜金六錢三厘ニシテ其燒炭ノ歩留ハ竈ヨリ出デタルノ後碎損セザルヲ以テ檜ハ楓ヨリ結果良好トス

依之觀ルトキハ製炭業ハ少シク技術ヲ改良スルニ於テハ頗ル有利ノ副業ニシテ竈ノ築造費ノ如キハ、與行十尺巾七尺胴高二尺(右試驗ニ供セシモノ)ノモノニテ金七圓五十錢(内譯四十錢延十枚十錢繩代、一圓五十錢土管其他雜費五圓五十錢及人夫十一人等ナリ)ノ少額ニ過ギザルガ故ニ經營者ニシテ斯業ニ勵精スルニ於テハ改良竈三個ヲ築ラバ極メテ容易ノコトナルベク而カモ一竈ニ對スル製炭高一ヶ月五回トシテ一回ノ炭出高五貫目俵十七俵ヲ得ラルベク然ル時ハ三竈ニ對スル總俵數ハ十五回ニシテ二百五十五俵トナルベシ而シテ其炭燒人夫賃及木材人夫費ヲ差引一俵平均六錢ノ純益トスレバ一ヶ月優ニ十五圓ノ純益ヲ獲得シ得ベキ計算ナリトス木炭製造事業ノ農家副業トシテ恰適ナルコト知ルベキナリ

本道木炭ノ府縣及外國ノ移輸出ニ關シテハ現下ノ狀況未ダ固定セル商狀ヲ有セズ只石炭其他雜貨積取ノタメ來航セル船舶ノ歸航ニ際シテ船荷ノ都合上格安運賃ヲ以テ之ヲ積載スル場合ニ行ハル、ニ過ギザルモノ、如シ然レバ其移輸出ニ關スル收支計算ノ如キモ殆ンド何等準據スベキモノナキハ遺憾トスベシ然レドモ過去數年間函館小樽室蘭各港ヨリ移輸出セラレタル數量ヲ調査スルニ明治四十一年ニ移輸出總量三万五千八百八十四貫其價格三千四百四十二圓ニ過ギザリシモノ四十二

年ニ至リ激増シテ三十九万六千五百十五貫其價格三万百一圓トナリ爾來其勢ヲ持續シ明治四十三年ニハ二十八万九百二十四貫價格一万八千五百四圓トナリ四十四年ニハ更ニ増シテ五十四万七千七百九十二貫價格四万二千三百五十七圓ニ上ホリ大正元年ニハ四十三万一千九百七貫價格三万八千六百二十一圓同年ニハ三十六万六千一百六貫價格三万二千二百八十四圓ヲ計上スルニ至リシノ事實ニ徵スレバ木炭ノ移輸出ハ其經營方法ニシテ宜ロシキヲ得ルニ於テハ或程度迄ハ必ラズヤ望ヲ囑スルニ足ルベキモノナルハ亦明カナリト云フベシ

家庭製絲製綿並機業

農家副業トシテ座操製絲及製綿ヲ行フハ中繭以下原料トスル場合ニ甚ダ利益アルモノナリトス蓋シ養蠶ノ成績如何ニ其好ナル年柄ニアリテモ機械製絲ニ適セザル汚繭繭玉繭薄皮繭ノ如キ品質不良ノ繭多キハ三割少キモ二割ヲ生ズベシ而シテ之等中繭以下ノ不良繭ハ購買者少ク價格甚ダ廉ナルヲ以テ今若シ之ニ加工シテ真綿又ハ紬絲等トスルトキハ購買者モ多ク價格モ亦大ナルヲ得ルヲ以テナリ而カモ如上製絲製綿ニ要スル器械器具ハ極メテ單純ニシテ價格モ甚ダ廉ナルヲ以テ小農家ノ容易ニ備ヒ付ク得ルモノナルヲ以テ須ラク養蠶家ハ其上繭ハ繭ノ儘ニテ販賣シ中繭以下ハ宜ロシク製絲製綿ノ加工ヲナシ販出又ハ自家用トスルノ方針ヲ執ルハ甚ダ緊要ノコトニ屬セリ左ニ副業トシテ農家ガ蠶量四匁ヲ掃キ立テ收購一石ノ場合ニ於ケル中繭以下原料トスル製絲製綿ノ收支計算ヲ掲グベシ

製絲製綿收支計算表 (大正二年札幌區ニ於ケル調査)

種別	數量	繭總價	同單價	生		單價
				繭	絲	
中繭	八〇	一、四四〇	一八〇	二、八八〇	一〇匁ニ付	四十五錢
玉繭	一、〇〇	二、二五〇	二五〇	三、九六〇	四匁ニ付	四十五錢
下繭	七〇	三、三五〇	一〇〇	一、六八〇	一〇匁ニ付	四十七錢
計	二、五〇	四、〇四〇	一、〇〇	八、五四〇		

前記收支表ニヨルトキハ原料繭ハ四圓〇四錢ニ過ギザルニ不拘加工後ノ價額ハ優ニ八圓五十四錢ニ上ホリ即チ其差四圓五十錢ノ利益ヲ擧グルヲ得ベシ而シテ加工ノタメニ要スル勞力ハ總計女六人ニテ充分ナルヲ以テ其賃銀一圓五十錢(一人二十五錢ノ割)ヲ差引クモ尙ホ三圓ノ利益ヲ得ルノ算當ナリトス家庭製絲製綿ノ副業トシテノ有望ナル知ルベキナリ次ニ家庭機業ニ就キ述ベンニ

家庭機業ハ本道農家ヲシテ冬期農閑ヲ利用シテ各自所要ノ織物ヲ自給セシメ亦販路確實ナル場合ハ之ヲ販出スルメニ必要ナル副業ノ一種ナルガ如キモ輒近工場紡績業隆昌ニシテ交通經濟ノ發達セル今日ニ當リ本道何レノ地ニ於テモ斯業ノ經營ヲナスガ如キハ必ズシモ有利安全ノ事業ニアラザルハ明瞭ナリト云フベシ蓋シ斯業ハ限地的ニ有利ノ副業トシテ認ムベキモノニシテ即ハチ移住久シクシテ團結心ニ富ミ且其地方ノ經濟狀態ガ婦女勞力ヲ要スルコト少ク從テ賃銀低廉ナル地方ニシテ一面ニ於テハ他ニ有利ノ工業發達ノ見込ナキ地方ニ限リ之ヲ獎勵シテ比較的ナル事情ヲ有スル地方ニアリテハ家庭機業ノ收支左表ノ如クニシテ其充分ノ利益ヲ示スモノアルヲ知ルベキナリ

機織物收支表 (福山町ノ調査)

種類	販賣價	原料費	製織工賃	消費稅	器具捐料	染料	差引益
木綿	一、一〇	五〇	一、一〇	七〇	一、〇〇	一、〇	一、〇
双子	一、三〇	五	一、〇	一〇	一、〇	一、〇	一、〇
瓦斯	一、五五	七五	一、二	三	一、〇	一、〇	一、〇
絹綿交縞(男縞類)	二、五〇	一、二五	四〇	一、八	一、〇	一、五	四九
絹綿交縞(婦人物類)	二、三〇	九〇	三、五	一、五	一、〇	一、〇	六七
絹綿交縞(夜具地類)	四、〇〇	二、三〇	六〇	三〇	一、〇	一、五	六二
糸織下等物	六、五〇	四、〇〇	九〇	五〇	一、〇	三〇	七
同中等物	九、〇〇	五、八〇	一、〇〇	七〇	一、〇	五〇	七

種類	販賣價	原料費	製織工賃	消費税	器具損料	染料	差引益
同上等物	二、〇〇	八、〇〇	一、三〇〇	一、〇〇	三、〇〇	五、〇〇	一、一七
七々子(中等物)	八、五〇	六、二〇	七、〇〇	五、〇〇	三、〇〇	〇	九、五
袴地(中等物)	一〇、〇〇	六、四七	一、二〇	八、〇〇	三、〇〇	五、〇〇	一、〇〇
御召(中等物)	九、五〇	六、二〇	一、〇五	七、五〇	三、〇〇	五、〇〇	九、七
風通(中等物ニテモ上ノ方)	一七、〇〇	一〇、〇〇	三、五〇	一、二〇	五、〇〇	五、〇〇	一、二〇
羽二重(前同)	八、〇〇	五、八〇	七、〇〇	五、〇〇	三、〇〇	〇	八、二
紋羽二重(前同)	一〇、〇〇	六、〇〇	二、〇〇	七、〇〇	三、〇〇	〇	一、〇〇

糸織ノ上等物ハ價格十二圓以上ノモノアレバ此邊ナレバ品物上等ナリ

七々子袴地、御召風通羽二重紋羽二重等ノ下等物ノ價格ノ差ハ糸織ノ價格ノ差ヲ標準トシ大差ナシ但シ風通及ビ紋羽二重ハ意匠模様等ニ依リ價格ノ点モ上下アルモノナリ

蘭 細 工

蘭草ヲ栽培シテ疊表吳座類笠其他ヲ製作スルコトハ本道農家ノ冬期副業トシテ亦有利ノ事業ナリトス、之レ獨リ製作品ノ需要多キニヨルノミナラズ勞力ノ分配上其ダ宜シキヲ得タルモノナルガ故ナリ、即チ蘭草ノ耕作ハ其最モ多忙ナル時期ハ八月中ニシテ即チ植付ハ八月中旬刈取ハ翌年八月上旬ナルヲ以テ水田地ニ於テハ勞力分配上支障ヲ感ズルコトナク而カモ其製造ハ冬期婦女ノ副業トシテ最モ適當スルヲ以テナリ今蘭草栽培及製造收支計算ヲ示サンニ北海道農事試驗場ニ於テ試驗セルモノ左ノ如シ但シ水田ニ蘭草(夏植)ヲ栽培シ且ツ其生産物ヨリ疊表等ヲ製造スル場合ニ於ケル反當勞力及收支計算ノ調査ナリ(明治三十八年調査)

栽培ノ部

勞力調査

作業別	男	女	摘 要
耕 鋤	三三〇		荒起シ春一回
整 地	五、六〇		中切、小切、代掻キ肥料入等
苗カキ		六、〇〇	蘭苗ハ購入スルモノトス
移 植		四、八〇	
除 草		九、六〇	除草二回
刈取乾燥	四四〇	一、四〇〇	
長短選別	四四〇		
計	一七、七〇	三四、四〇	

支 出

項目	金額	摘 要
地 代	三、〇〇〇	
農具費其他	一、二〇〇	建築物償却及修繕農具償却及修繕消耗品等
種 苗 費	六、〇〇	一坪ニ要スル苗ノ價二十錢トシ三十坪分
肥 料 費	一六、二〇〇	人糞尿五十石ニ付五十錢鯨粕三十貫目一貫目ニ付四十四錢
人 夫 賃	一六、五六五	男一人一日四十五錢十七人七分 女一人一日二十五錢二十四人五分
計	四二、九六五	

収入

種類	收	量	單	價	總	價
長蘭	(五斤)	一五〇〇〇	十貫目二付	三、〇〇〇	四五、〇〇〇	
六蘭	(八斤)	四八〇〇〇		二、〇〇〇	九、六〇〇	
とば蘭	(五斤)	二五、〇〇〇		一、〇〇〇	二、五〇〇	
計		二三三、〇〇〇			五七、〇〇〇	
差引益					一四、一三五	

(備考) 右ノ價格ハ三十六年ヨリ三十八年ニ至ル札幌區ノ時價ヲ平均セルモノトス

製造ノ部

項目	金額	摘要
原料蘭草	五七、〇〇〇	長蘭百五十貫目十貫目二付三圓、六蘭四十八貫目十貫目二付二圓、とば蘭二十五貫目十貫目二付一圓
立糸	三〇、一〇〇	疊一枚ニ要スル糸代ヲ七錢トシ四百三十枚分
織賃	四三、〇〇〇	疊表一枚ノ織賃ヲ十錢トシテ四百三十枚分
器械ノ修却及價	一一、〇〇〇	改良蘭機一台代十圓トシテ十年使用ニ耐ユルガ故ニ此價却代一圓織ノ修却費一反歩ノ原料ニ對シ一圓トス
計	一三、一〇〇〇	

収入

種類	類	數	量	單	價	總	額
長蘭製引透シ疊表		三〇〇	枚		三、五〇〇	一〇五、〇〇〇	
六蘭製中繼疊表		八〇			三、七〇〇	二九、六〇〇	
とば蘭製中繼疊表		五〇			三、〇〇〇	一五、〇〇〇	
計		四三〇				一四九、六〇〇	
差引益						一七、四〇〇	

(備考) 右ノ價格ハ三十六年ヨリ三十八年ニ至ル三ヶ年間札幌ノ市價ヲ平均シタルモノトス
右ノ計算ニヨルトキハ、一反歩ノ栽培地積ニ對シ蘭草ノ栽培ニ於テ十四圓十三錢五厘疊表ノ製造ニ於テ十七圓四十錢、合計三十一圓五十三錢五厘ノ純益ヲ舉グルモノトス

又小合源二郎氏ガ空知郡滝川村ニテ實地調査セル處ニ依ルニ蘭草栽培ノ收入ハ反當長蘭百八十貫(代金六十圓)六蘭六十貫目代金六圓トボ蘭代金四圓、笠蘭代金一圓五十錢合計七十一圓五十錢ヲ得タリ故ニ蘭草ノ儼販賣スルモ以上ノ如ク多大ノ收入アリ、而モ若シ之ヲ製作ストセバ優ニ百四十五圓九十二錢ヲ得ルノ算當ナリト云フ蘭草製造ノ有利スノ如シ面カモ從來其有利ヲ見テ所在其事業ノ興起ヲ見タルニ拘ハラズ現在ニ於テ其持續ナク不振ヲ極ハムルノ理由他ナシ蓋シ其主因タル栽培法當ヲ得ズシテ原料不良ナリシコト(從來ハ春植ニシテタメニ寸尺短矮ナリシガ改良法ハ夏期土用植ナリ)次ニ其企業方法宜ヲ得ズ且ツ販路ノ開拓ニ努力セザリシコト等即チ之ナリ
茲ニ於テ爾今水田地方ノ農家ニシテ其近傍農家ト共同シテ組合ヲ組織シ改良栽植法ヲ採用シ諸般ノ事項ニ注意ヲ加ヘ慎重ノ態度ヲ持シテ以テ斯業ノ經營ニ從フニ於テハ充分ニ移入品トノ競争地位ニ立チテ其防遏ニ貢獻スルヲ得ベク亦好望有利ノ農家副業ナルコト明カナリトス

農家副業 杞柳細工

杞柳ノ栽培ハ地味瘠薄ノ處或ハ傾斜地堤防地等ニ適シ特ニ水害地利用ノタメニ重視スベキ農閑利用ノ好箇副業ナリ其販路ハ日露戰爭當時頗ル好況ニシテ原料一貫二圓ニモ達セルガ戰後過冗生産ノタメニ反動時代ニ入り一貫三四十錢ニ下落シタルタメニ稍々悲境ニ陥リタル形勢アルモ然レモ今後追復其需要ヲ益シ又近時鞣原料トシテ海外ヘノ輸出亦昌ントナルノ形勢ヨリ見レバ決シテ悲觀スベキモノニアラザルナリ而シテ本道ニ於テ毎年府縣ヨリ移入スル額ハ精細ナル數字ヲ擧グル能ハザルヲ遺憾トスレモ亦頗ル多ク皆但馬方面ノ供給ニ仰ギツ、アリテ道産ハ洵トニ僅微ナリトス故ニ若シ本道ニ於テ該業ヲ經營シ成功スルニ於テハ只ニ其移入ノ防遏ナルノミナラズ其販路ノ範圍京坂ニ及ビ決シテ狭少ノモノトナサザル農家好箇ノ副業ナリトス今其ノ收支ヲ見ルニ一反歩皮剝原料收穫最大百貫平均八十貫ニシテ現下ノ相場五六十錢ナルヲ以テ四十圓乃至六十圓ノ粗收入トナル故ニ若シ原料ノ儘ニテ販賣スルモ少ナクモ三十圓以上ノ收入トナルベシ但馬ニ送附販賣ノ場合ハ運賃諸經費ヲ差引キ一貫四十錢ト見レバ可ナリ而シテ其支出ハ初年ノ生産費トシテ插苗二十貫目此代二圓插植勞銀ハ二人ニテ一圓二十錢一二年間ハ除草ニ一人六十錢ヲ要シ初年及二年目ニテ合計三圓八十錢ノ資金ヲ要シ其外二年目ヨリハ刈取人夫五人三圓皮剝一人二十貫トシテ十五人ニシテ九圓合計十二圓ノ仕拂ヒ以テ三十圓ノ收入ヲ擧グル得ルナリ若シ又一反歩八十貫目ノ原料ヲ行李ニ製造スルトセバ之レニヨリ平均八十圓ノ行李ヲ得ベキヲ以テ一個平均一圓二十錢ト見テ百〇六圓ノ總收入トナルナリ而シテ一日製造ノ工程ハ一潘二潘行李ニアリテハ二個半三潘ハ三個ヲ平均トセリ左ニ一日工程ノ收支計算ヲ掲グベシ

種類	收入		支出		差引益	備考
	一日工程	單位價	單位價	總額		
一 潘行李	二個半	一四〇〇	二五〇〇	五〇〇	二、二五〇	收入單位價ハ續付行李ノ價格トス
二 潘行李	同	一、一〇〇	二、〇〇〇	同	一、八七五	
三 潘行李	三個	一、〇〇〇	一、八〇〇	同	一、九七五	

右ハ製造ニ熟達セル専門職人ノ場合ナルモ若シ農家ノ手ニヨル場合ハ縁ナシニテ販出スベク縁ナシハ一個平均六十錢ト見

レバ充分ナルガ故ニ一潘二潘三潘平均ノ收入一日五十錢ト見ルヲ得ベシ又支出ハ一、二、三潘ノ平均十五錢ト見レバ差引四十五錢ノ賃收入トナルナリ

野生柳細工

野生柳細工ハ農家ノ副業トシテ爾今輕看スベキモノニアラズ蓋シ杞柳細工ハ其原料ヲ今後増殖スルニアラザレバ企業シ能ハザルモ野生柳ハ本道至ル處ニ繁殖シ且ツ堤防敷地特別使用規則(大正二年四月十三日 北海道廳令第三十四號)ノ發布以來堤防ニハ護岸用トシテ必ラズ適當ニ川柳ヲ栽植セシムル規程ナルヲ以テ此際年々其一年藥ヲ刈取リテ以テ種々ノ細工ヲナシ農村ノ副業收入ヲ圖ルトキハ其間趣味ヲ向上スル上ニ於テモ亦收益ノ上ヨリ見ルモ最モ切實ノ問題タルヲ疑ハズ野柳細工ハ春季又ハ秋季ニ剝皮シ得ル時機ヲ見計ヒ小枝跨ナキ一藥ヲ刈取リ剝皮乾シニ此乾燥シタル原料ヲ浸水シ四ツ割トナシ之ヲ薄ク銚引スルモノニシテ行李鞣提籃屑入果物入辨當等ヲ製造スルヲ得其習得程度ハ三本網代行李ノ賣品製作ヲナスニハ七八十日間手練ヲ積メバ足レリ今其收支ヲ見ルニ美濃判大ノ行李一個販賣價四十五錢ニ對シ原料二百本此代價金六錢原料調製料金九錢縁竹一組ノ原價及作料金五錢合計二十錢ヲ要スルヲ以テ差引金二十五錢ノ純益トナルナリ

養蜂

本道養蜂業ハ其飼育方法特ニ越冬ニ關スル研究ヲ重キシ結果今ヤ特別地方ヲ除キテハ漸次有望ノ域ニ進ミツ、アリ然レモ我國ニ於ケル蜂蜜ノ需用ハ目下甚ダ振ハズ主トシテ藥品矯味劑等ニ限ラレツ、アルヲ以テ農家ノ副業トシテノ養蜂ハ直ニ大規模經營ヲ許サザルベキヲ以テ先ツ自家用トシテ購用砂糖ノ省減ヲ期スルノ目的ヨリ始ムベシ此ニ適當スル飼量ハ一二群位ヲ適當トシ其收支計算左ノ如シ

第一年

内 譯

支出金二十六圓九十八錢

金二十圓

農家副業

種蜂一群代

但シ確實ノモノニシテ購入後飼育ニ關スル指導ヲ受クルノ便アルモノ(五—六牧群)箱付

金一圓五十錢 巢箱一個代 但シ大學式
 金六十錢 蜜刀ハ二十錢ヨリ九十錢位迄アリ
 金四十圓 覆面布一ケ三十錢 共同購入ノ場合ハ上等品ヲ購入スルモ可ナリ
 金四圓 分離器 分離器モ共同購入ヲ便トス
 金八十八錢 巢礎八枚代 一枚ニ付十一錢但シ大學式
 收入金三圓也 蜜二貫目代 但シ蜜ノ品質ニヨリ大坂相場二圓五十錢乃至二圓二十錢位ナレモ
 農家ノ副業生産品ナレバ最低ニ見積ル

差引金二十三圓九十八錢損

蜂群二個中一群購入一群分封

始業第一年目ニ於テ外國蜂一群ヲ買入レ之レヲ分封セシメ二群トシテ越冬セシムルモノトス

第二年

支出金十九圓七十六錢

内 譯

- 金七圓五十錢 巢箱五個
 - 金二圓 繼箱二個
 - 金六圓十六錢 巢礎五十六枚
 - 金一圓 隔王坂二個
 - 金五十錢 捕蜂器
 - 金二圓六十錢 燻煙器
 - 收入金二十二圓五十錢 蜜十五貫目 採蜜群二群ヨリハ各五貫宛十貫
他ノ分封五群ヨリハ各一貫宛五貫
 - 蜂群七個 内二群繰越 五群分封
- 差引益金二圓七十四錢

越冬シタル二群中一群ヲ以テ専ラ蕃殖セシメ五群トナシ他ノ一群ハ單ニ一群ヲ分封セシメテ專採蜜用ニ充ツ

第三年

支出金五十三圓九十八錢

内 譯

- 金十圓五十錢 巢箱七個代
 - 金十四圓 繼箱十四個代
 - 金六圓 隔王坂十二個代
 - 金十八圓四十八錢 巢礎百六十八枚
 - 金五圓 蜜入器 但シ一斗入瓶十箇
 - 收入金百五圓 蜜七十貫 蜜蠟ノ生産アルモ巢礎付寄用トシテ自家ニ消費スルヲ以テ算入セズ
 - 差引益金五十一圓二錢
 - 蜂群 十四個ノ中 七群繰越 七群分封
 - 七個ノ蜂群ヲ一群宛分封セシメ専ラ蜜ヲ採收スルコト、ナシタリ
- 第四年
- 支出金二十二圓五十六錢

内 譯

- 金十二圓 繼箱十二個代
- 金十圓五十六錢 巢礎九十六枚代
- 收入金百四十七圓 蜜九十八貫

差引金百二十四圓四十四錢益

蜂群十四個ハ悉ク繼箱ヲ用ヒテ専ラ採蜜ヲ行フモノトス

第五年

支出金ナシ

收入金百四十七圓

蜂蜜九十八貫

差引金百四十七圓益

以上ハ五年間ノ收入概算ニシテ採蜜専門ノ養蜂業ニ於テモ蜂群ノ増殖ハ之ナルモノナレバ別ニ算入セズ然レバ需用アル場
合ハ一群ヨリ一群位宛分封セシムルモ亦良法ト言フベシ唯副業トシテノ經營ナルヲ以テ累ヲ本業ニ及サシメズ可成手數ヲ
省略スルニ努ムベシ依之觀レバ其土地其他ノ天然事情ガ養蜂ニ好適シ且ツ農家ニシテ飼養上ノ經驗ヲ積ムニ於テハ農家副
業トシテ好箇有利ノモノナルヲ知ルベシ

除虫菊製粉

除虫菊ヲ栽培シ之レガ製粉ヲナスハ農家田圃ノ驅虫等ノタメ自家用トシテ必須業務ニ屬スルノミナラズ若シ適當範圍ニ於
テ之ガ製造販賣ヲナストキハ蓋シ有利副業ノ一タルヲ得ベシ除虫菊粉ノ販路ハ決シテ廣キモノニアラザルモ軌近歐米ニ於
テ其用途次第ニ擴張セラレ米國ニ於テハ加州ニ多少ノ栽培アリテ中央部ニ移出セラレ其大部分ハ歐洲ヨリ輸入シ相當ノ賣
行アリ府縣ニ於テハ大阪府和歌山縣最モ盛シニシテ滿韓地方及本道ニ移出シツ、ア、然レバ本道ニ於テ農家副業トシテ除
虫菊ヲ栽培製粉スルコトハ海外輸出ハ兎ニ角自家用及道内消費ノ供給ヲ目的トスルモ尙甚ダ有利ノコトニ屬セリ左ニ實例
ニヨリテ其反當收支計算ヲ掲グベシ

除虫菊反當收支計算 (上川郡永山村)

收入

金五十六圓

製粉九貫六百日代一斤七十錢

金 十五圓二十錢

蚊イブシ千六百本代一本九厘五毛

計 七十一圓二十錢

支出

地代 三圓五十錢

上等畑一反歩借入料

種子代 五十錢

苗育成費 一圓

假移植女二人 一人金二十五錢
其他一般ノ費用 一人金二十五錢

耕勸費 九十五錢

馬耕及把碎迄 馬一頭一圓五十錢
男一人四十錢ノ割ニテ各五分

整地費 四十錢

男一人金四十錢

肥料費 五十錢

下肥一臺金五十錢

施肥費 十五錢

男三分強

移植費 一圓五十錢

女六人分

除草費 九十錢

年三回分女三人六分

培土費 二十五錢

年二回分女一人

收穫費(花摘) 四圓五十錢

三回分女十八人

乾燥費(第一回)五十錢

一切

同 (第二回)十五錢

製粉ノ際火力乾燥炭代

製粉費 四圓八十錢

男十二人

材料費 四圓五十錢

罐及ペーパー代

裝飾費 三圓

女十二人粉入レヨリペーパー張り迄

雜費 一圓八十錢

五十罐入ボール箱及糸代並ニ荷造費ヲ含ム

苧取費 四十五錢
 乾燥費(第一回)六十錢
 同 (第二回)二十錢
 切斷費 九十錢
 製粉費 一圓五十錢
 袋入費 一圓五十錢
 袋紙代 三圓
 袋張費 六十錢
 袋縛費 九十錢
 糸代 十錢
 器具器械修繕費一圓
 合計 三十九圓六十五錢
 差引益 三十一圓五十五錢

女一人八分
 男一人五分乾燥ヨリ把束迄
 切斷後乾燥炭代
 三十把ニ付三錢
 男四人弱分一人四十錢ノ割
 男三人八分一人四十錢一日七百本割
 二千本代一本一厘五毛
 女二人四分々一日略千本ノ割
 女三人六分々一日七百本ノ割
 二千本分糸代
 農具及諸器械

竹細工

主トシテ本道ニ産スル根曲竹(篠竹)ヲ原料ニ供シ又府縣ヨリノ移入原料ヲ以テ竹細工ヲ行フ事ハ農家副業トシテ或ル程度迄有利ノ事業ナリトス、目下函館、檜山、増毛ノ三支廳管内ニ行ハレ遺繩籠、蜻籠、駄付籠、蓑籠、脊負籠、目籠、手籠、烏籠、等ノ籠類ヲ製作スルモ亦其他各種器具ノ細工ヲナシツ、アリ、原料ハ毎年九月ヨリ十一月迄ノ分ヲ圍竹ト稱シテ冬期間ノ材料ニ供ス、又地方ニヨリテハ春季伐採シ置キ冬期運出スルヲ例トス
 左ニ其一日收入及器具表ヲ掲グ (大正二年度龜田郡龜田村ニ於ケル調査)

種類	一日一人ノ工程	單	價	總價額	原料代	差引益	備考
手籠 <small>大</small>	一〇	一組	100	100	000	700	大ハ十斤入 小ハ五斤入
遺繩籠	二〇	一組	45	900	030	460	
五十集籠	二	一組	500	1000	250	500	
目籠	五	一組	60	300	030	150	
負籠	二	一組	400	800	300	200	
空籠入籠	一	一組	280	2800	1500	1300	三升入
茶碗籠	八	一組	100	800	010	690	但シ三組ヲ以テ 一個トス
馬籠	三	一組	40	1350	040	710	二番籠
鳥籠	六	一組	250	1500	080	1020	高ニ尺八寸 一尺六寸

一人ニ要スル細工品製造用具

種類	數量	單價	使用年限
錐	一	400	三
山	一	500	五
鉄	一	200	三
錐計	四	1,120	一

本道ニ移入スル竹細工ノ主ナル地方ハ佐渡、越中、越後、仙臺、東京等ニシテ年額凡ソ三方圓内外ナル可ク、其本道ニ於

テ製作スル竹細工品ノ主ナルモノハ内地ヨリ移入セザルモノ即チ重量容積等大ナル運賃ノ高價ナルモノニシテ此等ハ殆ド移入ナキヲ以テ道内ニテ製作シ補充シツ、アルナリ、然ルニ本道産竹細工品ハ一般ニ府縣移入品ニ比シ巧麗ナラザルモ堅牢ニシテ保存年限長キノ長所アリ、然シ從來價格ノ点ニ於テ往々府縣産品ノ壓倒ヲ受ケ悲境ニ陥ルコトアリシガ近時營業者ノ増加ト共ニ競争ノ結果所謂荒細工品ト稱スルモノハ殆ド府縣ヨリ移入ヲ仰ガザルニ至リタリ、而シテ農家副業トシテノ實例ヲ見ルニ地竹原産地トシテ有名ナル龜田郡赤川村ニ於テ曾テ舉村一致農家冬期副業トシテ竹細工教師ヲ招請講習シテ一時同村物産ノ一トシテ多少世ニ知ラル、ニ至リシガ賃收大ナラザルト時好ニ伴ハザルトニヨリ遂ニ廢退スルニ至リタリ要スルニ竹細工ハ本道農家副業トシテ地方状況ニヨリテ或程度迄ハ恰當ノモノト認ム可キモノニシテ向後其經營法ニ充分ノ注意ヲ拂ヒ獎勵スルニ於テハ必ズ効果アル可キモノトス

薄皮

本道ニ於テ味噌、漬物、餅、肉類其他ノ包用ニ供スル薄皮ノ需要ハ年々一万圓内外ニシテ本道中其製造ヲナスモノアリト雖モ以テ全道需要ヲ充タスニ足ラズ府縣ノ移入ヲ仰ギツ、アリ而シテ本業ノ好望ナルハ大坂商人ガ本道ヨリ丸太材ヲ移入シ經木トシ再ビ本道ニ移出シ相當利益ヲ擧ゲツ、アルニヨリ明カナリ製造器械ニ二種アリ一ハ原動力ヲ使用スルモノニシテ一ハ人力ヲ用フルモノナリ前者ハ工場組織ニ必要ナルモノニシテ後者ハ普通ノ場所ニ取付シ得テ農家ノ副業ニ適スルモノナリ其價格二十五圓位ナリ原料ハ榻材松材ヲ用ヒ三四ヶ月練習スレバ以テ相當ノ利益ヲ擧グルヲ得ベシ曾テ河西支廳ニ於テ之ガ講習會ヲ開キタルコトアリシガ成績良好ナキ價格ハ函館相場ニテ一號(幅四寸長サ一尺六寸)一把ニ付キ金五錢二號(幅五寸長サ一尺八寸)一把ニ付キ金七錢、三號(幅六寸長サ二尺)一把ニ付キ金十錢、四號(幅七寸長サ二尺二寸)一把ニ付キ金十五錢ニシテ各種中賣行ノ最モヨキハ一號及二號ニシテ四號ノ如キニ至リテハ需要少ナシ而シテ其作業工程ヲ見ルニ小規模ノ人手ニヨリテ作業スルモノトセバ一作業ニ男二人女一人ヲ要シ一日十二時間勞働シテ一號及二號ハ二十把ヲ製シ得可シ、左ニ其收支及器具費ヲ掲グ (大正二年函館區調査)

収入

金一圓二十錢

薄皮二十把代

支出

金三十六錢

金八十錢

金二錢

計一圓十八錢

差引益金二錢

製造ニ用スル器具

鉋一枚 四圓

鉋臺一臺 二圓

鋸一枚 一圓二十錢

山刀一挺 八十錢

斧一挺 一圓

原料代

男一人一日賃銀四十錢

女二人一日賃銀二十錢

諸器具修繕費償却金

木工品

要スルニ薄皮ハ其用途廣シト雖モ其消費額少ナク且ツ價格低廉ナルヲ以テ練習ニ長日子ヲ要セズト雖モ而カモ多數農家ノ冬期副業トシテ獎勵スルニ於テハ遂ニ生産過剩ニ終ル可ク又假令生産過剩トナラズトスルモ道路ヨリ都會ヘノ運送費用ニ堪フ可カラザルニ至ルハ勿論ナリ、其道外移出ノ如キハ内地品ノ道内移入トハ船運ノ關係全ク異ナルモノナルヲ以テ好望ニナラザルナリ

木工品中農家ノ副業トシテ見ルベキモノハ獨リ篋及杓子ノ二種ニシテ其用材ハ柳、朴、最モ之ニ適シ雁皮、桧、榿等之ニ次グ熟練者ハ一日工程篋百枚杓子五十枚内外價格ハ卸値篋六厘乃至一錢内外杓子一錢四厘乃至二錢内外(札幌小樽ニ於テ

ル販賣價格)之ニ用スル器具ハ普通農家ニテ使用スル小道具ノ外銚二挺、新一挺、前鉋一挺其代金三圓内外(札幌ニテ製作シテ)ニテ足ル輕便ナル副業ナリ今其收支ヲ算定スルニ概テ左表ノ如クナルヲ以テ一日工賃熟練者ニ於テ最低三十二錢乃至八十錢ニ上ボルヲ得ベシ

生産費(千本ニ付) (南尻別村實例ニヨリ推算ス)

種別	木杓子	飯籠
原料代	一、〇〇〇	三、五〇
荒打工賃	四、〇〇〇	二、〇〇〇
山下ク運賃	七、〇〇〇	七、〇〇〇
仕上工賃	八、〇〇〇	三、二〇〇
器具損耗代	三、〇〇〇	一、五〇〇
計	一四、〇〇〇	六、〇〇〇

收入(千本ニ付)

種別	木杓子	飯籠
差引益	六、〇〇〇	八、五〇〇
	二、〇〇〇	二、五〇〇

本業ノ販路ハ製品ニシテ内地製品ニ多大ノ遜色ナキニ於テハ本道各都市雜貨商ノ之ガ購入ヲナスノ見込確實ナルヲ以テ畢竟本道ハ其附近ニ適當ナル原料ヲ有スル村落ノ限地的副業トシテ採擇シ可ナルベキモ元來需要狹少ナルモノナルヲ以テ過元生産ニ陥ルコトナキヲ注意セザルベカラザルナリ

帚 黍

帚黍ノ本道一ヶ年ノ需要額ハ明瞭ナラザルモ大畧四万圓ヲ超ユベシ而シテ其製作ニハ機械ヲ要セザルノミナラズ最も簡單ニシテ僅カノ修業ニヨリ婦女ニモ能クナシ得ル農家好個ノ副業ナリ、座敷用帚ハ原料七十匁ヲ要シ熟練セルモノハ一日十五本ヲ編製シ得ルモノニシテ其ノ栽培及製造ノ收支計算ヲ掲グレバ左ノ如シ

原料採集ニ要スル費用(一反歩ニ對スル) (大正元年磯谷郡南尻別村ニ於ケル調査)

費目	數	量	金額	摘	要
整地	男三分		五七	男一日四十錢	
播種	男五分		三五	男一日四十錢	
種子	一升		一〇	運賃共	
肥料	馬糞四台		二、七〇	馬糞一合七十匁五十錢	
肥料運搬	過磷酸石灰五匁		四二	過磷酸石灰十匁一圓四十錢	
及撒布	馬三分		七五		
除草及培土	女三人		二五		
收穫乾及燥	女一人		五、三〇		
合計					

即チ乾燥原料十五貫ハ五圓二十三錢ヲ以テ得ラル、算トナル
漂白及柔軟ニ要スル費用(一反歩ニ對スル)

費目	數	量	金額	摘	要
硫酸	三封		五四	一封十八錢	
四斗樽	三個		六〇	一個八十錢四ヶ年使用	
苴	六枚		四五	一枚十五錢二ヶ年使用	

費目	數量	金額	摘要
人夫	女一人六分強	、四〇	女一日一人二十五錢
合計		一、九九	

即チ漂白及柔軟ノ手數ヲ經タル原料一反歩十五貫ハ金七圓二十二錢ヲ以テ得ラル、割合ナリ

製造(編成)ニ要スル費用(第一本ニ對スル)

費目	數量	金額	摘要
千穂	七三	〇三五	一貫四十八錢
竹代	一尺五寸	〇一五	直徑一寸十五尺物 一本十五錢
針金代	三十尺(三匁)	〇一五	百匁五十錢
藤蔓	二尺	〇〇二	十二尺モノ三錢 三本製キノ功リテ用フ
合計		〇六七	

備考 麥稈ヲ要スルモ極僅少ナルト自家生産ニ依ル故算入セズ籾ヲ要スルモ柄杓ノ切端ヲ充用スル故ニ算入セズ
即チ編成工賃ヲ除キ一本六錢七厘ノ安價ヲ以テ製造シ得ラル、ヲ見ル而シテ之ガ御賣價格ハ普通十七錢ナルヲ以テ一本ニ對スル編成工賃八十錢四厘トナリ其編成工程ヲ一日十本トスルモ、實ニ一圓四錢ノ工賃トナル割合ナリ、尙又一反歩ヨリ收穫原料十五貫ハ實ニ二百本ノ籾ヲ製造スルニ足ルヲ以テ編成工賃トシテ得ルハ二十圓八十錢ノ大ナルヲ見ル可ク、又一日ノ自己勞力ヲ四十錢(冬季閑散ノ時ナレバ安價ニ見積レリ)ト見積リ差引クモ尙一日六十四錢一反歩分ノ製造ニ對シテハ十二圓八十錢ノ利益ヲ見ルコトナル
抑モ籾ノ原料タルヤ籾黍ハ果シテ本道ニ栽培シ得ラル、ヤ否ヤハ疑問ナリシガ軌近之ガ栽培製造ニ成功セルモノアリ、其成績ヨリ推知スレバ後志檜山室蘭函館日高等暖流ニ洗ハル、溫暖地方ニハ充分ニ栽培シ得可キノミナラズ之ガ製造品ヲ府

桐

縣産ニ比スルニ品質優良ニシテ休裁モ可ニ些シノ遜色ナキノミナラズ強靱ノ点ニ於テハ寧ロ一步ノ長ヲ表ハスベキガ如シ而シテ商賈及鐵道院ニ於テハ其購入ヲ歡迎スルモノアリ經營其宜シキヲ得ルニ於テハ甚ダ好望ノ冬期副業トナス可シ
氣候風土ニシテ桐栽培ニ適當スルトキハ桐栽培ハ農家副業中最モ容易ニシテ有利ナルモノトス桐樹ハ其農屋ノ周圍或ハ農地ノ境界等ニ三十本位ヲ植付ケ置キ三年目ノ春ニ至リ根本ヨリ伐リ捨テ勢力アル嫩芽ヲ養成スルトキハ植付ヨリ十年ヲ經過スレバ樹長十二尺八寸目通りノ周圍二尺四寸トナルヲ實例トスルヲ以テ一株ノ桐樹ハ一曲ノ賣買價格ヲ三圓平均ト假定スルトキハ三曲ヲ得ベキヲ以テ從ツテ九圓トナリ一ヶ年九十錢ニ當ルベシ今之レヲ二十ヶ年培養スルトセバ此間成長力ニハ何等影響ヲ見ザルモ却ツテ老樹トナリ稀木ト稱シテ常ニ二割方高價ニ賣却シ得ベシ二十ヶ年目ニ至レバ十七曲ヲ得ベキニヨリ一曲三圓六十錢平均トスレバ六十一圓餘トナリ十ヶ年伐株ニ比シテ一ヶ年當リ三倍餘ノ價格トナルベシ以上ハ室蘭支廳管内伊達村ノ實例ナルガ桐樹ハ本道南半部即チ函館、檜山、室蘭、浦河各支廳下ニハ最モ安全ニ生育スルモノナルヲ以テ此地方ニ於テハ農家副業トシテ特ニ注意スルヲ要ス
桐樹ノ用途ハ日常用諸器具樂器履物染料藥用等ニ用ヒラレテ近時優美ナル桐紙ノ製造發明セラレ大ニ歐米ニ歡迎セラレツ、アリ然レバ桐材ノ價格ハ他材ニ比シ著シク高キニ拘ハラズ社會ノ需用ハ彌々盛ニシテ供給ノ常ニ伴ハザルノ状態ナルヲ以テ其販路ニツキテ何等顧慮スルコトナカルヘシ

栗

栗樹栽培ハ農家副業ノ一トシテ今後多大ノ注意ヲ要スルモノナリ軌近栗果ノ價格ハ一年ニ昇騰シ彼ノ有名ナル丹波地方ニ於ケルモノ、如キ大正元年度ニ相當ノ豐作ナリシニモ拘ハラズ市價ハ生實一升五十錢内外ヲ唱へ改良搗栗ノ原料タル一種ノ如キ一石六十圓ヲ下ラサルノ盛況ニアリ而シテ近年海外各地ニ於テ著シク嗜好ヲ惹キ近キ將來ニ於テ有力ナル一輸出品トラントスル趨勢アリ又其幹材ノ用途ハ材質甚ダ堅硬ニシテ水濕ニ耐フルガタメ船艦車輛各般ノ建築補材及大小諸器土臺床板鐵道枕木トシテ需要甚ダ大ナリ又農家ニトリテハ其果實ハ食糧ノ補助トナリ備荒用トシテモ注意スルノ價値アルモ

ノナリ而シテ其栽培ニ至リテハ各種果樹中最モ容易ナルヲ以テ農家其屋周又ハ傾斜地等ヲ利用シテ植樹スルヲ有利ナリトス然ルニ本道從來ノ實驗成績ニ見ルニ府縣種ハ生育不良ニシテ植付後八九年ヲ經過セザレバ結實セズ其結果期間モ亦僅カニ四五年ニ過キサルカ如キハ甚ク遺憾トスルトコロナルモ今後充分ニ其栽培技術ノ研究ヲナシ且ツ種類ノ選擇特ニ道産栗種ノ栽培等ニヨリ其成效ヲ期スルヲ念トスベキナリ

薄荷油製造

薄荷栽培ハ主業ニシテ其取卸油製造ハ之ヲ農家ノ副業ト見做スヲ得ヘシ薄荷ハ其價格變動激シキト其食糧作物ニアラサルト及降雨其他ノ天然要素ニ特別ノ要求アルコト等ニヨリ本道一般農家ノ副業トシテ適當ノモノニアラサルモ或地方ヲ限リ或程度迄ハ恰適ノモノトナササルヘカラス薄荷栽培製造ニヨル農家ノ賃収入ハ左記收支計算表ニ示スカ如ク栽培ニヨリテ八圓九錢取卸製造ニヨリテ八十錢ニ達スルヲ以テ今若シ一家二町歩ヲ作付スルモノトセハ爲メニ栽培ニヨリテ百六十一圓八十錢製造ニヨリテ十六圓合計百七十七圓八十錢ノ賃収入ヲ收得スルヲ得ヘキヲ以テ薄荷栽培製造ハ其經營法ニシテ謬ヲサルトキハ農家副業中輕看スヘカラサルモノニ屬セリ

薄荷栽培及取卸油製造收支計算 (北海道農事試驗場北見支場明治四十三年末調査)

種目	金額		備考
	収入	支出	
薄荷取卸油	一八,三九八	二,九三三	一反歩平均六斤ヲ製油シ得テル價格ハ八ヶ年間最髙及最低價格ヲ除キテ平均シタルモノナリ
渣	〇,八〇〇	〇,〇一〇	一反歩八十貫匁ノ乾草ヲ糶ルモノト見做シ假ニ一貫匁ノ價格ヲ一錢トセリ(賣買スルコトナシ)
内計	一八,三九八	二,九三三	
内譯	一六,三三九		

種目	金額	備考
種根代	一,五〇〇	種根ハ一般ニ賣買スルコトナキヲ以テ採採ニ要スル夫買ヨリ計算ス
肥料代	一,一〇〇	厩肥三百貫匁人糞尿十荷
施肥人夫賃	〇,六五〇	男一人 女一人
耕耨整地人夫賃	〇,三七五	男一人 女一人
植付人夫賃	〇,六五〇	男一人 女一人
中耕及除草人夫賃	二,一〇〇	男一分七厘馬一分七厘女一人二分
其他ノ管理費	〇,二五〇	中耕一回除草三回男二分馬二分女六人
收穫人夫賃	一,五〇〇	外國ノ草刈男五分
乾燥費	一,六〇〇	男三人
以上人夫賃計	八,〇九〇	編賃女二人繩二十把運搬懸垂等男一人
耕馬飼育費	〇,七〇〇	男九人一分二厘女九人七分馬六分二厘
開墾費ニ對スル利子	〇,二五〇	開墾費五圓(反當)ニ對シ年五分
稅金	〇,〇四二	開有未開地處分法ニ依リ附與セラレタルモノハ附與後二十年間其屯田兵給與地ハ原備滿期後二十年間其地租ヲ課セシテ反別割ノミヲ課ス
建物(乾燥小屋)修繕費	〇,〇五〇	農具資本ノ一割
農具修繕費	〇,五〇〇	乾燥小屋三十坪(一町歩ニ對シ)十五圓建物資本ニ對シ年七分
建物(乾燥小屋)資本ニ對スル利子	〇,一〇五	農具資本ニ對シ年七分
農具資本ニ對スル利子	〇,三五〇	動物資本ニ對シ年七分
動物資本ニ對スル利子	〇,一四〇	使用年限十ヶ年ト見積ル
建物(乾燥小屋)償却資金	〇,一五〇	

種目	金額	單價	備考
農具償却資金	0,500		
動物償却資金	0,200		
製造人夫費	0,800		耕馬一頭百圓使用年限十ヶ年 男一人女一人
薪炭費	0,300		釘、綿、粉、紙、蠟燭、空鐘等購入費
雜費	0,300		男二分
竈修繕費	0,100		男一分
建物(製造場)修繕費	0,500		器具資本ノ一割
製造器具修繕費	0,500		製造場六坪(一町歩ニ對シ十二圓建物資本ニ對シ 年七分)
建物(製造場)資本ニ對スル利子	0,084		
製造器具ニ對スル資本利子	0,303		
流通資本ニ對スル利子	0,303		年一割六ヶ月
建物(製造場)償却資金	0,100		使用年限十ヶ年ト見積ル
製造器具ニ對スル償却資金	0,705		

差引純益金貳圓拾五錢九厘

備考 所要勞力ハ總テ自家勞力トス

第二年目以後ハ種根代植付人夫ヲ要セザルヲ以テ差引純益増加ス

椎茸

椎茸人工培養ハ明治三十七年以來新ニ興起セル農家副業ノ一ニシテ本道由來其材料ニ豊富ニシテ價格又低廉ナルコトハ斯

業擴張ヲ圖ル上ニ多大ノ特典ナルモ小農家之ヲ經營スルニ當リテハ其農地内ニ於テ利用スヘキ傾斜地ヲ有スルカ或ハ其附近ヨリ容易ニ原料ヲ伐採シ得ルヤノ特別事情アルニアラサレハ經營不可能ナルヲ以テ斯業ハ如上天然事情ノ備具セル場合ニ獎勵スヘキ限地的副業トシテ有利ノモノト認ムヘキナリ左ニ道廳拓殖部ニ於テ調査セル收支計算ヲ掲グ

椎茸人工培養收支計算 (一ヶ年原料三百本
三ヶ年九百本ノ場合)

支 出

金九圓

槽ノ木周圍七八寸ヨリ二尺以下ノモノヲ四尺切トシテ三ヶ年分九百本ノ代金一本ニツキ一錢ノ割

金一圓八十錢

材料三百本取込根伐人夫一人一日金六十錢三ヶ年繼續三入分

金七圓二十錢

秋根伐ヲナシタル材料此小切及刻目入レ培込迄三百本ニ對スル人夫四人一人六十錢ノ割三ヶ年繼續十二入分

金六圓

豫備費一ヶ年二圓三ヶ年分

金三圓

培込ミ後保護費三ヶ年分

金十五圓

三ヶ年伐採ノ原料木ヨリ發生スル茸採取及乾燥費但シ乾燥器具代金共

計金四十二圓

收 入

金百二十圓

農家副業

三ヶ年伐採ノ原料木ヨリ發生シタル茸採取及乾燥凡十貫目十三貫目ニ付キ六十圓ノ見込
差引金七十八圓益

澤庵漬

函館、根室、釧路、後志、地方ノ如キハ其氣候土質關係ヨリ由來優良大根ノ産出ニ適セリ而カモ大根ハ其儘ニ管外移出ヲ
ナスコトハ範圍ト數量ニ自ラ限度アリ然ルニ今農家ノ副業トシテ之レカ製造ノ一タル澤庵漬事業ヲ經營スルトキハ其經營
方法宜シキヲ得ルトキハ製造ニヨリ一樽ノ利益約四十四錢ヲ得ヘク一反歩收穫原料ヲ以テ二十五樽ヲ製造スヘキヲ以テ農
家一反栽培大根ハ製造ニヨリテ約十一圓ノ利益ヲ得ヘキ有利ノ副業ナリ今後志ノ實例ニヨリ收支計算ヲ左ニ掲ク

澤庵漬收支計算(一樽四斗入分)

收入ノ部

金二圓七十錢

附近市場賣却代金

支出ノ部

金二十五錢

古空樽運賃共一ヶ代

金一圓十四錢

大根百八十本代

金二十八錢

鹽四升

金十八錢

米糠六升

金七錢

乾燥人夫賃(一反男二人女二人ノ割)

金四錢

漬込人夫賃

金十五錢

市場迄ノ運搬賃

金十五錢

壓搾管理費

合計二圓二十六錢

差引益金四十四錢

右收支計算ニヨルトキハ經營法ニシテ宜シキヲ得レハ其利益モ貧弱ナラヌ農園ノ勞力ヲ善用シ得ル好箇ノ副業ナルコト明
カナリト雖モ本專業ハ其製造期間短カクシテ極メテ敏速ノ活動ヲ要スルモノナルヲ以テ其經營法ニ就キ特ニ深甚ノ注意ヲ
重テサルヘカラス尙又本業ハ其氣象土質ガ原料タル大根ノ最適地ニシテ市場ヲ去ルコト遠カラサル地方ニ限リ實施シ得ル
モノニシテ其範圍自ラ限定セラル、ハ亦明カナリトス

製紙

製紙業中農家ノ副業トシテ稍ヤ適當スルモノハ漉返シ紙ノ製造ニ限ラル、モノ、如シ漉返シ紙製造ハ開拓使時代ヨリ多少
之ヲ營ムモノアリシカ微々トシテ振ハス明治三十年ニ至リ函館區ニ製紙合資會社ノ創立アリ三十四年小樽區ニ小樽製紙場
ノ創立アリ超ヘテ明治四十年頃ニ至リ札幌郡豊平町ニ十數戸ノ製造業者顯ハレ盛ニ漉返シ紙ノ製造ニ從ヒシカ之等ハ皆
專業經營ニシテ農家ノ副業トシテ經營セラレシモノニ至リテハ全然之ヲ欠クノ狀況ナリ然レモ斯業ハ農家副業トシテ絶休
ニ見込ナキモノニアラザルハ明カナリ蓋シ漉返ヘシ紙ノ需要ハ今爾倍々増大スル勢アルヲ以テ都市ニ近接セル農村ニシテ
其原料ヲ廉價ニ蒐集シ得ラレ且豊富ノ給源ヲ有スル地方ニアリテハ農家ノ冬期副業トシテ經營シ有利ノ成績ヲ舉ケ得ヘシ
故ニ本業ハ亦限地的農家副業ノ一種ニ數フヘキモノナリトス左ニ其收支計算ヲ掲クヘシ

收入ノ部

一金四圓八十錢

漉返シ六貫目代 (札幌郡豊平町ニ於テ調査)

支出ノ部

一金二圓三十錢二厘

内譯

金三十七錢五厘

原料紙屑十貫目代(市中ヨリ購入セル紙屑十五
メヨリ精製シテ十メ目トス)

金十八錢

サビタ糊

農家副業

- 金十四錢 苛性曹達三百目
- 金十五錢 薪炭料
- 金二十五錢 撰紙人夫(女)
- 金四十錢 紙搗、紙洗、紙蒸人夫一人(男)
- 金四十錢 紙漉人夫一人(男)
- 金四十錢 乾燥及紙切人夫一人
- 金七錢 諸具器械、利子、償却金

差引益金貳圓四拾錢八厘

マニラ麻繫

マニラ麻ハ真田ニ製造セラレ製帽用トシテ海外ニ輸出ス本邦輸出品中生絲羽二重ニ次ク重要品ニシテ大正二年ノ輸出額ハ一千二十一萬圓ノ巨額ニ達セリ而シテ之カ原料マニラ麻繫業ハ真田ノ輸出ト共ニ發達シ府縣ニ於テハ細民之カ繫業ニ從事シ其盛ナル地方ニアリテハ真田ノ製造所ヲ起シ眞田ト爲シ輸出ヲ試ミ確實ナル發達ヲ爲シツ、アリ從來本道ニ於テハ未ダ斯業ニ從事スルモノナカリシニ偶々大正二年ノ凶歉ニ際シ凶作地方住民ノ副業トシテ實施試驗スルトコロアリシカ其成績ニヨルニ本道ニアリテハ一般農家ニ之ヲ普及ヲ爲シ効果ヲ收メ良好ナル成績ヲ擧クルコト難シト云フニ歸着セリ殊ニ夏期農期間ハ之ガ就業ヲ望ミ難ク然レモ斯業モ亦限地的副業トシテハ全然見込ナキモノニアラサルナク即ハチ都市附近農村ニシテ兼テ裁縫其他ノ手藝ニ親シムノ機會多ク地方ノ如キハ適當ニ之ヲ獎勵シテ效果ヲ收メ得ヘキナリ

第二 將來研究ヲ要スルモノ

養魚

農家副業トシテ養魚ノ内、養鯉事業ハ今後重視シテ研究實驗ヲナスノ必要アルモノナリ、本道ニ於テハ現今未ダ萎靡不振ニシテ殆ト其實例ナク、其成績ノ良否モ未定ニ屬スルモ俱知安ニ於ケル實例ニヨルス本道養鯉事業ハ内地ト異ナリ、適當

ノ状態ニアラサルヲ以テ向後研究實驗ヲ行フノ餘地甚ダ大ナルモノアルカ如シ即チ(一)産卵期ハ内地ト異リ約一ヶ月以上ノ遅延ヲ來タシ例年六月廿日前後ニ産卵スルモノナルモ其年ニヨリテ七月上旬ニ至リテ産卵スルカ如キ異例アリテ養鯉上大ナル困難ヲ來サシム、即チ此ノ如キ産卵ノ遅延ハ秋期ニ至リテ稚鯉ノ完育ヲ困難ナラシメ三万ノ稚鯉中僅カニ其十分ノ一即チ三千尾以上ハ生育セサル状態トナル(二)越冬個所ノ設備ハ本道ニ於テ最モ注意ヲ要スルモノニシテ鯉ノ死スルハ冬期ニ多キヲ以テナル可ク完全ナル設備ヲナシ温度ノ激變セサル土地ヲ撰ヒ堀ノ深サハ五尺以上タラシムルヲ要ス(三)放魚坪數ト其成長ノ度合ヲ見ルニ一年生ハ適宜ナルモ二年生中二寸鯉及三寸鯉ヲ合セ一坪ニ對シ三尾宛飼育スル時ハ五月ヨリ九月下旬ニ至ル五ヶ月(實際生育スルハ六月上旬ヨリ九月月上旬マデ)間ニ於テ生長スル割合ハ甲六寸五分乙四寸位ニシテ其平均重量甲四十匁前後乙二十二匁前後ニ至ル、右同様ノ稚魚ヲ坪五尾飼トスレハ餌食ノ善惡多少ニヨル可キモ其平均生長ハ甲五寸五分ニシテ二十五匁前後乙三寸ニシテ十匁前後トナル(四)餌料費ヲ見ルニ成長期間ヲ約六ヶ月トシテ其間要スル餌料ハ次ノ如シ、一年生ハ金二錢二年生金二錢三年生ハ金五錢四年生以後ハ金八錢トス(五)生育歩合ハ如何ト云フニ本道養魚ハ内地府縣ト異ナリ越冬中若シクハ夏季天候ノ不其及灌水不適當ノ關係ニヨリテ死スルモノ多ク年ニヨリテハ三万尾ノ孵化魚中生ヲ存セルモノ僅カニ三千餘ニ過キサリシ等ノ異例アルモ其平均育成歩合ヲ見ルニ一年生ヨリ二年生ニ至ル間ハ約五分止マリ、二年生ヨリ三年生ニ至ル間ニ約七分止マリ、三年以後ハ九分止リニ過キス、販出スルニ當リ(六)其運搬及販路ハ食料鯉及稚鯉共ニ普通小荷物運搬法ニヨリ又ハ箱ニ水ヲ入レ其中ニ放魚シ運移ス(但シ遠路ノ時ハ日ニ三四回位水ヲ更ニルヲ要ス)販路ハ札幌、旭川、夕張、室蘭ノ各地方ナリトス(七)其價格ハ左ノ如シ

- 一年生 凡ツ一寸ノモノ(八月頃) 一尾 八厘乃至一錢
- 一年生 一寸五分ノモノ(九月頃) 同 一錢一錢五厘
- 二年生(秋) 四寸ノモノ 同 十錢
- 二年生(秋) 五寸ノモノ 同 十五錢
- 三年生(食用鯉) 一貫 四十錢但シ一貫目ニ二十尾

四年生以後ニシテ一尺以上

一尾一貫以上ノモノハ一貫目ニツキ四十五錢ニ當ル

之ヲ要スルニ本道養鯉業ノ將來ヲ案ズルニ本道ハ養鯉上氣候適順ナルモノニアラサルハ明カニシテ爲ニ各養鯉業者ノ經營當初常ニ失敗スル處ナリシカ近時技術ノ改進ト共ニ稍其成績ノ見ルニ足ルモノアルニ至リタル傾向アリ、然レハ益々研究改良ヲ重テ人工ニヨリテ其欠点ヲ差配シ得ルニ至リ且ツ現在ノ鯉價ヲ幾分下落セシメ一般需要者ヲ増加スルニ於テハ必スヤ將來有望ノ事業タルヲ得可シ、尙農家副業トシテノ鯉ノ種類ハ彼ノ獨逸鯉ノ如キハ日本鯉ト異ナリ性強健ニシテ生育良好ナリ日本種ヨリ一ケ年以上ノ伸長力ヲ有シ食味ニ於テ異ナルコトナキヲ以テ注意ス可キモノナリ外、見上不良ナルヲ以テ需要少キ爲メ多ク飼養セラレサルモ、而シテ其價格ハ一貫目ニ付キ三十五錢位トス又本道ハ夏期短カク水稻又短時日ニ成熟セシメナル可カラサレハ其間稻田ニ放鯉スルトキハ放鯉ハ稻根ヲ掘リテ固着セシメザル爲メ水稻ノ成熟期ヲ遅ラシムルヲ以テ水田放鯉ハ絕對不可ナルノ説アルモ未確定ノ事實ナキヲ以テ向後ノ研究實驗ヲ要スルモノナリ

水 豆 腐

水豆腐ノ製造ハ本道ノ氣候ヲ善用スヘキ恰好副業ノ一ナルヘキモ從來其成績不良ニシテ萎靡トシテ振ハサルノ甚タ遺憾ナリト云フヘシ本道ニ於テハ曾テ明治三十年頃ヨリ森口茂吉氏函館ニ於テ熱心ニ試製シタリシモ氣象水質ノ適セサルヲ以テ更ラニ宿野邊畔下軍川地方ニ分工場ヲ設ケ試製セルニ之レ又種々ノ原因ノタメ失敗ニ了リ後十勝國中川郡幸震村ニ地ヲ相シテ盛ニ試製シタリシニ氣象水質兩ツナカラニ製造ニ適シ且ツ原料ノ大豆ニ富ミ薪炭モ廉價ナリシヲ以テ屈強ノ好位置ナルヲ認メ盛ニ製造ニ着手シ好結果ヲ奏スルヲ得タリ爾後所在各地多少事業ノ興起ヲ見ルニ至リシモ諸種ノ原因ニヨリ中途廢絶ノ已ムナキニ至リタリ而シテ從來失敗ノ跡ヲ見ルニ製造方法ニ研究ヲ重テス經營方法宜シキヲ得サルカ爲メナルハ亦疑ヲ容レサル處ニシテ其諸弊ノ爲メニ品質粗鬆ニ失スルカ爲メナリト稱スルガ如キハ未ダ全ク事業ノ成否ヲ左右スル力ナキモノ、如シ而シテ其收支計算ハ本道未タ調査ナキヲ以テ青森縣ノ調査ヲ掲ゲ參考トセンニ

支 出

十九錢三厘 大豆二升二合(一俵四斗三圓五十錢)

四錢 薪及泡消油

九錢 勞銀(二分五厘一人三十五錢)

計三十三錢三厘

收 入

三十七錢五厘 五十連(一連五枚)

四錢四厘 雪花(殘搾)

計四十一錢九厘

差引益八錢六厘

依之見ルニ其利率決シテ薄少ナルモノニアラス宮城縣岩手山町該業組合ノ如キハ三十五人ノ員數ニテ一冬期間七十日ニ其産額一万三百圓ニ達シ一戸平均二百四十圓ニ達スルト言フ冬期副業トシテ水豆腐ハ今後大ニ研究ヲ要スルモノナルハ明カナリト言フベシ 附記畿内四國地方ノ製造期ハ十二月ヨリ翌年二月下旬ニ至ル八十日間ニ過キサルニ本道ハ十月下旬ヨリ翌年四月上旬ニ至ル百七十日ノ長キニ亙ルノ氣象上ノ特典ハ道民ノ大ニ利用セサルヘカラサルトコロナリ

水 大 根

釧路根室ニ支廳管内ノ氣候カ根菜類特ニ大根栽培ニ好適スルコト前述ノ如クトルカ乾物トシテ販賣センニハ日照時間少ク濕氣多キトニヨリ經營甚タ容易ナラス仍テ本道特有ノ寒候ノ利用トシテ水大根製造ヲナシ農家ノ副業トナスモ亦輕視スヘキコトニアラザルナリ其製造法ハ甚タ單短ニシテ收穫後大根ヲ一二日間日乾シテ土中ニ埋メ貯藏シ置キ寒入後掘リ出シ土ヲ洗ヒ落シ皮ヲ厚メニ剥ギ其尾端ニ孔ヲ穿テ細繩ヲ通シ五本ヲ一連トシテ二三夜寒氣ニ曝露シタル後日向ノ軒下ニ吊ルシ置クトキハ時日ヲ經ルニ從ヒ漸次ニ乾燥シ水大根ノ製品ヲ得ヘシ然レモ賣品トシテ精製セントスルニハ尙ホ幾多ノ試驗研究ヲ重ヌルノ必要アルヘキモ大体ニ於テ食品トシテ優良ノ製品ヲ得ルハ實驗ニ徴シテ明カナリ然ルニ本邦普通ノ乾大根

ハ市場ニ上ホリ邦民必須ノ食品トシテ多大ノ販路ヲ有スルモ此水大根ハ未ダ賣品トシテ市場ニ上ホルモノナキハ遺憾トスヘシ面カモ其食味普通干大根ニ勝ルノ劣ルコトナク副食品トシテ甚タ輕便ノモノナルヲ以テ今後本道農家ガ研究實驗ヲ積ムト共ニ諸般ノ方法ヲ講シテ販賣ノ途ヲ開クニ於テハ蓋シ好望ノ副業タルヲ得ヘシ

湯葉

湯葉ハ又本道ニ於テ其豊富ノ原料利用上ヨリ大ニ研究ヲ必要トスルモノニシテ若シ製品ニシテ佳良ナルキハ其販路決シテ狹隘ノモノニアラサルナリ即チ道内消費ヲ始メトシテ各府縣及樺太ニ移出シ得ヘキ望アルモノトス左ニ農家試製ノ參考トシテ青森縣ノ調査ニ係ル同縣ノ收支計算ヲ掲出スヘシ

大豆一俵ニ付製造收支計算表

支	原料代		器具租料		賃金		薪炭料		計		數量		單價		總價		柏代		入	計	利	益
	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角	元	角				
長湯葉(小)	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇、〇五	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇
角湯葉	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	〇、〇七	九、八〇〇	九、八〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、九九〇	〇、九九〇	〇、九九〇	〇、九九〇
葉湯葉	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	〇、一五	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇
金糸湯葉	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	四、〇〇〇	〇、一五	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、一九〇	一、一九〇	一、一九〇	一、一九〇
長湯葉(大)	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	四、五〇〇	〇、一〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、一九〇	一、一九〇	一、一九〇	一、一九〇
細工湯葉	三、五〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	〇、〇〇	三、〇〇〇	三、五〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、一〇	九、〇〇〇	九、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇	〇、一九〇

備考 大豆一俵ヲ製造スルニ要スル職工員數ハ一日金六十錢ニテ摺白廻シ二人煮ルニ一人鍋製造二人(一俵製造スル鍋四十枚)計五人八戔三十五貫一貫目七錢一厘(計二圓五十錢)薪一圓ヲ要ス粕ノ生産ハ一俵ヨリ二十貫目一貫六錢(計一圓二十錢)ノ計算

右記中ノ收支計算ヲ按スルニ其益金最低十九錢ヨリ最高一圓十九錢ヲ得ルガ如シ然レモ農家自ラ從事スレハ賃金即チ收入

トナリ最低三圓十九錢最高四圓十九錢ノ利益トナル副業トシテ好個ノモノタルヲ知ルヘシ

寒天

從來寒天製造業ノ本道農家副業トシテ恰適ノモノト認メラレス其理由(1) 寒天製造ニ必須ノ材料タル石花菜ハ本道ニ多産スルモ惠胡ハ本道ニハ甚ダ微量ナルコト(2) 本道産材料ハ品質不良ニシテ到底内地品ト競争シ得ル程度ノ製造物ヲ得ル能ハサルコト(3) 寒天製造ニ必要ナル氣象ハ夜間氷結シテ晝間融解スルコトナルニ本道ノ氣象ハ此目的ニ副ハサルコト(4) 製造干燥期間ニ降雪多キハ製造上ノ大故障ナルコト以上四因ハ其主ナルモノトシテ數ヘラレシモ尙其製造法ニ於テ研究スヘキ餘地アルモノ、如シ

經木細工

經木細工ハ明治三十七八年頃本道民間ニ於テ多少獎勵鼓吹スルトコロアリテ爾來根ヲ原料トセル等細工諸種樹種マ原料トセル段通細工等所在二三ノ興起ヲ見タルモ何レモ其經營法宜ロシキヲ得ザルコト其製品優良ナラザリシコト及販路ノ甚ダ不安定ナリシコト等ニ依リテ失敗シ今ヤ殆ント其跡ヲ絶ツニ至リタリ然レトモ經木細工ノ前途ハ如上經營法宜コシキヲ得ルコト製品々質ノ向上ヲ圖ルコト及確實ナル販路ヲ發見シ其需用範圍ニ於テ製作スル等ノ注意ヲ加ヘ欠陥ヲ補フニ於テハ絶體ニ望ナキモノニアラサルカ如シ要スルニ斯業ハ本道農家副業トシテ今後更ニ攻究ヲ要スル餘地尠ナカラサルモノアルヲ認ムルモノナリ

三、將來有望ナラザルモノ

蘆粟製糖

蘆粟ヨリ結晶糖ノ分離精製ヲ行フハ他ノ採糖植物ヨリスルニ比シ甚タ困難ナルノミナラス其製品ノ品質概シテ劣ルヘキハ著明ナル事實ナリトス而シテ副業トシテ農家ノ行ヒ得ヘキ程度ノモノヲ求メハ搾汁ヲ蒸濃厚ナラシメテ舍利別狀トナスノ一途ニ出テサルヘシ今北海道農事試驗場ニ於ケル試驗成績ニヨルニアーリーアマムバ一種ニアリテハ其反當生薑收量約七百貫前後ナルヲ以テ一般ニ栽培上粗放ナル農家ニアリテハ約五百貫前後ト見做ゾヲ得ヘシ而シテ其搾汁ヲ蒸濃厚ニセル

蘆粟糖蜜ノ收得量ハ約三百斤前後ナルヘシ課税其他生産費ヲ控除スルトキハ殆ント利益ヲ見ル能ハザルカ或ハ損失ニ終ルナキヲ保セザルナリ茲ニ於テカ蘆粟製糖ハ本道ノ内南部温暖ノ地方ニシテ比較的ニ其栽培ニ適スル方面ニ限定ス且交通不便ナル山間邊陲ノ新開地農家等ニシテ其地方ノ砂糖市價力不廉ナル場合ニ限リ自家用ノ目的ヲ以テ小面積ノ栽培製糖ヲナスノ範圍以外ニハ農家副業トシテ決シテ有望ノモノニアラサルヲ認ムルモノナリ

製網

製網ハ農家副業トシテ賃收薄キニ過ギ適當ノモノト云フ可カラズ其ノ理由下ノ如シ(一)本道需要網ハ已往大麻ヲ原料トセル當時ニ於テハ多クハ漁業家或ハ下級者ノ冬閑ヲ利用スル有利ノ副業ナリシガ近時機械工業ノ發達ニ伴ヒ機械網盛ニナリシ結果トシテ本道ニテ經營者ノ賃銀彌々低廉トナリシガ爲メニ曾テ從業シタリシモノモ之ヲ廢止スルニ至リツ、アリ(二)本道ニ於テ麻原料ヲ以テスル製網ハ其生産ヲ計ル上ニ於テ適當ノモノナルニ係ラス概近綿糸ニ其安價ナルト比較的強靱ナルトニヨリ市場ヲ壓シツ、アリ(三)綿糸類ハ至ツテ薄利ニ一ヶ月回收ニテ三四分ノ利ニナルニヨリ間屋ハ半ヶ年ニ渉ル期間農家ニ貸附シ能ハザルコト(四)漁業家ノ習慣トシテ漁獲用網ノ豫備ヲ有スルモノ少ク鯨網、鱒網、小鯨網等其必要切迫シテ急ニ購用スルモノ多シ(目下ハ函館等ノ市街内ノ製網者ニ火急ニ手製セシメツ、アリ)此場合ニ於テハ農家副業トシテハ其需要ニ應スルコト困難ナリ(五)普通ノ場合ニハ賃銀ハ増々薄減スルノ傾アリ彼ノ陸中國水澤地方ニテ從來大麻耕作ニヨリ農家多クハ冬期ノ副業トシテ自カラ加工シ來リシカ綿糸流行以來賃收甚タシク減ジ漸次衰退スルニ至リシ爲メ後ニハ綿糸ヲ東京ヨリ求メ製網ニ從事シタリシモ原料ノ運賃、中卸商ノ手数料ニヨリ引合ハサルタメ漸次廢退セントセリ、然レハ製網副業ハ特殊ノ場合即チ本道漁村近接ノ農村ニ於テ土地利用上ヨリ大麻耕作ヲナシ之ニ加工シテ有利ノ算當トナル場合ノ外恰適ノ副業ト認ム可カラサナリ、左ニ綿糸原料ノ場合收支計算ヲ掲ク

綿糸原料ノ場合ノ收支計算

收 入

金四圓四拾錢

製網一貫目

支 出

金參圓

金參錢五厘

金壹圓四拾錢

計金四圓四拾參錢五厘

差引參錢五厘ノ損

即チ女工賃一日金六錢八厘強ノ割合トナル

備考 但シ原料綿糸ノ種類ニ一號ヨリ百號マデアリテ網類ニモ幾多數アルヲ以テ茲ニ比較的有利ノ鯨網ニツキテ示セルモノナリ

醋酸石灰製造

醋酸石灰ノ製造事業ハ其原料木炭製造ノ際ノ副産物ニ仰クヲ以テ小農家副業トシテ一見好適ノモノ、如シト雖モ本業ハ從來ノ實例ニ徴スルニ本道小農家經營ノ副業トシテハ甚ダ不適當ノモノニ屬セリ其理由他ナシ

(一)元來本業ハ比較的ニ其規模ヲ大ニシ合理的ニ經營スルニ於テハ相當收益ヲ示シ有利ノ成績ヲ舉クルコト後掲收支計算ノ如クナルヲ得ベキモ然ラザルニ於テハ製品歩留少ク經費ヲ多用シ却ツテ損失ニ了ルコト稀少トナサザルナク而モ本道小農家ノ支辨シ得ル資本程度ニ於テハ到底其成績ノ佳良ナルヲ期スルニ困難ナリ

(二)本業ハ化學工業ニ屬シ智識ヲ用ユルノ餘地多ク且ツ技術ノ精巧ヲ要求スルコト多大ナルニ拘ハラス本道小農家ニアリテハ假リニ講習會其他ノ方法ニヨリ智識補充ヲ行フモ尙適當ト認ムヘカラサルモノアリ

年 度	生 産 額	收 入 額	支 出 額					支 出 合 計	差 引 損 益	各 年 度 二 於 之 損 益 歩 合
			管 轄 費 (製造所建築費)	器具 備 費	他 費 (運送費、肥料、石灰、薪切、他)	燃 料	管 轄 費 (分)			
四十一年度	512,000	157,780	7,378	114,324	451,320	2,000	4,132	643,170	148,796	7.55
四十二年度	3,185,600	1,007,390	23,081	283,938	1,108,170	15,000	15,118	1,600,137	532,747	3.70
四十三年度	8,560,000	3,119,200	37,575	309,598	1,637,575	30,000	18,432	2,175,701	1,944,109	4.47
四十四年度	7,808,000	2,535,263	37,975	389,345	1,570,066	36,500	15,394	2,163,889	1,371,374	1.72
四十五年度	6,464,000	2,331,520	37,975	388,672	1,644,424	24,393	12,356	2,240,645	1,90,875	0.41
合 計	26,529,600	9,150,753	149,354	1,456,817	6,411,554	108,433	69,432	8,822,848	1,327,905	4.37

運 送 業

冬期間其所有馬糞ヲ以テ其居住村附近或ハ他管内ニ出稼ヲナシ運送業ニ従事シ賃收入ヲ得ルモノ尠カラズ而シテ其利益關係ヲ見ルニ一日多キハ二圓少キモ五十錢位ノ收入トナリ一見有利ノ副業ノ如クナレモ風雨其他天候不頁日ノ休業及其馬匹飼料馬糞損料等ヲ差引クトキハ其利益眞ニ僅微トナルノミナラス又農民ニ對スル道德的影響良ロシカラザルモノ多キヲ以テ恰好ノ副業ト見ルベカラザルナリ

第五 副業獎勵ノ方法

一、現在ノ獎勵方法

養蠶製絲製綿機業其他養畜畜産製造等ノ指導獎勵ハ道廳各主管ニ於テ年來獎勵指導スル處アリ相當成績ヲ收メツ、アルモ是等ハ別ニ調査報告セラル、ヲ以テ茲ニ之ヲ省キ普通農事ニ關係アル種目ニツキ記スベシ

曾テ特ニ專任ノ指導員ヲ置キ獎勵シタルガ其ニ其成績揚ラザルノミナラズ無償配付ノ苗モ跡ヲ絶ツノ有様ヲ實現セリ之レ府縣生産品ノ如ク優良ナル成品ヲ得ザルニ主因スルハ勿論ナルモ亦其栽培製造法及ビ其經營方法宜ロシカラザリシニ基因セシモノ尠カラザルヲ認ム仍テ今附其改良栽培法及經營法ニツキ適當ニ獎勵指導ヲナスニ於テハ斯業再興ノ氣運ヲ見ル

ニ至ルヘク今後ニ成績ヲ舉グルコト尠ナカラザルベシ

菓 細 工

水田地方ニ於ケル年來ノ獎勵事業ニシテ講習會ニヨリ實地指導ニヨリ極力指導シ來レルモ是ガ具體的成績ヲ舉ゲ得タルハ最近ノ事ニ屬シ殊ニ大正二年ニ於ケル凶作救濟授産事業トシテ實績ヲ收メタルガ如キ之ナリ今ヤ水田地方ニ於テハ有利ナル副業ノ一トシテ認メラル、ノ氣運ニ嚮ヒツ、アリ又交通不便ニシテ稻蔬ヲ得ラレザル畑作地方ニ對シライ麥ヲ栽培セシメ麥稈繩造製作ヲ獎勵シタルニ漸次其成績ヲ舉ゲツ、アリ

濃 粉 製 造
年來獎勵シ來リタル本業ハ技術改良販路擴張ノ變遷消長ヲ經今ヤ膽振ノ八雲、眞狩、及石狩ノ上川方面ニ於ケル士別ノ濃粉業ハ副業經營ヨリ一進シテ專業經營トシテ最モ良好ナル成績ヲ舉グルニ至リツ、アリ而カモ本業ハ農家副業トシテ主トシテ新開地ニ獎勵指導スルノ必要ヲ認メ實施シツ、アルヲ以テ今爾益々其成績ヲ舉グルモノアラン

果 樹 栽 培
本道開拓ノ當初ヨリ獎勵シ來リタル事業ニシテ今ヤ余市札幌地方ノ如キ苹果特定地ヲ除キ各地方ニ副業トシテノ果樹業漸ヤク起リ漸次成績ヲ舉ゲツ、アリ

除虫菊及竹細工
除虫菊ハ農家ノ自用トシテ年來獎勵シ來リタルモノニシテ未ダ豫期ノ成績ヲ舉ケサルモ其販賣目的ヲ以テ良好ノ成績ニア

ルハ札幌、空知、上川各支廳下ニ於テ其實例ニ乏シカラズ
竹細工ハ地曲リ竹ノ利用ニシテ原料豊富ナル新開地及森林地等ニ獎勵シ相當成績ヲ舉ケツ、アルモ一般の性質ヲ有スルモノニアラザルガ故限地的ニ適當ノ獎勵ヲナシツ、アリ以上列舉ノ外野生柳、薄皮等ハ較近ノ獎勵ニカ、ルモノニシテ未ダ何等成績ヲ見ザルモ原料潤澤ナル上ヨリ多少ノ望ヲ囑スベキモノアリ

二、將來獎勵方法

副業ノ種類ガ普通ニ於ケル年中副業ナルト期間的ニ行ナフ冬期副業ナルトニ別ナク本道農家經濟ノ現狀ニ顧ミ之ガ振興ヲ期セント欲セバ積極的ニ獎勵保護ヲ加フルノ緊要務ナルヲ認ムルモノナリ蓋シ副業ハ其ノ事業ノ性質上主業トノ努力配當宜シキヲ得ルコト肝要ニシテ若シ其宜シキヲ失シ副業努力多大ニ失スル時ハ其結果主業ヲ侵害シ却テ農家經濟ヲ惡變セシムルハ實例ノ示ストコロナリ由來本道ニ於ケル副業經營ノ經濟ヲ見ルニ常ニ其純收益甚ダ薄少ニ過グルノ現狀ナルハ副業不振ノ原因トシテ甚ダ遺憾トセザルベカラズ其薄少ナル最大理由ハ副業其ノモノ、性質上ヨリ來タルハ明カナルモノニ於テ當業者技術ノ不練及市場販路關係等ニ於ケル經濟ノ進歩セザルコトモ亦有力ナル理由タラザルヲ得ズ茲ニ於テカ官廳ハ副業振興上必要ナル研究試驗ヲナシ極力之ガ指導ニ努力シ且ツ販路調査及紹介ヲ企圖スル等必要ノ保護獎勵ノ策ヲ講ズベク又農家自身モ自發的ニ製品ノ改進ニ勉メ販路ノ擴張ヲ圖ル等官民相呼應シ以テ斯業ノ發展ヲ圖ルニ努力セザルベカラズ即チ左ニ其主要事項ヲ掲グベシ

一、補助事業

補助ハ其方法ヲ誤ルトキハ却テ惡影響ヲ與フルモノナリト雖モ其方法ニシテ宜シキヲ得ンカ當業發達ニ資益スルコト甚大ナリ依テ左記事業ノ如キハ經營ノ性質上相當補助ヲ與フルノ方針ヲ執ラザルベカラズ

- (イ) 民設副業傳習所ニハ補助ヲ與フベシ
副業傳習ノ目的ヲ以テ町村農會組合等ニ於テ副業傳習所ヲ設立スルコトヲ獎勵シ道廳ハ其永續ト發展トニ資シ且其効果ヲ擧ゲシムルタメニ適當ナル教師ヲ派シ或ハ駐在セシムルノ特典ヲ與フルヲ要ス
- (ロ) 農會事業トシテ副業獎勵組合ヲ起サシムベシ
町村農會ノ下ニ副業獎勵組合ヲ設ケシメ其地方ニ恰適セル副業ヲ擇ビ之レガ研究及共同作業ヲナサシメ又ハ斯業振作ノタメニ必要ナル原料ノ共同購入及生産品ノ共同販賣等ニ關スル斡旋ノ勞ヲ執ラシムベシ而シテ農會ヲシテ斯ル組合ヲ經營シ事業ノ發展ヲ圖ラシムルニ當リ之ヲ促進誘掖センカ爲メニ相當補助金交附ノ制ヲ執ルノ要アリ
- (ハ) 共進會品評會ヲ開催セシムベシ

(二) 指導及試験

製品ノ改善紹介及販路ノ擴張ヲ圖ランガタメ町村農會或ハ組合等ヲシテ其製品ノ出陳ヨリナル共進會又ハ品評會ヲ開催セシメ之レガ獎勵ノ爲メ相當補助金ヲ交附スルノ方法ヲ講ズルコト緊要ナリトス

- (イ) 指導及試験
國費或ハ地方費ニ副業指導員ヲ設クベシ
國費或ハ地方費ニ副業傳習ノ爲メニ專任指導員ヲ常置又ハ臨時ニ設置スルノ制ヲ執ルノ必要アリ而シテ之レガ指導員ハ智識實驗ニ富メルモノヲ採用シ又ハ一業ニ熟練セル現業者ヲ採用シ長期講習若クハ前掲ノ傳習所講師トシテ指導傳習ニ從事セシムベシ
- (ロ) 普通農事指導員ヲシテ指導普及セシムルコト
前條ノ如キ特殊技術ニ亘ルモノ、外一般的簡易副業ニ屬スルモノハ普通農事指導員ヲシテ隨時指導普及セシムルハ是亦獎勵上最モ必要ノコトナリ
- (ハ) 副業ニ關スル試驗研究ヲナスコト
副業ニ關シ將來研究ヲ要スルモノ假令バ養魚、氷豆腐、氷大根、湯葉、寒天等ノ如キモノニ對シ適當ナル試驗機關ヲシテ之ガ養殖及製造法等ニ關シ充分ナル試驗研究ヲナサシメ又已知副業種類以外ニ將來有望ナル副業ノ發見ニ努メシメ以テ當業者ヲシテ是ガ企業上ノ資料ヲ得セシムルハ斯業獎勵上緊要ノ事タルヲ認ムルト共ニ從來獎勵普及セラレツ、アル一般副業ニ對シテモ一面生産經濟ニ研究ノ歩ヲ進メ生産費ノ節減ヲ圖ルノミナラズ品質ノ改善等ニ一段ノ試驗研究ヲ重タルハ畢竟斯業ヲシテ永遠ニ持續セシメ層大々發展セシムル所因ナルヲ以テ閉却スベカラザル緊要事ナリト認ム
- (三) 指導獎勵上ノ注意
副業ノ獎勵指導ヲナスニ當リ特ニ注意ヲ要スルモノ左ノ如シ
- (イ) 副業ノ種類撰擇ニ意ヲ用ヒ其地方ノ氣候狀況努力需要原料供給販路等ヲ精査シ特適ト認メタルモノヲ獎勵指導セ

蠶

絲

業

農家副業

ザルベラズ

七〇

- (ロ) 其獎勵スル副業種類ヲ顧リミ販路ヲ察シ其狭少ナルモノニアリテハ特殊町村ヲ指定シ限地的獎勵ヲナシ苟クモ過冗生産ヲ來タシ當業者ヲ迷惑セシムルコトナキヲ期セザルベカラズ
- (ハ) 副業ノ獎勵ト共ニ其販賣ノ斡旋ニ盡カシ販路ノ開拓ヲナスト共ニ生産品ノ共同販賣及原料ノ共同購入等ニ對シテモ充分ノ指導誘掖ヲナスノ用意アルヲ要ス
- (ニ) 副業獎勵ト同時ニ其利益ノ幾部ヲ貯蓄セシメ奢侈ヲ戒シメ勤儉ノ美風ヲ涵養セシムル等農業道徳上ノ指導ニ關シテモ亦遺算ナキヲ期セザルベカラズ

ザルベラズ

- (ロ) 其獎勵スル副業種類ヲ願リミ販路ヲ察シ其狭少ナルモノニアリテハ特殊町村ヲ指定シ限地的獎勵ヲナシ苟クモ過
冗生産ヲ來タシ當業者ヲ迷惑セシムルコトナキヲ期セザルベカラズ
- (ハ) 副業ノ獎勵ト共ニ其販賣ノ斡旋ニ盡力シ販路ノ開拓ヲナスト共ニ生産品ノ共同販賣及原料ノ共同購入等ニ對シテ
モ充分ノ指導誘掖ヲナスノ用意アルヲ要ス
- (ニ) 副業獎勵ト同時ニ其利益ノ幾部ヲ貯蓄セシメ奢侈ヲ戒シメ勤儉ノ美風ヲ涵養セシムル等農業道德上ノ指導ニ關シ
テモ亦遺算ナキヲ期セザルベカラズ

蠶
絲
業

蠶絲業

第一、本道ノ自然的要素ト養蠶

一、氣候

本道ニ於テ銚路根室ノ二ヶ國ヲ除ケバ其ノ他ハ殆ド養蠶ノ行ハレザルハナシ唯ダ膽振國ノ一部東海岸ニ濱スル部分ハ海霧ノ爲メ養蠶上多少ノ困難ヲ感ズルモノアルノミ銚路國ニ於テモ全然養蠶業ニ適セザルニアラズ彼ノ厚岸ノ如キ太田村ニ於テ養蠶ヲ營ミ適良ノ繭ヲ産スルモノアリ且又足寄郡ノ如キハ海霧ノ影響ヲ受ケズシテ養蠶ニ適ス故ニ銚路根室ノ兩國ニ在リテモ全然養蠶ニ適セスト斷ズルコト能ハサルナリ唯其氣候ハ海霧襲來シテ寒暖ノ變化急激ナレバ蠶兒ノ飼育上他ノ地方ニ比シテ困難ヲ覺ユルト云フニ過ギズ然レドモ氣候ト養蠶トノ關係上其區域ヲ區別スレバ左ノ三區ニ區別スルヲ得ベシ

- 一、養蠶ニ適スル地方 渡島、後志、石狩、天鹽、北見ノ全部十勝膽振及日高ノ大部分
- 二、養蠶ニ適スルモ海霧襲來ノ爲メ飼育上多少困難ヲ感ズル地方 十勝膽振及日高ノ一部分(東海岸地方)
- 三、養蠶ニ適セザルニアラザルモ海霧ノ爲メ飼育上困難ヲ感ズル地方 銚路、根室

右ハ從來養蠶ヲ行ヒタル實驗上ヨリ其區域ヲ區別シタルモノニシテ是ヲ以テ之ヲ觀ルモ本道ニ於ケル養蠶適地ノ區域廣大ニシテ將來其發達ヲナスハ本道ノ産業上須要ノ位置ヲ占ムベキモノト謂ベシ今各地方ニ於ケル掃立及上簇時期ヲ見ルニ左ノ如シ

春蠶掃立時期

石狩國	早晩普通		四十二年	四十四年	大正元年
	早	晚			
普通	六、二	六、二	六、三	六、三	六、二
	六、三	六、三	六、三	六、三	六、二
	六、三	六、三	六、三	六、三	六、二
	六、三	六、三	六、三	六、三	六、二
	六、三	六、三	六、三	六、三	六、二
	六、三	六、三	六、三	六、三	六、二

蠶絲業

石狩國 普通	早 晚 普	八、八、八、 三、一、	四十一年
八、八、 三、八、	七、 九、	四十一年	
七、八、 三、九、	七、 六、	四十二年	
八、八、 二、二、	七、 六、	四十三年	
八、八、 五、九、	七、 三、	四十四年	
	七、 三、	大正元年	

夏蠶掃立時期

後志國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、
渡島國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、
天鹽國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、
北見國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、
十勝國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、
膽振國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、

石狩國 普通	早 晚 普	七、八、七、 二、八、	四十一年
七、八、 三、五、	七、 六、	四十二年	
七、七、 一、三、	七、 六、	四十三年	
七、七、 三、九、	七、 六、	四十四年	
七、七、 一、三、	七、 六、	大正元年	

春蠶上簇時期

後志國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、
渡島國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、
天鹽國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、
北見國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、
十勝國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、
膽振國 普通	早 晚 普	五、二、 二、八、

桑樹ヲ栽培シ得ベキナリ現ニ森村地方ニ於テ火山灰地ニ桑園ヲ造成セルモノアリ既肥使用ノ結果其生育可良ニシテ相當ノ收穫ヲ擧ゲタリ
 本道ニ於テ耕地トシテ區劃ヲ割リ移民ヲ容レタル殖民地中傾斜地ヲ包含スルモノ少カラズ故ニ是等ノ傾斜地ニ桑樹ヲ栽培セバ土地利用上大ニ益スル所アルベシ

第二、蠶絲業沿革概要

安政元年七月幕府本島ヲ直轄シ奉行所ヲ函館ニ置キ調役河津祐邦ノ建議ニテ七重村ニ桑ヲ栽培シ養蠶業ヲ興サントス翌二年生絲ヲ上野國伊勢崎ニ需メ機業ニ熟セル女工ヲ呼ビ大野村ニ於テ各種ノ絹織物ヲ織ラシム
 安政五年八王子同心二十五名續テ來住七重山兩所ニ移シ繰絲機業ヲ興シ其產蠶蠶種並ニ織物ハ箱館產物會所ニ於テ買上ルコトハナス
 文久三年箱館近傍各村ノ有志ニ製絲並ニ機業ヲ傳習シ繰絲、八丈縞、博多帶、郡内織、斜子織等ヲ産シタリ
 明治四年開拓使ニ於テ札幌郡丘珠村龜田郡大野村ニ官設養蠶場ヲ新設シ丘珠ニ教師二名ヲ大野ニ同三名ヲ雇聘シ養蠶製種及製絲ニ從事セシメ桑苗ヲ栽培シ蠶業獎勵ノ範ヲ示セリ翌五年丘珠蠶室ニ於テ蠶種二十四枚ヲ掃立テ收購九石ヲ獲蠶種二十枚ヲ製シ殘繭ハ繰リテ若干貫ノ生絲ヲ製シ之レヲ横濱ニ販賣ス
 八年八月札幌町雨龍通(北一條東二丁目)ニ製絲室貯繭室蒸殺室各一棟ヲ築キ木製、繰絲器械十六窓ヲ裝置シ東京出張々屬青山養蠶試驗場ヨリ工女十三名ヲ移シ繰絲ヲ始ム
 九年製絲室貯繭室蒸殺室各一棟ヲ増築シ富岡製絲場模造ノ鐵製内攪共攪械二十四窓蒸氣罐(六馬力)一基礎典型綵釜等ヲ裝置シ製系工女二十七名ヲ東京青山試驗場ヨリ移シ繰絲ニ從事セリ
 二十年三月檜山郡江差町ニ組合員四十七名資金二千圓ノ興産社起リ養蠶製絲ヲ行フ之レ江差地方ニ於ケル製絲業ノ嚆矢ナリ

二十年四月茅部郡森村ニ蠶業組合ヲ設ケ資金千圓組合員十名ヲ以テ養蠶製絲ヲ行フ
 同年九月札幌製絲場ヲ區民足立民治ニ三年間ヲ期シ無料ニテ貸付シタリ
 二十二年四月札幌蠶業傳習所(現在ノ蠶業講習所)位置札幌區北一條西十九丁目設置シ始メテ道内ヨリ傳習生ヲ募リ蠶業ニ關スル學理及技術ヲ教授セリ三十四年地方費支辨トナリ北海道廳農事講習所ト改稱セラレ四十三年四月再々國費所屬ニ移サレ組織ヲ改メテ北海道農事試驗場蠶業講習所トナシタリ
 二十四年信州ノ人小林和三郎座繰絲數臺ヲ以テ製絲ニ從事ス
 同年函館辨天町ニ林宇三郎上磯郡谷好村ニ長岡喜市空知郡瀧川村ニ藤川光太郎座繰絲系ニ從事ス
 二十七年札幌製系所安田製系場ヲ主ナルモノトシテ一二臺ノ座繰ヲ以テ繰系スルモノ全道ニ四十八ヶ所ノ多キヲ算シタリ
 三十三年三月札幌製系所火災ニ罹リ開拓使以來唯一ノ機械製絲場ハ遂ニ廢止ノ止ムナキニ至ル
 同年札幌區北八條東一丁目ニ名取好勝足踏及座繰ヲ以テ製絲場ヲ起ス
 三十四年檜山郡江差町ニ五十人繰リノ江差製絲合資會社創設セラレ
 本道ニ器械製絲場八ヶ所座繰製絲組合七ヶ所アリシト雖モ今日現存セルモノハ器械製絲場一ヶ所座繰製絲組合一ヶ所ニ過ギズ如ク製絲場ノ發達セザルハ其經營ノ宜シキヲ得ザルニ由ルベシト雖ドモ絲價ノ變動甚シキト金利高ク工女ノ募集ニ困難ナルモ亦タ其原因ヲナスガ如シ

第三、生産

一、桑園

(一) 面積

本道ハ天然ノ野桑ニ富ミ殆ト到處ニ之ヲ産セザルハナシ開拓使以來桑園造成ノ獎勵ヲナシタリト雖ドモ本道ノ養蠶業ハ重ニ天然ノ野桑ニ依頼シテ發達シタルモノナリ開拓使時代ニ在リテハ既ニ桑園ヲ造成シタルモノアリト雖ドモ其面積ハ統計ノ據ルベキモノナシ明治廿二年ニハ桑園ノ面積二百十九町歩ヲ算シ其栽培地方ハ札幌函館ニ限ラル然レドモ漸次其栽培區

域ハ擴張セラレ其面積モ亦増加セリ而シテ現今ニ至リ九百餘町歩ニ達セリ
今桑園及見積反別ニ區別シテ其面積ヲ掲記スレバ左ノ如シ

年 度	桑園反別	見積反別	合 計
明治二十二年	二九〇	一四七、七	三三六、七
同 二十三年	三三三、八	一六九、五	四〇三、三
同 二十四年	二七、八	一七三、五	四〇一、三
同 二十五年	三七一、一	二四六、八	五二八、九
同 二十六年	三七四、〇	三〇一、九	六七五、九
同 二十七年	二七七、九	三一一、〇	五八八、九
同 二十八年	三八五、一	二七二、九	六五八、〇
同 二十九年	四二一、九	五六二、三	九八四、二
同 三十年	四三三、一	七四六、三	一、一九九、四
同 三十一年	四五一、九	七二九、二	一、一八一、一
同 三十二年	四四〇、〇	八二五、二	一、二六五、二
同 三十三年	三九〇、二	七七九、〇	一、一六九、二
同 三十四年	四二二、八	六四〇、六	一、〇六三、四
同 三十五年	四三三、五	五九五、一	一、〇二八、六
同 三十六年	五二〇、一	七六〇、四	一、二八〇、五
同 三十七年	七〇六、六	八四一、九	一、五四八、五

年 度	桑園反別	見積反別	合 計
同 三十八年	七六、四	一、二七、二	一、九三、六
同 三十九年	九一〇、〇	一、一五、九	二、〇六五、九
同 四十年	八九一、六	一、三〇〇、〇	二、二九一、六
同 四十一年	九八〇、五	一、三三四、四	二、三一四、九
同 四十二年	一、〇一五、五	二、七七一、五	三、七九三、〇
同 四十三年	九二〇、一	二、六四二、八	三、五六二、九
同 四十四年	九八九、四	二、七七一、二	三、七五五、六
大正元年	九七四、三	二、四一八、三	三、三九二、六

(二) 桑樹ノ種類

(1) 道 産 種

桑樹ハ本道到ル處ニ産シ其種類甚タ多シ是迄蠶業講習所及民間ニ於テ栽培試験シタル成績ニヨレバ優良種ト認ムヘキモノ
アリ而シテ特別ノ名稱ヲ付シタルモノアリト雖ドモ未ダ一般ニ之ヲ栽培スルニ至ラズ故ニ廣ク道産種タル名稱ノ下ニ自然
生ノ桑ヨリ苗木ヲ撰擇シテ栽培スルニ過キサルナリ是ヲ以テ本道ノ養蠶ヲ發達セシメントスルニハ道産種中ヨリ優良ノ種
類ヲ撰別シ之レカ苗木ヲ造成シテ其普及ヲ圖ルコト緊要ナリ

(2) 府 縣 産 種

府縣産ノ桑樹ハ本道ノ氣候ニ在リテハ之ヲ春蠶用ニ供スルコト能ハスヲ重ニ夏蠶用ニ供スルモノトス唯ダ膽振國伊達村
地方ニ在リテハ府縣産ノ桑樹ヲ輸入栽培シ春蠶及夏蠶用ニ供スルアリ而シテ其種類ハ九紋龍、大縮緬及奥州赤木ノ三種ナ
リトス夏蠶用トシテハ魯桑ノ實生ヲ行フモノ多シ其他鼠返小牧ノ如キモ本道ニ適スルモノトス十勝ノ氣候ハ特ニ夏蠶ニ適
スルカ如シ而シテ府縣産種ノ桑園ヲ造リ其成績良好ナルモノアリ是迄ノ經驗ニヨレハ夏蠶ノ桑トシテハ魯桑實生鼠返及小

本道ニ於テ安樂育ヲナスハ空知郡浦臼村ニシテ比較的勞力ヲ要スルコト少ク且ツ同一ノ蠶室ニ於テ多量ノ蠶兒ヲ飼育シ得ルノ利アリ

蠶業講習所ニ於テ明治四十三年ヨリ大正二年ニ至ル迄是レガ試験ヲナシタリ其實績ニ依レバ對桑育ニ比シ劣レル点アルモ勞費ヲ節約スルノ利アリ即チ

- (一) 經過日數ハ氣候ノ順否ニヨリテ一様ナラサルモ對桑育ニ比シ三四日間遅ル、ヲ認ム
- (二) 給桑量ハ對桑育ニ比シ稍々多シ
- (三) 蠶体ハ對桑育ニ比シ稍々輕キモ強健ナルガ如シ
- (四) 收繭量ハ春夏蠶共大同小異ニシテ繭質並絲質共安樂育ハ稍々劣レルヲ認ム
- (五) 飼育上對桑育ニ比シ勞力ヲ省キ經費ヲ節約スルノ利アルガ如シ

今普通育ト安樂育トノ經過ヲ示セバ左ノ如シ

春蠶全齡經過表

年次	種別	區別	掃立月日	上簇月日	齡中日數	室內平均	給桑
明治四十四年	春期	標準區	六月二日	七月十日	食桑中一停食中合計 三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	溫度 七六・二	回數 一七四 對紙一匁
大正元年	同	同	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四
大正二年	同	同	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四
明治四十四年	同	安樂育	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四
大正元年	同	同	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四
大正二年	同	同	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四
大正二年	同	同	六月二日	七月十日	三十一日六日 三十四日十三日 三十八日	七六・二	一七四

春蠶ト夏蠶トニ區別シテ其產額額ヲ舉グレバ左ノ如シ

年次	養蠶戶數	春產額	夏產額	合計
明治十九年	?	四九,〇〇〇	一三,〇〇〇	六二,〇〇〇
同二十年	一,一七二	七六,〇〇〇	五九,〇〇〇	一三五,〇〇〇
同二十一年	一,一五〇	七四,〇〇〇	一六,〇〇〇	九〇,〇〇〇
同二十二年	一,四二二	八八,〇〇〇	四九,〇〇〇	一三七,〇〇〇
同二十三年	一,六三五	一,一四一,〇〇〇	九二,〇〇〇	一二三三,〇〇〇
同二十四年	二,二九七	一,四四三,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,五四三,〇〇〇
同二十五年	一,七〇四	一,八二二,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	一,九二二,〇〇〇
同二十六年	二,〇〇〇	一,六三三,〇〇〇	二八二,〇〇〇	一,九一五,〇〇〇
同二十七年	一,九四四	一,五四二,五八	一五三,九九	一,六九六,五七
同二十八年	一,八三三	一,四七,五九四	三〇一,七五三	一,七七八,三四七
同二十九年	二,二四三	一,九七,九二九	二〇六,二六六	二,一八四,一九五
同三十年	二,七〇五	二,五三,六六四	一六八,九五五	二,七〇二,六一九
同三十一年	二,五〇五	二,三四,四九八	一四八,二九二	二,四九二,七九〇
同三十二年	二,五〇〇	二,三〇,九〇〇	三二,五八二	二,四四二,四八二
同三十三年	四,〇四五	三,三〇,九七二	四四,五四六	三,七五四,五二八
同三十四年	四,八七一	三,三八,五五〇	四五四,九三五	四,二三四,四八五
同三十五年	五,一〇四	三,七七,二六六	四六,九八四	四,二四四,二五〇
同三十六年	六,三二五	四,三五,七五五	八三,五三二	五,一九一,二四七

年次	養蠶戸數	春		夏		合計	
		産額	價額	産額	價額	産額	價額
明治三十七年	一〇、三六〇	五、三九五	一四七、〇四〇	二、三八〇	五、〇八八	七、七三〇	二〇二、二八
同三十八年	一〇、五八八	六、二〇七	一四九、九二五	一、三九〇	三七、三六	七、五七〇	二二二、三二
同三十九年	一〇、三八〇	五、九六七	二二六、一二七	一、四二一	四、三三五	七、三七八	二六〇、四六
同四十年	一〇、四七一	六、六四四	二八二、〇三八	一、四七零	五、四三三	八、一七一	三三二、四五
同四十一年	九、九九二	七、〇四〇	二二〇、五四二	八〇、六三八	二〇、七五二	七、八五一	三三一、二五
同四十二年	九、一八三	六、九二七	二〇六、四九九	八八、一七三	二〇、九四〇	七、七四六	三二七、三九九
同四十三年	八、三八八	六、九二二	一九五、三七七	四三三、九〇〇	一〇、四六	七、三四六	二〇五、七三
同四十四年	八、三〇三	六、五四六	二〇六、五九五	三九三、三八〇	一〇、七八七	六、九四〇	二二七、三八
大正元年	七、四二一	五、七四七	一八一、二六三	三七三、四九	一〇、〇〇一	六、一三〇	一九二、二六四

備考 本表ニハ出殻額ノ價格ヲ加算シタリ

三、製糸及製綿

現今機械製絲場ハ札幌ニ五十釜線絲ノモノ一ヶ所アリ從來江差、瀧川、及札幌ニ各々一ノ工場アリ雖モ目下廢業セリ足踏及座繰製絲ハ札幌、小樽、狩太等ニ行ハル、モ札幌ノ産額量モ多シトス製綿ハ殆ド專業的ニ従事スルモノナク隨テ其戸數ヲ舉グルコト能ハザルナリ

今製絲戸數及其産額並ニ眞綿屑物ノ産額ヲ揭示スレバ左ノ如シ

年次	製絲家戸數	機械製絲		座繰製絲		合計
		産額	價額	産額	價額	
明治三十年	二	一七二	五七一	六〇一	一、一七三	
同三十一年	二	一六三	四六一	五七六	一、〇三七	

年次	眞綿及屑物ノ産額及價格ヲ舉グレバ左ノ如シ	眞綿		屑物		合計
		産額	價格	産額	價格	
同三十二年	三	一四四	五三八	?	?	一、〇六一
同三十三年	三	三七七	二八一	?	?	一、〇八四
同三十四年	二	三一九	一七〇	?	?	四八八
同三十五年	二	三三五	一六一	八、八五六	一六、七八	五四三
同三十六年	四	三四二	二七	二、九二九	一七、六二	五九九
同三十七年	八	四六二	八七	四、五四〇	四九、四九	一、四八六
同三十八年	三	四六六	一〇、一一	一〇、三七七	七六、五二	一、六九〇
同三十九年	一九	三三八	一、五三三	一四八、九三	六五、七八	二、〇九二
同四十年	一三	三四三	二、五七八	二、五〇五	九七、九四四	三四二
同四十一年	一四	三三九	二、〇七七	一四六、九六七	六七、二〇五	二、九二六
同四十二年	四	三〇三	二、七六〇	七、一六〇	六、二三〇	四、一五七
同四十三年	二	三九八	二、七〇七	一〇〇、四〇〇	五、二三〇	二、八四一
同四十四年	二	三七九	二、五四四	?	?	四、〇四一
大正元年	三	三〇四	?	?	?	二、四九〇

年次	眞綿		屑物	
	産額	價格	産額	價格
明治十九年	六六	一五		
同二十年	九〇	五四		
同二十一年	一三九	一三四		

年次	產額		價額		產額		價額	
	額	單位	額	單位	額	單位	額	單位
同二十二年	一九二	斤	?	圓	二四〇	斤	?	圓
同二十三年	二七	斤	?	圓	二七	斤	?	圓
同二十四年	二六	斤	?	圓	二〇二	斤	?	圓
同二十五年	二二	斤	?	圓	二二	斤	?	圓
同二十六年	二六	斤	?	圓	三三九	斤	?	圓
同二十七年	三三	斤	?	圓	三四五	斤	?	圓
同二十八年	三二	斤	?	圓	二四〇	斤	?	圓
同二十九年	二〇	斤	?	圓	二二六	斤	?	圓
同三十年	四〇	斤	?	圓	二二七	斤	?	圓
同三十一年	三九	斤	?	圓	三三九	斤	?	圓
同三十二年	二五	斤	?	圓	四〇七	斤	?	圓
同三十三年	二七	斤	?	圓	二〇二	斤	?	圓
同三十四年	二六	斤	?	圓	三〇三	斤	?	圓
同三十五年	一八	斤	?	圓	三三六	斤	?	圓
同三十六年	一七	斤	?	圓	二五三	斤	?	圓
同三十七年	二五	斤	?	圓	三七	斤	?	圓
同三十八年	三〇	斤	?	圓	四五一	斤	?	圓
同三十九年	二六	斤	?	圓	六〇九	斤	?	圓

製絲製綿ノ戸數ハ調査スヘキ材料ナシ

年次	製絲	製綿	合計
同四十年	三七三	八、九二	九一七
同四十一年	三二七	七、五二	八六二
同四十二年	三六一	七、二九	三、六三〇
同四十三年	三三八	七、六三	七三〇
同四十四年	三五八	七、八九	一、三二
大正元年	三二	七、五八	一、一四六

四、蠶種

本道ニ於ケル蠶種製造ハ從來蛆害ニ罹ルコトナカリシト其蠶種ノ比較的強健ニシテ飼育シ易キノ關係ニ依リテ有利ト認メ
 ラレ其製造ニ從事スルモノ少カラス今其產額並ニ價額ヲ掲記スレハ左ノ如シ

年次	一化性		二化性		合計	
	額	單位	額	單位	額	單位
明治三十一年	九四、八一	斤	一五、六四	斤	九九、七三	斤
同三十二年	七四、五六	斤	二〇、四三	斤	七四、五九六	斤
同三十三年	一、二五四、九五八	斤	三三、三七六	斤	一、二八八、三三四	斤
同三十四年	一、〇五四、一八八	斤	三三、六四四	斤	一、〇八八、八三二	斤
同三十五年	八八二、三三三	斤	二二、七四六	斤	九〇五、〇七九	斤
同三十六年	九〇九、五五二	斤	一八、〇〇四	斤	九二七、五五六	斤
同三十七年	九六、一九二	斤	二、三六一	斤	九八、五〇三	斤
同三十八年	五五〇、一四二	斤	二二、六五四	斤	五七二、七九六	斤

年次	一 化性付		二 化性付		二 化性付		二 化性付		合 計	
	製	平	製	平	製	平	製	平	製	平
明治三十九年	八三、〇七	一五、〇六	七、七八	一七、六三	二六、三七	一、〇六	四三、一三	三、一〇	九三、五八	九三、五八
同 四十年	一四八、三三	二九、四六	八五、七四	二二、二五	六七、四八	一九八	一、六五	五〇、八三	一四八、三三	一四八、三三
同 四十一年	一三三、七六	二二、八一	七八、九四	九、七四	五五、三六	二九	一、四九	三〇、九四	一三三、七六	一三三、七六
同 四十二年	一三三、五七	一四、六六	一七五、九四	七、三八	二〇、五八	七二	一、六六	二二、九四	一三三、五七	一三三、五七
同 四十三年	一七四、〇六	一八、六九	一八二、六五	三、七五	六〇、三四	一	一、九五	三〇、七四	一七四、〇六	一七四、〇六
同 四十四年	一四七、八八	二二、四七	一三三、三六	五、五〇	五五、八四	四二	一、六五	一八、〇七	一四七、八八	一四七、八八
大正元年	一、五四、四六	二二、九四	六〇、六六	四、一七	一六、六一	六五	一、六二	一七、二一	一、五四、四六	一、五四、四六
合計	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇	一、〇〇、〇〇

備考 數量ハ蠶業取締所調査材料ニ據ル

價額ハ北海道廳統計書ニ據ル

平付ハ普通製ノ事ナリ

第四、蠶絲業ノ收支計算

本道ノ蠶業ハ未タ幼稚ニシテ地方の産業トナレルノ地方少シ然レモ稍々養蠶ニ従事スルモノ多キ地方ト認メラル、モノニ就キ養蠶製造、座繰製絲、養蠶、桑園ノ大中小ノ三階級ニ區別シテ其經營者數ヲ調査セシニ左ノ如シ

地域	蠶種製造		座繰製絲		養蠶		桑園	
	大	小	大	小	大	小	大	小
空知郡浦臼村	一	一	一	一	一	一	一	一
上川郡愛別村	一	一	一	一	一	一	一	一
磯谷郡南尻別村	一	一	一	一	一	一	一	一
合計	三	三	三	三	三	三	三	三

養蠶家ノ大中小ノ割合ヲ見ルニ左ノ如シ

地域	大		中		小		計
	家數	割合	家數	割合	家數	割合	
浦臼村	七八	二二%	五六	九%	一四	四%	
愛別村	三〇	三〇%	三五	三%	六一	七%	
南尻別村	七七	七七%	四四	五%	四七	八%	
合計	一五五	一五五%	一三五	一三五%	一〇八	一〇八%	

備考

蠶種製造	座繰製絲		養蠶
	大	小	
千枚以上	五百枚以上	五百枚以下	十臺以上
十臺以上	五臺以上	五臺以下	一町歩以上
十二匁以上	四匁以上	四匁以下	二反歩以上

即チ中小ノ經營者其多數ヲ占ムルヲ見ルヘシ
尙ホ更ニ大小ニ區別シテ其收支計算ヲ調査セシカ其結果左ノ如シ

- 一、桑園ノ收支計算(二反歩ノ根別桑園ニ對シ計算)
- 二、磯谷郡南尻別村ニ於テ調査

支出

地代	年次					備考
	初年	二年	三年	四年	五年	
造成費ノ償却資金	九三、〇〇〇	九三、〇〇〇	九三、〇〇〇	九三、〇〇〇	九三、〇〇〇	地代ハ一反歩ニ付一圓五十錢 二反歩ニ付造成費十四圓ニシテ十五ヶ年ニ償却スルモノトス

差引	初年	二年	三年	四年	五年	備考
桑代	〇	二,〇〇〇	七,〇〇〇	三〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	二年目一反歩十貫三年目一反歩三十五貫四年目一反歩百五十貫五年目以上一反歩二百五十貫ノ收業アルモノトシ一貫目十錢六年目ヨリ隔年刈トス
損代						五年目ノ總計ニ於テ二十二圓廿二錢八厘損
合計						

備考

桑苗ハ本道産二年生ノモノニ反歩ニ付二千本(補植トモ)代價千本ニ付五圓(運賃ヲ含ム)計十圓植付人夫ハ再製植付トシテ二反歩ニ付七人一人一日金五十錢計三圓五十錢

植付肥料ハ厩肥ニ反歩ニ付六百貫百貫ニ付金六十錢計金三圓六十錢

六年目ヨリ隔年刈トスレハ損失ヲ回復スルコト能ハサル計算トナル

(三) 樺戸郡浦臼村ニ於テ調査

支出

地代	初年	二年	三年	四年	五年	備考
造成費ノ償却資金	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	一反歩ニ付三圓
造成費ノ利子	一,一三三	一,一三三	一,一三三	一,一三三	一,一三三	二反歩ノ桑園造成費十七圓十七圓ニ付年八朱
肥料代	六,〇〇〇	六,〇〇〇	六,〇〇〇	九,〇〇〇	九,〇〇〇	施肥ハ春秋二回ニシテ一回ニ反歩ニ付人糞尿六石一石ニ付五十錢四年目ヨリ五割増
賃銀	四,四〇〇	四,四〇〇	四,四〇〇	五,六〇〇	五,六〇〇	施肥人夫春秋二回ニ反歩ニ付一圓男二人除草ハ春秋二回ニ付女一人伐採ハ隔年ニシテ結束人夫賃ニ含マシム收業ニ反歩ニ付女四人但シ初年二年三年目迄ハ二反歩ニ付女二人ナリ結束ハ二反歩ニ付女二人
合計	一七,五三三	一七,五三三	一七,五三三	二〇,六〇〇	二〇,六〇〇	

農具指料	初年	二年	三年	四年	五年	備考
農具指料	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	二,〇〇〇	農具一切トス
雜費	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	四,〇〇〇	補植其他一切ヲ含ム
流通資本ノ利子	七,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	一,一三〇	流通資本六圓ニ對シ年一割二分ノ利子トス
合計	一三,一三〇	一三,一三〇	一三,一三〇	一三,一三〇	一三,一三〇	

收入

桑代	初年	二年	三年	四年	五年	備考
桑代	四,〇〇〇	八,〇〇〇	三六,〇〇〇	五〇,〇〇〇	九八,〇〇〇	二年目一反歩二十貫三年目一反歩四十貫四年目一反歩百八十貫五年目以後一反歩二百五十貫ノ收業アルモノトス一貫目十錢五年目ノ總計ニ於テ九圓七十七錢七厘ノ損
損代						
合計	四,〇〇〇	八,〇〇〇	三六,〇〇〇	五〇,〇〇〇	九八,〇〇〇	

五年目迄ハ損失ナリト雖トモ六年目ニ至レハ二反歩ニ付十四圓七十三錢ノ利益トナル

二、養蠶ノ收支計算

(一) 上川郡愛別村ニ於テ調査 (大正元年)

春蠶(蠶量四匁掃立)

支出ノ部

蠶種	數量	單價	價額	備考
桑葉	四枝	一貫	四,〇〇〇	框付蠶種ヲ掃立ツルモノトス
桑具ノ損料	一匁	一貫	一,〇〇〇	蓆籠及網ヲ一組トシ尙此ノ内ニ其他蠶具ヲ含ム
蠶具ノ損料	六枚	二貫	一二,〇〇〇	期間ハ四十五日トシ普通女一人ニテ七匁ノ飼育シ得
質銀	三五	四〇〇	一四,〇〇〇	
質糠	一石	一〇〇	一〇〇,〇〇〇	

差引計	桑條	數量	單價	價額	備考
計	條			三、一五〇	
引	益			五、六八八	

(三) 磯谷郡南尻別村ニ於テ調査 (大正元年)
春蠶(蠶量四匁掃立)

支出ノ部

蠶種	桑葉	蠶具ノ損料	賃銀	糶糠	アオルマリン	木炭	石油	紙及其他一切	殺蛹乾繭料	雜費	數量	單價	價額	備考
種	種	料	料	料	ン	炭	油	切	料	費	四枝	一枚ニ付	一、六〇〇	概製蚕種ヲ掃立ツルモノトス
											二〇〇	一枚	七〇	
											一〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	
											二〇〇	一枚	七〇	
											二〇〇	一枚	三〇	

出 産 額 代	九〇〇,〇〇〇	出 産 額 代	九〇〇,〇〇〇
合 計	八,一〇〇,〇〇〇	合 計	八,一〇〇,〇〇〇

差引金 一千七十一圓五十七錢八厘益

(二) 小 (五百枚以下製) 上川郡水山村ニ於テ調査 (大正元年)

支 出

地 代	金 額	備 考
借家料トシテ建物損料ヲ支拂フニ付キ地代ヲ計算セズ		
自宅兼用ニ付キ單ニ三ヶ月ノ借家料ヲ計算ス	五,〇〇〇	
種繭五石一石金五十圓	二五〇,〇〇〇	
糞紙三十五圓(糞袋共)藥品一磅四十五錢	三七,七〇〇	
紙代一圓蠟燭二十五錢框十圓蠶具三圓七十五錢	三,七五〇	
人夫四十八人十人々、四日間一人一日金五十錢	二四,〇〇〇	
特別蠶種二千枚	六〇,〇〇〇	
蠶種一枚ニ付金一錢二厘	二四,〇〇〇	
箱代及運送費十五圓通信費四十五圓	六〇,〇〇〇	
流通資本四百七十四圓四十五錢ニ對シ一ヶ年一割二分ノ利子トス	五六,九五四	
合 計	五三一,三八四	

收 入

蠶 種 代	金 額	備 考
出 産 額 代	八〇〇,〇〇〇	
計	五〇,〇〇〇	一石ニ付十圓
合 計	八五〇,〇〇〇	

差引金 三百十八圓六十一錢六厘益

四 製絲ノ收支計算札幌區ニ於テ調査 (大正二年度調査)

支 出

種 別	金 額	備 考
地 代	三三,〇〇〇	
固 定 資 本	二八,八三三	家屋二,五〇〇圓(穀地乾繭場六〇〇圓器具機械二,六六七圓計五,七六七圓(二十年使用))
償 却 資 本	二四八,〇〇〇	建物資本三,一〇〇圓ニ對シ年八朱
利 子	二二,三六〇	器械及汽罐一,七七五圓(器具七〇〇圓)器具一九二圓計二,六六七圓二十年使用年八朱ノ利子ヲ損料トス
機 械 器 具 損 料	三,九四九	繭八百四十八石七斗三升六合(一升九匁五分四十二錢)
原 料 代	四,五五二	
燃 料 代	五〇,〇〇〇	
消 耗 品 代	四,八二二	再織費及總括費ト此内ニ含有セラル
給 金 及 工 賃	二五四,六〇〇	一石ニ付三十錢
殺 蛹 乾 繭 代	六七,一〇〇	
荷 造 費		

種別	金額
運賃	二六八、八〇〇
賣込手数料	六五、二五〇
公課金	八八、一六六
雑費	二五二、〇〇〇
流通資本ノ利子	一、六九七、四七
計	四、〇一〇、八〇三

原料代三万三千九百四十九圓三十四錢ニ對シ
年一割ノ利子六ヶ月分

收入

生絲	金額
生絲	四五、三六〇、〇〇〇
屑物其他	一、二二八、五六一
計	四六、五八八、五六〇

生絲五千〇四十斤(百斤ニ付)
金九百圓

差引金 二千五百六十七圓十五錢七厘益

第五、集 散

一、輸移出入

蠶種ノ府縣ニ移出セラル、數量及價額ハ、蠶業取締所ニ於テ調査シタルモノアルニヨリ其概要ヲ知ルコトヲ得ヘキモ其他ニアリテハ統計ノ徵スヘキモノナク到底之レカ調査ヲ行フコト能ハサルナリ然レトモ生絲ハ札幌製絲共同組合ニ在リテハ重ニ福井縣ニ名取製絲場ニ在リテハ横濱ニ移出セリ爾ノ大部分ハ府縣ノ商人ニ販賣スト雖トモ其數量及販路先ハ統計ノ徵

スヘキモノナク依テ蠶種ニ付キ移出數量價額並ニ其販路先キヲ掲記スレハ左ノ如シ

府縣別	四十二年				四十三年				四十四年				特別蠶種 普通蠶種
	蠶數	代價	普通	代價	蠶數	代價	普通	代價	蠶數	代價	普通	代價	
東京	三、五五〇	一、五〇〇、〇〇〇	一	六、〇〇〇	二、五〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一	一、五〇〇、〇〇〇	四、八〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一	一、七〇〇、〇〇〇	一
京都	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
秋田	一、七〇六	四六、四〇〇	一、五八〇	一、八〇〇、〇〇〇	一、二〇一	一、一〇六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	七、一〇〇	一、〇〇六、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
宮城	一、八、三三三	二、〇二、一三三	二、一七〇	二、二〇〇、〇〇〇	二、〇〇七	二、〇〇六、一〇〇	一、五三三	一、八〇〇、〇〇〇	三、九〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇
山形	一、五、七〇〇	一、三三、七〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	二、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇
福島	六、三三三	一、一七、七〇〇	一、一三三	一、一三三、〇〇〇	五、三三三	一、一三三、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	七、三三三	一、一三三、〇〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇
山梨	一、三、〇〇〇	一、三三、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇、〇〇〇	一、三〇〇
岩手	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
岐阜	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
福井	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
神奈川	一、七、〇〇〇	一、七〇、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、七〇〇
富山	一、九、〇〇〇	一、九〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、九〇〇、〇〇〇	一、九〇〇
埼玉	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
新潟	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
栃木	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
奈良	一、〇、〇〇〇	一、〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇

府縣別	四十一年		四十三年		四十四年		特別蠶種 普通蠶種
	框製 代價	普通製 代價	框製 代價	普通製 代價	框製 代價	普通製 代價	
石川	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
非馬	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
長野	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
徳島	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
茨城	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
千葉	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
静岡	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
愛知	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
和歌山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
青森	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
山口	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
高知	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
兵庫	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
鳥取	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
島根	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
熊本	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
三重	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

府縣別	四十一年		四十三年		四十四年		特別蠶種 普通蠶種
	框製 代價	普通製 代價	框製 代價	普通製 代價	框製 代價	普通製 代價	
廣島	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
朝鮮	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
愛媛	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
香川	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
佐賀	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
滋賀	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
清國	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
臺灣	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
岡山	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
長崎	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
福岡	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
大分	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
計	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

尙ホ其總生産額ニ對スル割合ヲ見ルニ左ノ如シ

總生産額 ニ對スル 移出ノ割合	四十一年		四十三年		四十四年		特別蠶種 普通蠶種
	框製 割合	普通製 割合	框製 割合	普通製 割合	框製 割合	普通製 割合	
總生産額	1,668,072	2,945,424	1,975,077	3,076,444	1,656,668	1,729,848	1,729,848
移出ノ割合	61.5%	87.5%	62.6%	69.2%	72.2%	85.9%	59.2%

右ノ表ニ依リテ之レヲ觀ルトキハ本道蠶種ノ六割以上ハ府縣ニ移出セラル、モノト謂フヲ得ヘシ

繭及生絲ノ輸出入ニ對シテハ統計ノ據ルヘキモノナキモ繭ノ大部分モ亦多信州及上州等へ移出セラル、モノニシテ生絲ニ在リテハ機械製絲ハ横濱ニ座繰製絲ハ福井市ニ移出セラル、モノ多シトス横濱ニ販賣セラレタルモノハ悉ク輸出向キトナルヤト謂フニ必スシモ然ルニアラサルカ如シ勿論其一部分ハ海外ニ輸出セラル、モ國內消費ニ充用セラル、モノ亦少カラサルカ如シ

二、販賣方法及狀况

(一) 生絲

機械製絲及座繰製絲トモ多クハ委託販賣方法ニ由ルモノニシテ運送ノ方法ハ重ニ小包郵便トナスナリ

(二) 繭

小包ニテ上州地方ニ郵送スルアリ其成績甚タ宜シキカ如シ片倉組ノ如キ山十組ノ如キハ店員ヲ本道ニ出張セシメ之ヲ直接養蠶家ヨリ買取ルモノト本道ノ仲買商人ヨリ買取ルモノトアリ

(三) 蠶種

農會組合及養蠶家ヨリ直接注文ヲ受ケ郵送販賣スルモノ多シト雖トモ仲買人ニ委託販賣スルモノアリ然レトモ後者ニ在リテハ往々蠶種代ノ不拂トナリ其成績宜シカラス又タ自ラ蠶種ヲ内地ニ持參シテ其販賣ニ努ムルアリ本道ノ蠶種ハ重ニ府縣ニ移出セラル、モノナレハ蠶種製造家自ラ其販賣先キニ出張シ其地方ノ狀況ヲ調査スルハ甚タ緊要ナルカ如シ

第六、蠶絲業ニ對スル現在ノ施設及其成績

一、蠶業補助

蠶業ニ對スル補助ハ明治三十六年ヨリ施行セラレ其補助ヲ與ヘタル事業ハ稚蠶共同飼育、簡易養蠶傳習所、蠶業教師、模範桑園、桑苗親木圃、生繭殺蛹乾燥場、製絲補助、共同製絲組合、製絲器械購入費補助等ニシテ桑園補助ハ明治四十三年ヨリ施行セラレタリ其經費ヲ掲記スレハ左ノ如シ

種別	明治三十六年	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	四十二年	四十三年	四十四年	大正元年	備考
稚蠶共同飼育所	三九七,000	四一八,000	四一八,000	三九七,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	三十九年度ヨリ施行
簡易養蠶傳習所	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三十九年度ヨリ施行
蠶業教師	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	三十九年度ヨリ施行
模範桑園	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
桑苗親木圃	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
生繭殺蛹乾燥場	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
製絲補助	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
共同製絲組合	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
製絲器械購入費補助	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
蠶絲會	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	三九七,000	四一八,000	四一八,000	三九七,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	四一八,000	—

明治三十六年ヨリ大正元年ニ至ル十ヶ年間ニ蠶業補助ノ爲メ支出セル金額十四万六千三百二十四圓八十八錢六厘ナリ

(一) 稚蠶共同飼育場

明治三十六年稚蠶共同飼育場補助規程(明治三十六年一月七日北海道廳令第一號)ヲ以テ發布シ左ノ各號ノ資格ヲ具備スルモノニ對シ一箇所ニ付金二百圓以内ヲ補助スルコト、ナリタリ

一、養蠶者十戸以上ノ共同飼育ヲナスコト

二、蠶量五十匁以上ヲ飼育スルコト

- 三、蠶種ハ春蠶本質ノモノニシテ左ノ種類中ノ一ナルコト
 - 一、小石丸
 - 二、又 昔
 - 三、青 熟
 - 四、蠶種ハ原種合格ノ證印アルモノニ限ル
 - 五、蠶室蠶具ノ設備完キコト
- 稚蠶共同飼育場ニハ蠶業上ノ學術經驗アル者ヲ教師トシテ聘置スルコト亦同一條件タリ而シテ教師ハ道廳長官ノ認可ヲ受タルモノニ限ラル其成績ノ概要ヲ舉クレハ左ノ如シ

年 別	簡所數	共同戸數	掃立蠶量	收繭額	補助金額
明治四十二年	二〇	三三五	一、三八一 ^九	二五、八二 ^石	一、九八〇、〇〇〇
同 四十三年	三三	四三三	一、四二一、六	三三、八三	二、〇八五、〇〇〇
同 四十四年	一八	三二五	一、一三六、九	二四、四八〇	一、八八〇、〇〇〇
大正 元年	一〇	二〇五	六四九、〇	三四、四三	九五〇、〇〇〇

(二) 簡易養蠶傳習所

明治三十六年簡易傳習所補助規程 明治三十六年一月七日廳令第二號ヲ發布シ簡易養蠶傳習所ヲ設立スル者ニ對シ左ノ如ク補助スルコト、セリ

- 一、傳習生一名ニ付金八圓以内
- 二、蠶室其他ノ設備ニ對シ設立ノ初年ニ限金二百圓以内
- 三、教師給料ニ對シ金五十圓以内

補助スヘキ簡易養蠶傳習所ニ對シ其設立者ヲ制限シ町村農會又ハ十人以上ノ發起ニ係ルモノトシタリ
簡易養蠶傳習所ニ於テ傳習スヘキ科目ヲ左ノ如ク定メタリ

- 一、養蠶術實習
 - 二、生繭殺蛹乾燥法實習
 - 三、蠶種製造法實習
 - 四、顯微鏡使用法實習
 - 五、蠶体解剖實習
 - 六、養蠶ニ關スル簡易ナル學科
- 傳習ノ期間ハ八十日以上傳習生ハ十名トナス
其成績ヲ記スレハ左ノ如シ

區 支 應 數	個 所 數	傳 習 延 日 數	修 業 生 數	掃 立 蠶 量	收 繭 額	補 助 金 額
明治四十二年	一〇	二〇〇	一、八七	二八	四〇、四	一〇、四三 ^石
四十二年	八	一七	一、四九四	二七〇	二六、九三	五、八四七
四十四年	八	一三	一、一六六	二七〇	三六、七五	一四、一九三
大正 元年	六	七	六三	一〇〇	三一、八	二七、三九〇

簡易養蠶傳習所ニテハ春蠶及夏蠶ノ傳習ヲナスアリ或ハ春蠶ノミニ限ルアリ製絲製綿傳習所ヲ引繼キ開所スルアリ製絲製綿傳習所ニ對シテハ別ニ補助ヲ與ヘサルモ其教師ハ本廳ヨリ特ニ派遣スルコト、ナシ之レカ設立ノ便宜ト之レカ獎勵トニ勉ム

(三) 蠶業教師

蠶業ノ發達スヘキ主要地ニシテ特ニ町村ニ於テ蠶業教師ヲ雇入レタル場合ニハ一人ニ付平均八十圓ノ補助ヲ與フルモノトス
 教師雇聘期間ハ蠶種催青ヨリ收繭終了迄トス
 蠶業教師指導ノ要点左ノ如シ

- 一、蠶病消毒法
- 二、蠶種催青並ニ貯藏法
- 三、蠶兒飼育法
- 四、生繭殺蛹並貯藏法
- 五、桑樹栽培及病虫害驅除豫防ノ法

其成績左ノ如シ

年次	支應數	個所數	飼育戸數	掃立蠶量	收繭額	補助金額
明治四十二年	九	一八	一、七四九	七、〇三二	一、三三〇、四三九	一、四四〇、〇〇〇
四十三年	六	一五	一、七六〇	七、一〇〇、〇〇〇	一、六一〇、三四五	一、一〇〇、〇〇〇
四十四年	六	二二	二、〇九九	七、五二六	一、五四三、九九	一、六〇〇、〇〇〇
大正元年	四	一〇	一、〇一一	三、五二四、九	七、八四、〇五三	七、八〇、〇〇〇

(四) 桑園

明治四十三年桑園ヲ建設スルモノニ對シ補助金ヲ交付スルノ規程ヲ發布シ左ノ條件ノ下ニ之レヲ交付スルコト、セリ

- 一、桑園用地ハ設置者ノ所有地又ハ國有未開地處分法ニ依ル受貸付地若クハ十ヶ年以上使用ノ權利ヲ有スル土地ニ限ル
- 二、栽培スヘキ桑苗ノ種類ハ本道野生桑中ノ巨種若シクハ本道ニ適スル府縣產種トス

三、桑苗ハ左ノ方法ニ依リ栽植スルモノトス

- 一、桑一反歩ニ付根刈仕立ニ在テハ六百本以上高木仕立ニ在リテハ六十本以上ヲ栽植スヘシ但シ高木仕立ノ場合ニハ栽植後少クトモ五ヶ年間ハ三百本以上ノ根刈仕立ノ間作ヲ爲スヘシ
- 二、桑園ハ毎年二回以上ノ施肥及除草シ培養ヲ怠ルヘカラス
- 三、桑苗ニ枯損ヲ生シタルトキハ翌年春期迄ニ必ス補植スヘシ
- 四、補助金ハ一反歩ニ付栽植ノ初年ハ金三圓以内二年及三年ハ各金二圓以内トス
- 五、一戸ニ付二反歩未滿又ハ一區劃五畝未滿ノ桑園ハ之レヲ補助ス
- 六、桑園設置者ハ栽植後十ヶ年以内ハ北海道廳長官許可ヲ受クルニアラザレバ其ノ桑園ヲ讓渡シ又ハ其目的ヲ變更スルコトヲ得ス

其成績左ノ如シ

年次	支應數	補助人員	補助反別	補助金額	前年植付ニ對スル補助金		合計	
					反別	金額	反別	金額
明治四十三年	二	二五	五、〇五	一、五九一、五〇〇	五、〇五	一、〇〇七、四	二、七三三、一	
同四十四年	三	一〇一	五、四九	一、七四七、〇〇〇	五、三七	一、〇〇七、四	二、七三三、一	
大正元年	一〇	五二	二、六三	七、九六〇、〇〇〇	八、七三	一、七三三、四	二、五五二、一	

(五) 桑苗親木圃

明治三十六年桑苗繁殖ノ爲メ親木圃ヲ設置スル者ニ對シ補助金ヲ交附スルノ規程ヲ發布シ左ノ條件ノ下ニ之レヲ交附スルコト、セリ

- 一、農會又ハ組合其他ノ團體ニシテ三反歩以上ノ親木圃ニ使用スヘキ土地ヲ所有シ又ハ五ヶ年以上占有權ヲ有スルコトヲ要ス

- 二、親木ハ種類良好ニシテ北海道ニ於テ十分繁殖スルモノニ限ル
 - 三、移植ノ年ニ限リ百本ニ付金一圓
 - 四、親木圃新設ノ年ヨリ五ケ年以内ノモノニ限リ親木培養ニ對スル補助トシテ一反歩ニ付一ケ年金七圓以内
- 其成績ヲ見ルニ左ノ如シ

支應別	個所數	反別	親木數	採苗數	補助金額
明治四十二年	四	五	五、九七〇 ^本	三、〇〇〇 ^本	一四〇、〇〇〇 ^円
同 四十三年	五	七	七、九〇〇	一〇、〇〇〇	一六、〇〇〇
同 四十四年	五	七	九、九〇七	四、八〇〇	一八、〇〇〇
大正 元年	四	六	九、九五七	—	一五、〇〇〇

(六) 生繭殺蛹乾燥場

明治三十六年生繭殺蛹乾燥場ヲ設立スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルノ規程ヲ發布シ左ノ條件ノ下ニ之ヲ交付スル事トセリ

- 一、生繭殺蛹乾燥場ノ設立者ハ農會又ハ組合其他ノ關係タルコトヲ要ス
- 二、補助ノ金額ハ一回ニ生繭一石ヲ殺蛹乾燥シ得ルモノニ金五十圓以内一石ヲ加フル毎ニ金四十圓ヲ増加シ最高補助金三百圓ヲ超ヘサルモノトス
- 三、生繭殺蛹乾燥場設立ノ年ヨリ五ケ年以内ニ於テ其事業ヲ停止シ又ハ讓渡若クハ貸付セントスルトキハ北海道廳長官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

生繭殺蛹乾燥場補助成績 (明治四十二年設立)

支應別	設置者	一回殺蛹乾燥量	補助金額	殺蛹乾燥取扱實額
明治四十二年				
四十三年				
四十四年				

支應別	設置者	一回殺蛹乾燥量	補助金額	殺蛹乾燥取扱實額
札幌支應	濱益村農會	二、五〇〇	九〇	一、五〇〇
空知支應	浦臼村農會	二、八八〇	九〇	二、三三〇
上川支應	永山村農會	二、〇〇〇	九〇	一、六〇〇
後志支應	士別村農會	三、〇〇〇	—	—
函館支應	下富良野村農會	三、〇〇〇	—	—
増毛支應	大江村農會	二、五〇〇	—	—
網走支應	上磯蠶業獎勵會	二、四〇〇	—	—
計	遠別村農會	三、〇〇〇	—	—
	苦前村農會	二、〇〇〇	—	—
	常呂外四村農會	一、五〇〇	—	—
	計	九、〇、〇〇〇	九、〇、〇〇〇	八、九五〇

(明治四十三年設立)

支應別	設置者	一回殺蛹乾燥量	補助金額	殺蛹乾燥取扱實額
空知支應	砂川村農會	二、五〇〇	九、〇、〇〇〇	—
後志支應	大江村農會	二、五〇〇	九、〇、〇〇〇	—
室蘭支應	蝦夷富士共同製絲販賣組合	六、〇〇〇	二五、〇、〇〇〇	一五、〇、〇〇〇
網走支應	安平村農會	三、〇〇〇	三〇、〇、〇〇〇	—
計	紋別蠶業團體	三、〇〇〇	九〇、〇、〇〇〇	—
	計	—	六五、〇、〇〇〇	—

(明治四十四年設立)

支應別	設置者	一回殺蛹 乾燥量	補助金額	殺蛹乾燥取扱費額		
				明治四十二年	四十三年	四十四年
後志支應	蝦夷富士共同製 絲販賣組合	六、〇〇〇	二〇〇,〇〇〇			
檜山支應	赤井川村農會 利別村農會	一、五〇〇 五、〇〇〇	五〇,〇〇〇 二〇〇,〇〇〇			
計		五、〇〇〇	九〇,〇〇〇			

備考

明治四十一年迄ニ補助ノ下ニ設置セタル生繭殺蛹乾燥場ハ四十一ヶ所計六十三ヶ所

(七) 器械製絲場

明治三十六年器械製絲場ヲ設立スル者ニ對シ補助金ヲ交付スルノ規程ヲ發布シ左ノ條件ノ下ニ之ヲ交付スルコト、セリ

- 一、補助金ハ器械ノ設備ト生絲製産額ノ二様ニ對シ器械ノ構造種類及生絲ノ品位ニ從ヒ左ノ制限ニ依リ之レヲ交付ス
- (一) 器械設備ノ補助ハ器械一釜ニ對シ十圓以上四十圓以下
- (二) 生絲製産額ノ補助ハ検査ニ合格シタル生絲百斤ニ對シ四十圓以下トス
- 二、器械製絲場ハ左ノ資格ヲ具備スルコトヲ要ス
 - (一) 器械ノ構造ハ二口繰以上ニシテ二十釜以上ヲ設備シ蒸汽力又ハ水力ヲ運轉スルコト
 - (二) 一ヶ年度内ニ於テ生絲二百斤以上ヲ製出スルコト

其成績左ノ如シ

數	明治四十二年		同 四十三年		同 四十四年		大正元年	
	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額
二	一五、六四 ^斤	四、六三 ^圓	四、六三 ^斤	一、七二 ^圓	三、三三 ^斤	七、五〇 ^圓	二、七三 ^斤	〇、〇〇
	八七四 ^斤	四、六三 ^圓	四六二 ^斤	一、七二 ^圓	五二〇 ^斤	三、三三 ^圓	七、五〇 ^斤	二、七三 ^圓
	六〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	三、八一九 ^圓	六〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇	一、八〇〇,〇〇〇

備考

兩製絲場共ニ五十釜ナリトス

(八) 共同製絲組合

共同製絲組合ハ札幌小樽及狩太村ニ在リ補助金ハ生絲製産品ノ検査ニ合格シタル生絲百斤ニ對シ金二十圓ナリトス
本補助ハ明治三十九年以來施行シ來リタリト確モ別ニ規程ナシ
其成績左ノ如シ

數	明治四十二年		同 四十三年		同 四十四年		大正元年	
	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額	製絲額	補助金額
三	二、九五 ^斤	五、三〇 ^圓	八、一三 ^斤	一、四六 ^圓	九、六五 ^斤	一、五三 ^圓	四八〇 ^斤	九六〇 ^圓
	二、九五 ^斤	五、三〇 ^圓	八、一三 ^斤	一、四六 ^圓	九、六五 ^斤	一、五三 ^圓	四八〇 ^斤	九六〇 ^圓
	二、九五 ^斤	五、三〇 ^圓	八、一三 ^斤	一、四六 ^圓	九、六五 ^斤	一、五三 ^圓	四八〇 ^斤	九六〇 ^圓

(九) 製絲器械購入費

明治四十二年足踏及座繰製絲器械ヲ購入スルモノニ對シ補助金ヲ交付スヘキ規程ヲ發布シ左ノ條件ノ下ニ之レヲ交付セリ

- 一、足踏及座繰製絲器械ヲ購入シタルモノニ對スル補助ハ區町村又ハ農會若クハ北海道蠶絲會ニ於テ製絲傳習所ヲ開設スルトキ又ハ本道内製絲傳習所ニ於テ三十日以上製絲ノ實習ヲナセタル女子ニ限ル
- 二、補助ノ方法左ノ如シ
 - (一) 足踏製絲器械接緒器付一臺ニ付金五圓以内
 - (二) 座繰製絲器械ニ就テハ區町村農會又ハ北海道蠶種會ニ限リ之レヲ補助ス

其成績左ノ如シ

蠶絲業

年次	支應數	人員	種類		計	補助金額
			座繰	足踏		
四十二年	五	五	四	三	七六	三六,000
四十三年	五	二元	六	五	一一	三五,000
四十四年	五	二元	七	二	九	三五,000
大正元年	二	二元	四	三	五	一七四,000
大正元年	二	二元	四	三	五	一七四,000

(十) 北海道蠶絲會

本會ハ明治三十六年創立セラレ時ノ道廳長官ヲ會頭ニ推戴シ當業者ノ氣脈連絡ヲ通シ斯業ノ發展ヲ策スル唯一ノ機關トナ
ス道廳ニテハ明治三十七年ヨリ五百圓乃至千六百圓ノ補助金ヲ交付シ其事業ノ發達ヲ圖ラレタリ
大正元年蠶種同業組合組織セラル。ニ及ヒ本會ヨリ金六百圓ヲ該組合ニ交付スルコト、ナリ其補助金ハ一千六百圓ニ増額
ス

其補助ノ年額左ノ如シ

年次	補助金額
明治三十七年	一,000
同三十八年	一,000
同三十九年	五九二
同四十年	五〇〇
同四十一年	五〇〇
同四十二年	一,000
同四十三年	一,000
同四十四年	一,000
大正元年	一,600
合計	八,九二〇

本會ノ事業ハ左ノ條項ニ依リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ

會則第六條

- 一、蠶絲業ニ關シ有益ト認ムル事項ハ之ヲ會員ニ報導シ又ハ需ニ應シ紹介スルコト
- 二、蠶絲業ニ關スル巡廻講話及ヒ短期講習會ヲ開設スルコト
- 三、品評會共進會及集談會ヲ開設スルコト

- 四、蠶絲業ニ關シ質疑ノ應答ヲナスコト
 - 五、蠶絲業ニ關スル官廳ノ諮問ニ答ヘ又ハ本會ノ意見ヲ其筋ニ具申スルコト
 - 六、蠶絲業ニ關スル共同事業ノ發達ヲ圖ルコト
 - 七、蠶絲業ニ關係アル功勞者ヲ調査シ及表彰スルコト
 - 八、會報ヲ發行シ會員ニ配布スルコト
 - 九、前各項ノ他蠶絲業ノ改良進歩ニ必要ナル事項ヲ攻究實施シ又ハ獎勵スルコト
- 本會々員ノ現在數左ノ如シ

年次	名譽會員	特別會員	正會員	計
明治四十三年	一四	一五	三六	五三
同四十四年	一四	一四	三九	五七
大正元年	一四	一五	三六	五五

本會主要事業トシテ施行シタルモノ左ノ如シ

一、會報ノ發行

會報ハ毎月一回之ヲ發行シ會員ニ配布スルモノニシテ一ヶ年ノ發行部數左ノ如シ

年次	發行部數
明治四十二年	六,八〇〇
同四十三年	九,七五〇
同四十四年	八,五〇〇
同四十五年	七,五〇〇

二、品評會

本道ノ蠶業獎勵ノ爲メ第二回品評會ヲ四十二年十月一日ヨリ向七日間札幌區中嶋遊園地北海道物産陳列場内ニ
開催セリ其成績ノ概算左ノ如シ

蠶絲業

- (一) 出品區域 北海道一圓
- (二) 出品人員 九百七十名
- (三) 出品点数 一千二百二十一點
- (四) 授賞人員 三百四十六名

三、フオーマリン共同購入

會員及當業者ノ便利ヲ計リ共同購入ノ方法ニ依リ蠶室蠶具ノ消毒用フオーマリンヲ購入シ各申込者へ分配送付スルノ勞ヲ取リ明治四十二年三百餘封度四十三年四百餘封度ナリキ

四、製絲製綿傳習所

町村又ハ農會ニ交渉シ本會名義ヲ以テ製絲製綿傳習所ヲ開催シ婦女ノ家内工業トシテ斯業ノ普及ヲ圖レリ(一)ク所製絲約三十日製綿約二十日ヲ標準トス其成績左ノ如シ

年次	個所數	修業生
明治四十二年	五	七六
同 四十三年	五	空
同 四十四年	四	五
大正元年	三	三九

五、繭共同販賣所開設

本道産繭ノ販路確立並ニ取引ノ圓滿ヲ促シ以テ養蠶者ノ便利ヲ増進センカ爲メ適當ノ規定ヲ定メ適當ト認メタル地方ヲ撰ヒ繭共同販賣ヲ開設セシメ一ヶ處ニ付金五十圓ヲ補助スルコト、セリ
明治四十三年乃至大正元年ニ於ケル成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

年次	箇所數	取引口數	取引數量	價格
明治四十三年	二	二七	空、三九五	一、六四、三四三
同 四十四年	二	二七	一八、三〇〇	—
大正元年	三	三八	一四、〇六九	三、八四、五八〇

六、繭委託販賣

交通不便ノ農村ニ在リテハ其産繭ノ販路ナク途ニ低價ニ之ヲ販賣シ斯業ノ發達ニ支障ヲ與フルコト少カラサルヲ見本會ニ於テ委託販賣スヘキ途ヲ開キ斯業發達ニ資スル所、ラントセリ其成績未タ顯著ナラスト雖モ比較的高價ニ販賣スルヲ得委託者満足セルカ如シ

本會ノ經費ヲ決算報告ニ依リ之ヲ掲記スヘシ

年次	收入ノ部	支出ノ部
明治四十二年度	二、六五、九九〇	二、六五、九九〇
同 四十三年度	二、九〇、三〇〇	二、九〇、三〇〇
同 四十四年度	三、〇三、五四九	三、〇三、五四九
大正元年	三、七六、六〇四	三、七六、六〇四

(十一) 蠶種同業組合

本組合ハ重要物産同業組合法ニ依リ設立シタルモノニシテ明治四十四年十一月設置ノ認可ヲ得タリ

- 一、蠶種業ニ關スル有益ナル事項ハ組合員ニ報導シ或ハ組合員ノ需メニヨリ紹介ノ勞ヲ採ルコト
- 二、蠶種ノ製造法及種類ノ改善ヲ圖ルコト
- 三、桑園ノ改良及増殖ヲ圖ルコト

- 四、蠶種業ニ關スル統計ヲ明ニスルコト
 - 五、組合員ノ質問ニ對シ調査應答ヲナスコト
 - 六、原蠶種製造ニ關スルコト
 - 七、品評會共進會博覽會開催ノ都度出品ヲ勸誘シ且ツ其ノ總テノ便宜ヲ圖ルコト
 - 八、業務上ノ利害ヲ講究スル爲メ隨時集談會ヲ開クコト
 - 九、官廳ノ諮問ニ答ヘ又ハ業務上ニ關シ行政廳ニ建議スルコト
 - 十、蠶病預防驅除消毒等ノ効果ヲ擧ケシムルコト
 - 十一、組合員ノ使用スヘキ蠶種ノ毒紙ハ組合ニ於テ購入分配シ一定ノモノヲ使用セシムルコト
 - 十二、組合員製造ノ蠶種ニハ組合證票ヲ貼付セシムルコト
 - 十三、育蠶製種ノ期間ニ於テ組合ノ飼育場及製造場ニ組合検査員ヲ派遣シ隨時検査ヲ行フコト
 - 十四、組合員生産蠶種ノ販路擴張ニ關スル調査
- 本組合ハ設立以來日尙ホ淺ク素ヨリ其成績ノ見ルヘキモノナキモ設立當時ニ於ケル組合員ハ百十七名ニシテ第一着ニ蠶蛆驅除及優良ノ原種配布ニ努メタリ
- 其經費左ノ如シ

經 費	收 入	支 出
明治四十四年度	一五九、三〇〇	一五九、三〇〇
大正元年	一、〇三八、六九九	八五五、四六五

二 蠶業指導

蠶業指導ハ主トシテ農業技手及臨時囑託員ニ依リ養蠶ニ適スル地方ニ對シ之ヲ行フコト、ナシ本道ヲ三方面ニ區分シ各其

擔當區ヲ定メ其指導ノ任ニ當ラシム臨時囑託員ハ一ヶ町村若クハ二ヶ町村ヲ一區域トナシ養蠶ノ期間巡廻指導ヲナス今養蠶ニ關スル臨時囑託員ノ指導成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

年 月 日	指導區域數	指導戶數	掃立蠶量	收繭額	蠶量一匁ニ付收繭額	出張日數	旅費額
明治四十二年	九	五〇二	一、九九七	三七七、四七五	三〇	三〇	五七七、九五〇
同 四十三年	九	三三二	一、〇三八	四九、一〇〇	二六	二六	五二〇、〇〇一
同 四十四年	七	六〇〇	一、三三二	三六、二二二	二六	二六	四七三、三三〇
大正元年	八	五六一	一、七七七	四四、〇五二	二六	二六	三三一、〇四〇

又タ製絲製綿指導ニ對シテハ製絲製綿ニ堪能ナル婦人ヲ臨時囑託員トシテ採用シ其指導ノ任ニ當ラシム其成績左ノ如シ

年 月 日	箇所數	開催日數	生徒數	原繭使額	製絲額	製綿額
明治四十二年	九	三七五	一三八	五三、一八九	三〇、六五四	一九、〇九〇
同 四十三年	九	三三〇	二一八	二七、二二二	二二、八二二	四、四五九
同 四十四年	七	三〇〇	二四	三三、八三三	一六、〇一一	一四、五八八
大正元年	八	二八〇	九六	一七、三〇〇	一四、〇六五	一、七三五

三 種苗配付

北海道蠶種苗配付規則ニヨリ蠶種及桑苗ヲ配付シタル數量左ノ如シ

年 月 日	春		夏		秋		冬		合 計	
	配付人員	出願數量	配付人員	出願數量	配付人員	出願數量	配付人員	出願數量	配付人員	出願數量
明治四十二年	一九六	一〇九、八六六	五	二五	二五	二五	二五	二五	五八	六五九、二四七
同 四十三年	一〇九、八六六	三三、四四三、二二	三二	二七	二五	二五	二五	二五	七三	二〇五、九〇〇
同 四十四年	五二四	一〇九、八六六	三二	二七	二五	二五	二五	二五	九二	一〇八、〇〇〇
大正元年	一九六	一〇九、八六六	五	二五	二五	二五	二五	二五	五八	六五九、二四七
合 計	五二四	一〇九、八六六	三二	二七	二五	二五	二五	二五	九二	一〇八、〇〇〇

年 度	製造者數		原 毒		其 他		病 毒 百分率 合格	製 絲 用 種		經 費
	無	有	有	無	計	合格		不合格	計	
明治三十六年	二二二	一〇七	九七四	四六	三三六	一、四三、一五六	四二	二六	四七	一三、六三、六八七
同 三十七年	二二八	一〇四	一、〇六五	三四	〇六九	一、〇七九、八八二	三三	四三	二、三三	二、五八、六五一
同 三十八年	一八九	五九	〇八六	二七	五八	六四、七四〇	四	二四	九〇三	一三、〇九、七九一
同 三十九年	一七四	一〇四	三八〇	三〇	五九	二〇、二二三	三三	三三	〇四四	一四、六六、八九九
同 四十年	二〇三	一五七	三二一	二八	七三	二、七四一、六四八	二五	五〇	八八三	一五、二四、三〇六
同 四十一年	一五三	一三九	四二四	二六	三八	一、四九、〇〇〇	二	三〇	九五四	一四、〇四、九八六
同 四十二年	一九九	一五九	三六七	四三	九六	三、七七一	五二	二一	四九五	一五、七七、一七二
同 四十三年	二〇二	一八六	三六三	五	九七	一、九七、〇二二	四	三〇	七八四	一五、九八、九五二
同 四十四年	二一七	一五八	七四九	六〇	七二	一、六五、六六八	四	一七	六二五	一六、九三、四四七
大正 元年	一〇九	一五七	二八一	六九	四五	一、六五、一三三	四	一七	三三二	一七、八三、六〇七

本道ニ於ケル原種ノ製造額ハ明治三十九年迄百万蛾内外ニ昇降セリト雖モ四十年ニ至リ激増シテ百六十万蛾ニ達シ四十年ノ百九十五万七千蛾ハ最多ヲ示シ爾來多少減少セリト雖モ尙ホ百六十餘万蛾ヲ算セリ而シテ病毒ノ歩合モ僅ニ二乃至四%ノ間ニ在リ

本道ニハ從來蠶蛆ノ發生ヲ見サリシカ明治四十二年以來漸次其ノ發生ノ數増加被害ノ度猛烈ヲ極ムルニ至リタリ然レトモ幸ニ其發生區域ハ札幌區及札幌郡ニ限ラル、ヲ以テ蠶絲業法施行ト共ニ之ヲ施行區域トナシ之レカ驅除豫防ニ努ム蠶蛆ヲ捕獲シタル數ヲ掲記スレハ左ノ如シ

明治四十四年 七六、四六四頭
大正 元年 九六、〇〇〇頭

五種蠶審査

種蠶審査會ハ蠶絲業法施行ノ結果之ヲ設立セラレタルモノニシテ本道ノ蠶種ハ主トシテ府縣ニ移出セラル、モノナレハ優其ノ蠶種ヲ産シ府縣産ニ比シテ優勝ノ位置ニ立ダシムルニアラサレハ到底本道ノ蠶種製造業ノ發達ヲ期待シ得ヘカラス是レ種蠶審査會ヲ設立セシ所以ナリ本會ヲ設立シテ以來日尙ホ淺ク未ダ其成績ノ見ルヘキモノナキモ今種蠶審査ノ成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

化 性 名 稱	點 數	蠶 數 量	不 合 格		原 蠶 種 製 造 額
			蠶 數 量	製 造 額	
一化性 青熟	三〇	一〇、三三四	四、〇四	五、〇七四	
又昔	二七	七、三二九	一、五〇六	五、二、六二二	
伊達錦	二	一一〇		一、二五七	
白龍	二	八〇〇	七〇〇	五八六	
滑白	一	四〇		二七八	
支那又	一	四〇		四一七	
飛白	一	一〇〇		二、七八八	
大巢	一	一〇〇	一〇〇		
蝦夷錦	三	七〇〇	三〇〇		
小石丸	一	一五〇		八〇九	
中巢	一	一〇〇		五五二	
小計	七〇	一九、八〇三	六、六〇〇	一〇、九、七七二	
二化性 白龍	二	七二〇	七〇〇	八二二	

大正 元年

化性名	傳	点	數	繭數量	不合格繭數量	原繭種製造額
二化性	大白龍	一	一八〇	一、五〇六		
	寶玉	二	八〇	三〇八		
	長白龍	二	五八	三、四〇七		
	大和錦	一	五〇	六四三		
	白飛	一	五〇	六四		
	富貴ノ基	一	三〇			
	五大州	一	三〇			
	小計	二	一、八五六	一、〇一〇	七、九二	
	合計	八	二、二六二	七、六四〇	一七、〇六三	

六 試験、調査、及講習生養生

是等ハ蠶業講習所ニ於テ専ラ施行セル事業ニシテ其項目ヲ舉クレハ左ノ如シ (農事試験編參照)

- 一、桑樹ノ試験及調査ニ關スルコト
- 二、蠶兒飼育試験及調査ニ關スルコト
- 三、蠶病ノ試験及調査ニ關スルコト
- 四、製絲ニ關スルコト
- 五、蠶種及桑苗ノ配付ニ關スルコト
- 六、講習生ノ養成ニ關スルコト

第七、將來ノ產繭額

一、養蠶ニ從事シ得ヘキ戸數ヨリ推定スルモノ

本道ノ農耕ニ適スヘキ土地ハ約百四十五万町歩ニシテ之レニ容ルヘキ農家戸數ハ約三十万トナルヘキナリ然ルニ副業トシテ養蠶ニ從事シ得ヘキモノハ重ニ五町歩内外ノ耕地ヲ有スル小農家ナルヘキナリ五町歩以上ノ中農家ニ在リテモ其家族ノ數ニヨリテ養蠶ニ從事スルモノアランモ其戸數ハ比較的少數ナルヘシ然ラハ五町歩以下ノ農家戸數ハ幾何トナルヘキヤ其豫想ニ難スルモ今其現在ノ狀況ヲ觀ルニ左ノ如シ

明治四十四年	戸數	五反歩未満	五反歩以上	一町歩以上	二町歩以上	三町歩以上	五町歩以上	合計
明治四十四年	同	二〇、七四	一五、五二〇	一九、四九八	二六、四〇九	三七、九七六	三六、一二七	一五六、二四四
大正元年	同	二二、三六	一六、四二八	二〇、九〇	二七、五五三	三七、九五〇	三六、〇四二	一六〇、三四四

五町歩以下ノ農家戸數ト總農家戸數トノ割合ヲ見ルニ左ノ如シ

明治四十四年	五町歩以下ノ農家戸數	總農家戸數ニ對スル割合
明治四十四年	一一〇、一二七	七六、八%
大正元年	一二四、三〇三	七七、五%

然ルニ本道ニアリテハ二町歩以下ノ小農家ニ在リテハ都會ニ接近セル蔬菜栽培者ノ外ハ專業的ニ農業ヲ營ミ一家計ヲ立ツルコト容易ニアラサルナリ故ニ是等ノ農家ノ多數ハ將來ト雖モ養蠶ヲ營ムコトヲ得ルモノト豫想スルコト能ハサルナリ依テ二町歩以上五町歩未満ノ農家數ヲ見ルニ左ノ如シ

明治四十四年	二町歩以上五町歩未満ノ農家戸數	總農家戸數ニ對スル割合
明治四十四年	六四、三八五	四一、二%
大正元年	六五、五四三	四〇、八%

若シ將來此割合ニ農家戸數ハ増加スルモノトスルトキハ約四〇%ハ養蠶ヲ營ミ得ルモノト豫想スルヲ得ヘキナリ然レトモ
本道ニハ釧路根室ノ如キ氣候ノ關係上養蠶經營ニ困難ナル地方アルヲ以テ此ノ割合ノ以下ニ降ルモノト豫想スルヲ穩當ト
スルカ如シ故ニ更ニ東北地方ノ狀況ヲ參酌スヘシ

二、東北六縣ノ實例ニヨルモノ

東北地方ニ於ケル農家戸數ト養蠶家戸數トノ割合左ノ如シ

縣名	明治四十一年		同 四十二年		同 四十三年		同 四十四年		大 正 元 年		
	農家戸數	養蠶戸數	農家戸數	養蠶戸數	農家戸數	養蠶戸數	農家戸數	養蠶戸數	農家戸數	養蠶戸數	
宮城縣	八四、四〇	二五、五六	三〇、二八	八四、六三	二八、〇九	三三、三〇	八五、八三	二九、三四〇	三四、一五	八六、九六	三〇、〇五
福島縣	二六、〇二	六、〇八	四六、八〇	一三、八七	六二、四八	五〇、四四	三三、九四	六四、九四	五二、三四	二四、七四	五二、四三
岩手縣	九一、六四	二〇、一三	二九、〇九	九、二八	二二、四八	三三、二八	九、九五	二二、一七	二五、〇三	九三、九四	二二、九二
青森縣	七〇、四三	三、三二	四、五九	七〇、三三	三、五八	四、六三	六九、一八〇	三、二六	四、六六	七〇、一五	二、五六
山形縣	八六、三〇	三、七〇	四、八六	八六、三七	三、八二	四、〇六	八六、〇九	三七、三七八	四、四一	八六、〇〇	三七、二八
秋田縣	七、二〇	一、九六	一八、〇九	七、九六	一三、六七	一七、三三	七、七八	一三、八三	一七、六二	七、九二	一三、八四
計	五五、七二	一五、九七	三〇、四三	一五、三六	二七、〇四	三三、一四	一四、五九	二七、九一	三三、四一	一四、五九	二七、九一
福島山形以外ノ計	三三、四〇	六、八四	一九、三三	六、四四	一六、五七	二〇、三九	六、六〇	一六、六四	二一、三〇	六、三九	一六、六八

備考 福島及山形ノ兩縣下ハ養蠶業ノ最モ發達セル地方ニシテ本道ニ在リテハ是等ノ地方ト同様ノ發達ヲ遂クヘキ地

方ナカルヘキヲ以テ右ニ縣ヲ除キテ農家ニ對スル養蠶戸數ノ割合ヲモ參考ノ爲掲記セリ

東北六縣ノ平均ハ總農家戸數ニ對シ約三〇%ハ養蠶ヲ營ムモノナリ然ルニ最モ蠶業ノ發達セル福嶋山形ノ二縣ヲ除キ他ノ四縣ヲ平均スレハ約二〇%トナルナリ

三 本道ノ現況ニヨルモノ

更ニ本道ニ於テ現在稍々蠶業ノ發達セル町村ヲ撰シテ其割合ヲ見ルニ左ノ如シ (明治四十四年)

町村名	農家戸數	養蠶戸數	農家戸數ニ對スル養蠶戸數ノ割合
苦前村	五二〇	一一〇	二一、五%
愛別村	一、〇〇四	四八〇	四七、八%
東旭川村	二、二七六	三三五	一五、九%
浦臼村	七八五	四六〇	五八、七%
狩太村	九二二	三六八	四〇、三%
南尻別村	一、一三〇	一七七	一四、四%
計	六、七二七	一、七四〇	二五、八%

又々全道ノ農家戸數ト養蠶家戸數トノ割合ヲ見ルニ四、六%乃至五、五%ヲ占ム即チ左表ノ如シ

年次	農家戸數		養蠶家戸數		對スル割合%
	春	夏	春	夏	
明治四十三年	一五、一三七	七、四五四	八八四	八、三三八	五、五%
同 四十四年	一五、一四四	七、六六七	六二六	八、三〇三	五、三%
大正元年	一六、〇三四	六、八八四	六二七	七、四四一	四、六%

前表ニ依レハ近來其割合ノ減少ヲ示スト雖トモ是レ絲價下落ノ影響ヲ受ケタルノ結果ニシテ將來拓殖ノ進歩桑園ノ造成等
ニ依リ漸次其飼育戸數ノ増加スルモノト看做スコトヲ得ヘク約農家戸數ノ二〇%乃至二五%ハ養蠶ニ従事スルモノト推定
スルモ過大ノ嫌ナカルヘキナリ

四 桑園ニ使用シ得ヘキ面積ヨリ推定スルモノ

本道ノ農耕地百四十五万町歩ノ内根室釧路及十勝ノ一部ノ如ク海霧襲來ノタメ養蠶ニ不利ナル地方アルヲ以テ各地一般ニ

副業トシテ之ヲ獎勵スルコト能ハサルモ右ノ地方ヲ除クハ殆ト養蠶ニ適セサルハナシ而シテ桑樹ノ如キモ府縣産ハ春蠶用ニ適スルモノナキモ道産ヲ栽培スルトキハ全道ニ栽培セラレサルハナシ故ニ平坦ナル水田地方ヲ除クハ其農業組織上桑樹ヲ栽培シ得ヘク且ツ傾斜地ノ利用上桑樹ノ栽培ニ適スルアリ是レヲ以テ副業トシテ養蠶ヲ營ムニ至ラハ桑園ノ面積ヲ擴張シ得ヘキナリ府縣ニアリテハ桑園ノ反別ハ農耕地ノ八・八%ニ當ルカ如シ本道ノ桑園ヲ此域ニ達セシムルハ農業組織上適當ト認ムルコト能ハサルモ約三%ヲ之レニ充用スルコト能ハサルニアラサルヘシ然レトモ是レ違キ將來ノ事ニ屬スヘキヲ以テ其-%ヲ桑園トシテ利用シ得ヘキモノトスルトキハ其面積約一万五千町歩ニシテ桑園一反歩ニ付産額六斗ト見積ルトキハ約九万石トナルヘキナリ

今東北地方ノ桑園ト農耕地トノ關係ヲ調査スルニ左ノ如シ

桑園反別	四十二年		四十四年		大正元年	
	農耕地反別	桑園割合	農耕地反別	桑園割合	農耕地反別	桑園割合
福嶋縣	四一、〇四七	一七、八三七	四一、〇四七	一八、〇一三	四一、八三六	一八、一五八
宮城縣	一六、五七	二〇、五三〇	一六、五七	二二、三八八	一六、七〇九	二二、〇七
山形縣	三、九〇六	二九、七九〇	三、九〇六	三〇、〇五四	一七、六	二二、五六九
秋田縣	五、三三八	三四、八八六	五、三三八	三四、六二四	三、九	五、七三九
岩手縣	一五、三三九	一四、六九二	一〇、七	一五、三三九	一〇、八	一六、六二六
青森縣	一、〇八三	一〇、九五八	一、〇八三	一一、六八一	〇、九	一一、五〇
計	一〇一、七〇	八六、二三三	一〇一、七〇	八二、一一〇	一一、〇	一〇五、六九九

東北六縣ニ在リテハ農耕地總面積ニ對シ一%以上ヲ桑園トシテ利用スルモ如斯キハ到底本道ノ農業組織上相容レサルカ如シ青森縣ノ如キハ約一%ニ過キス秋田縣ニ於ケル桑園ハ約四%ニ當ルカ故ニ將來本道ノ桑園面積約三%ト見積ルモ過大ノ嫌ナシト雖モ先ツ青森縣ト相近キ一%即約一万五千町歩ヲ以テ桑園ニ利用セントスルハ失當ニアラサルヘシ然レトモ

現狀ヨリ之レヲ推セハ此地域ニ達セシムルハ容易ニアラサルナリ

五 需給ノ關係ヨリ推定スルモノ

我國ニ於ケル生絲生産ノ大部分ハ外國ニ輸出セラル、モノニシテ生絲ノ生産増加スト共ニ輸出額モ亦増加シ内國ノ消費ハ著シキ増加ノ狀況ヲ呈セサルナリ故ニ生産ハ殆ント全ク外國輸出ヲ目的トスルモノニシテ隨テ其價格モ亦外國ノ市場ニ制セラル、モノナリ

年次	生絲ノ生産額	生絲ノ輸出額	内國消費額	内國消費ノ割合
明治三十六年	一三、四八、〇〇〇斤	七、三三、五三二斤	五、一三、四九九斤	四一%
同 四十一年	一六、九四、六四	一一、五二、七九五	五、四四、八九九	三三%
同 四十四年	二二、三四、一五〇〇	一四、四六、〇四七	六、八五、四五三	三三%
大正元年	二二、九三、四九九	一七、一〇、五七四	五、八〇、八四五	二五%

今世界ニ於ケル生絲ノ生産額ヲ見ルニ左ノ如シ

年次	西 歐	東歐及中亞	東 亞	合 計
明治三十六年	四、三六一	二、五三〇	一一、二四四	一八、一三五
同 四十一年	五、五五一	二、六九三	一五、八三六	二四、〇八〇
同 四十四年	四、三三〇	二、九六〇	一七、二八〇	二四、五七〇
大正元年	四、九九〇	二、三〇〇	一九、四五〇	二六、七四〇

備考 大正元年ハ概數ヲ揚ク

又々世界ノ生産額ニ對シ我國ノ輸出額ハ何割ヲ占ムルヤヲ見ルニ左ノ如シ

	世界ノ生産額	日本ノ輸出額	世界ノ生産額ニ對スル日本ノ輸出額ノ割合
明治三十六年	一八、二五	四、六八	二五、四%
同 四十一年	二四、〇八	七、五〇	三一、四%
同 四十四年	二四、五七	九、三〇	三八、一%
大正元年	二六、七〇	一〇、六〇	三九、七%

備考 大正元年ハ概數ヲ掲ク

右ノ表ニ據リテ之レヲ見ルニ世界ノ生産額ハ漸次増進ノ趨勢ヲ示スト雖モ我國ノ輸出額ハ激增ノ景況ヲ示シ其需用モ亦タ増進ノ傾向アリ是ヲ以テ本道ニ於テ養蠶ヲ營ムノ結果其生産ヲ増進セシムルモ生産過超ノ虞ナキカ如シ然レトモ生絲ハ必要品ニアラスシテ奢侈品ニ屬スルモノナルカ故ニ世界ニ於ケル經濟上ノ景氣ト不景氣トハ殊ニ其價格ニ顯著ナル影響ヲ及ホスヘキハ止ムヲ得サルノ事實ニシテ斯業ニ依リテ我國唯一ノ輸出品タラシムルハ國際貿易上確實健全ナルモノト謂フヲ得サルハ斯業ノ弱點ナリトス

六 結 論

將來ノ產繭額ハ如上ノ推定ニ依リテ左ノ如ク決定スルヲ得ヘシ

一 將來農家戸數約三十万戸ノ内

將來養蠶家戸數六万戸乃至七万五千戸(總農家戸數ニ對シ二〇—二五%)

將來產繭額 六万石乃至七万五千石(一戸平均一石ノ割合)

二 將來桑園面積約一萬五千町步(耕地面積ノ約一%)

將來產繭額約九万石 (桑園一反歩ニ付約六斗ノ產繭額)

即チ將來ノ產繭額ハ六万石乃至九万石ノ間ニ在リト謂フヘシ依テ約十万石ノ產繭額ニ達セシムルヲ以テ大体ノ方針トナシ

是レカ發達ヲ謀ラハ決シテ過小ニアラサルヘシ此域ニ達セシムルニハ非常ノ努力ト稍ヤ永キ歲月ヲ要スルコトヲ覺悟セサルヘカラサルナリ

第八、蠶種製造ノ將來

一、蠶種製造ノ利トスル点

本道ノ氣候ハ蠶種製造ニ適セサルニアラス而シテ蠶種製造上利点トスル所ハ左ノ三点ニ在リトス

- 一、病毒ノ少キ事
- 一、蠶蛆被害ノ區域狭小ナルコト
- 一、蠶種ノ比較的強健ナル事

蠶病ノ少キ事

蠶病ノ最モ恐ルヘキモノハ微粒子病ニシテ本道ノ蠶種ハ比較的該病ニ罹ルモノ少キハ蠶種製造家ニ最モ有利ナル点ナリトス蠶業取締所ニ於ケル検査ノ成績ニ據レハ左ノ如シ

年	病 毒		合	
	性 二 化 性	性 一 化	性 二 化	性 一 化
明治四十一年	二%	—%	二%	—%
同 四十二年	二	—	二	—
同 四十三年	三	—	三	—
同 四十四年	四	—	四	—
大正元年	四	—	四	—

蠶蛆ノ被害少キ事

蠶蛆ハ近來札幌區附近ニ發生シ其被害ノ猛烈ナルコト殆ト府縣ニ劣ラサルモノアリト雖モ其被害ノ區域ハ甚タ狹隘ニシテ

未タ他地方ニ蔓延セサルヲ以テ其驅除豫防ニ努メ之レヲ廣ク蔓延セシメサルトキハ蠶種製造家ニ甚大ノ打撃ヲ與フルノ被害ヲ免ル、コトヲ得ヘク本道ノ蠶種製造業ヲシテ有利ノ位置ヲ保タシムルコトヲ得ヘシ

蠶種ノ比較的強健ナル事

本道ノ蠶種ハ府縣ニ移入セラレ飼育セル成績ニ依レハ其蠶兒比較的強健ニシテ飼育シ易ク其生繭ハ糸量多ク解舒亦惡シカラス是レ本道蠶種ノ優點ニシテ府縣ノ養蠶家ニ歡迎セラレタル所以ナリ

二、蠶種製造ノ不利トナル點

然ルニ本道ノ蠶種ハ重ニ府縣ニ移出セラル、モノニシテ其ノ競争上不利トスル所左ノ三點ニアルカ如シ

一、卵粒ノ少キコト

一、蠶種製造ノ時期ハ府縣ニ比シテ遅キコト

一、府縣ニアリテハ蠶種ニ對シ可成地方ノ蠶種ヲ使用セシムルニ努ムルカ故ニ其競争上不利ノ位置ニ立ツコト

右三點ノ内第一ハ野桑ヲ使用スルノ結果ナルカ如シ故ニ將來栽培桑ヲ使用スルニ至ラハ之ヲ改善スルコト能ハサルニアラサルヘシ第二ハ氣候ノ關係上止ムヲ得サルモノアリト雖モ蠶種製造家ハ自家ノ利益保護上適當ノ方法ヲ講シ其販路ノ擴張及得意先ノ維持ニ努ムルカ故ニ蠶種製造業ノ發達上大ナル障害ト認ムルコト能ハサルモ第三ノ點ニ至リテハ各府縣ニ於ケル排外的獎勵ノ結果本道蠶種ノ販路ヲ擴張スルコト容易ニアラサルカ如シ本道蠶種ノ最モ多ク移出セラル、地方ハ秋田、山形、福島、岩手、岐阜、富山、埼玉、新潟、茨城、千葉、群馬、長野、宮城ノ十三縣ニシテ明治四十三年ノ調査ニヨレハ其ノ移出額及掃立枚數ハ左ノ如シ

府縣名	移出額		掃立數	移出額ニ對スル蠶種ノ割合
	枚數	額		
秋田縣	五五、九七	一、一六四	二四、四〇五	七、〇%
宮城縣	三三〇、七四	一、五二二	三、八一九	三、七%

府縣名	移出額		掃立數	移出額ニ對スル蠶種ノ割合
	枚數	額		
山形縣	一〇一、〇九七	一、五九五	一四六、六三五	一、七%
福島縣	五五、七三	五五八	二八二、一三一	〇、四%
岩手縣	一九、七九	九七六	五〇、六五一	四、三%
岐阜縣	五四、三四九	六五二	二二三、〇九七	〇、五%
富山縣	二九、四五六	五八	二五、八四五	三、二%
埼玉縣	四三、〇四	二〇六	三三九、〇七	〇、七%
新潟縣	二〇五、六三一	五、七二	九五、三三六	八、四%
群馬縣	三〇、四六〇	一、六二	四八七、〇〇八	〇、三%
長野縣	三二、〇三四	一、二八八	八二七、五六一	〇、一%
茨城縣	七、八三四	八六七	一八四、八三六	〇、八%
千葉縣	八二、四七二	一、一七〇	二四、六〇〇	一、六%
計	一、二二、六四五	一九、七七〇	三〇、七八五	一、六%

右十三縣ノ中其地方ノ掃立枚數ニ對シ本道ヨリ一%以上ノ移入ヲナスモノハ秋田、宮城、山形、岩手、富山、新潟、千葉ノ七縣ニシテ殊ニ最多ノ移入ヲナスハ秋田宮城岩手新潟ノ四縣ナリ

本道ノ蠶種業ヲシテ最モ健實ナル發達ヲ遂ケシメントスルニハ本道ノ蠶絲業ノ發達ヲ謀リ蠶種ノ需要ヲ増進セシメ其販路ヲ確實ニスルニアリト雖モ蠶業ノ未タ微々トシテ振ハサルノ時代ニ在リテハ府縣ニ於ケル販路擴張ノ成否ニヨリテ其盛衰ヲ決セラルヘキナリ是ヲ以テ本道蠶種ノ需要ヲ増加セシムルノ餘地アリヤ否ヤヲ確メ且ツ其需要スヘキ品種品質ヲ查察シ之レニ適應スヘキ蠶種ヲ製造セシムルハ蠶業ノ發達上甚タ緊要ナリトス

道廳ニ於テモ勿論是等ノ調査ヲナスノ必要アリト雖モ蠶絲會若クハ蠶種同業組合ヲシテ是等ノ調査ヲ行ハシムルハ適當ノ

措置ナリト信スルナリ

蠶業講習所ニ於テハ從來蠶種ニ關スル試驗ヲ行ヒ優良ノ蠶種ヲ製造シ之ヲ當業者ニ配布セリト雖モ一層此方面ニ其力ヲ盡シ優良ノ蠶種ヲ製造シテ以テ本道蠶種ノ聲價ヲ高カラシムルハ斯業發達上甚々緊要ナリトス

第九、蠶絲業ニ對スル將來ノ方針及施設

一、方針

本道ノ蠶業ハ開拓使以來銳意之レカ保護獎勵ニ努メ其發達ヲ謀リタルノ結果養蠶及製絲ノ業發達進歩ノ兆ヲ呈シタリト雖モ地方別ニ其盛衰ノ跡ヲ觀ルトキハ殆ト固定的ノ發達ヲ遂ケタルモノナク十年前ニ養蠶ノ盛ニ行ハレタル地方ニシテ今日微々トシテ振ハス僅ニ其影ヲ止ムルニ過キサルモノアリ而シテ本道全体ノ生産額ヨリ推ストキハ明治四十年以來漸次減少ノ傾向ヲ呈シ前途ノ發達ヲ危ムモノアルニ至ル然レトモ是レ絲價低落ノ影響ヲ受ケタルモノニシテ風土ノ關係及農業組織上ヨリ調査スルニ副業トシテ多少ノ蠶業ヲ營ムハ有利ノ業務ニ屬シ生絲ノ品質モ亦優良ニシテ輸出品トナスニ足ル則チ之レカ獎勵ヲナスノ必要アリト認ム然レトモ本道ノ如キ新開地ニ在リテハ開墾及耕耘ノ業務ニ繁忙ナル爲メ未タ養蠶ニ從事スヘキ餘暇ナキハ止ムヲ得サルナリ蠶業地方ノ盛衰常ナキハ開墾未タ成ラサルニ強制的保護獎勵ヲ加ヘタル結果一時其盛況ヲ見ルニ至リタリト雖モ其強制的保護獎勵ノ止ムト同時ニ漸次衰頹ノ傾向ヲ呈シ遂ニ之ヲ全廢スルニ至レルモノ、如ク決シテ蠶業ノ本道風土ニ適セサルニアラサルナリ故ニ農家ノ副業トナシ主業ト相調和シ農閑ノ時期ヲ利用シテ多少ノ養蠶ヲナサシムルハ確實ナル發達ヲ遂ケ得ヘシ

二、施設

蠶業獎勵ノ爲メ比較的多額ノ資金ヲ支出セルコトハ既ニ記述セルカ如シ然ルニ其發達ノ遅々タルハ其獎勵ノ未タ至ラサルモノアリシニ由ルニアラス何トナレハ蠶業ニ關シテハ殆ント餘ヌ所ナク補助金ヲ支出シテ其獎勵ニ努メタレハナリ故ニ其發達ノ遅々タルハ新開ノ殖民地タルカ爲メ蠶業ニ比シテ比較的利益多キ業務ニ存スルト農耕ニ繁忙ニシテ未タ養蠶ニ從事スヘキ餘暇ニ乏シキニ由ルモノ、如シ而シテ本道産ノ蠶ノ絲質劣惡ナルニ由ルニアラス其絲質ノ比較的優良ナルハ横濱生糸検査所ニ於テ原料ノ精撰ニ注意シ品質ヲ一定スルトキハ信州上一番ヨリ三四十圓高ニ賣却スルコトヲ得ヘシト證言セシニ由リテモ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ即チ蠶業尙早ノ時機ニ在レハナリ是レヲ以テ現在ノ蠶業政策ニ對シ多少ノ改新ヲ加ヘ先ツ其根幹ヲ養フテ確實ナル發達ヲ遂ケシムルノ方策ヲ立ツルコト緊要ナリトス

蠶業獎勵上桑園ノ造設ハ最も必要トスル所ナリト雖モ其造設費ニ對シ補助ヲ與フルハ弊害アルヲ免レサルヲ以テ之レカ補助ヲ廢止シ單ニ桑苗ヲ配付セントス而シテ將來相當補助金ヲ交附スルノ必要アリト認ムル事業ハ左ノ四種トス

(一) 補助事業

- 一 製絲補助
- 一 蠶業教師補助
- 一 殺蛹乾燥場補助
- 一 蠶絲會補助

製絲補助

製絲補助ハ機械製絲及製絲組合ヲ組織シ共同場返共同販賣ナスモノニ限り補助スルコト、シ其補助ノ方法ハ左ノ如クスルコト

- (一) 機械製絲ニ對シテハ百釜以上ノ製絲工場ヲ設立スルモノニハ其設備費ニ補助スルコト
- (二) 製絲組合ヲ組織シ共同場返共同販賣ヲナスモノニハ其設備費ニ對シ補助スルコト

但シ五人以上ノ組合ニシテ十窓以上ノ場返場ヲ設立シタルモノニ限ル

(一) 機械製絲補助

本道ノ製絲業ニ對シテハ數年間厚キ保護ヲ加ヘタリト雖モ其大半ハ廢業ノ狀態ニアリ殆ト獨立の經營ヲナシ得ルモノナシ是レ其ノ事業經營ノ困難ナルニ由ルヘシト雖トモ薄資ニシテ補助ヲ日當ニ安リニ之レヲ設立セルモ亦タ一原因ナラスンハ

アラス且ツ其規模小ニシテ一工場トシテ經營ノ利益薄キモ亦タ其原因ヲナスカ如シ故ニ生産ニ對スル補助ヲ廢止シ百釜以上ノ設備ヲナスモノニ對シ單ニ其設備費ニ對シ補助スルコト、セハ比較的確實ナルモ之レカ經營ヲナスニ足ルヘク其補助ノ方法モ亦タ簡單ニシテ監督上煩雜ナラザルナリ

百釜以下ノ製絲場ハ經濟上不利ノ點少カラサルヲ以テ小規模ノ工場ニ對シテハ共同揚返場ヲ設立セシメ組合ノ發達ヲ謀ラシムルコト緊要ト信ス

(二) 製絲組合共同揚返場補助

百釜以下ノ小工場並ニ足踏座繰製絲家ノ共同一致シテ共同揚返場ヲ設立シ共同荷造及共同販賣ヲナスモノニ對シ共同揚返場ノ設備費ニ對シ相當ノ補助ヲ與ヘ組合ノ事業ノ發達ヲ獎勵スルヲ良トス

蠶業教師補助

蠶業教師ハ從來蠶ノ行ハル、地方町村ニ對シ蠶期間臨時教師ヲ派遣シ蠶ノ指導ニ從事セシメタリト雖モ町村ニ常置セシムルニアラザレハ到底堅實ナル蠶業ノ獎勵指導ヲ行フコト能ハサルヲ以テ之レヲ蠶業ノ樞要地ニ常置セシメサルヘカラス然ルニ普通農業ニ在リテモ亦タ農業教師ヲ常置スルノ必要アリ故ニ一町村ニ兩者ノ専門教師ヲ常置スルハ經費ノ關係上不可能ト謂ハサルヘカラス是ヲ以テ普通農業教師ヲシテ蠶業ノ指導ヲ兼テシメサルヘカラス故ニ其教師ノ選擇ハ大ニ注意ヲ要スル點ニシテ普通農業ト蠶業トノ學識經驗ヲ有スルモノヲ雇用スルヲ要ス依テ農業學校ノ卒業生ヲシテ蠶業講習所ニ入り一二年間蠶業ノ實習ヲ受ケタルモノヲ採用スルコト、セハ其人ヲ得ルコト能ハサルニアラザルヘシ簡易蠶業講習所ハ蠶業ノ行ハル、地方ニ在リテハ其子女ヲシテ蠶ノ技術ヲ修得セシムルニ必要ナル機關ナリト雖モ從來ノ實績ニ依レハ其効果甚タ少シシテ以テ町村若クハ農會ニ於テ簡易蠶業講習所ヲ設立スルモノアルハ其教師ニ對シ補助金ヲ交付スルコト、シ其教師ノ人撰ニ對シテハ十分ノ注意ヲ拂ヒ道廳ノ認可ヲ受ケシムヘシ

殺蛹乾燥場補助

蠶業ノ主要地ニシテ其產額比較的多ク組合ヲ組織シ共同販賣ヲナスモノニシテ殺蛹乾燥場ヲ建設セントスルモノニ對シ補

助ヲ交付スルコト、ナスヘシ養蠶家ノ組合ヲ組織シテ利益アリト認メラル、モノハ種蠶共同飼育ト共同殺蛹乾燥場トナリ然ルニ種蠶共同飼育ニ對シ特ニ補助金ヲ交付スルノ必要ナカルヘシ唯タ之レカ設置ノ利ヲ説キ鄉黨相集リ共同飼育ヲ勸奨セハ可ナラン殺蛹乾燥場ハ經費ヲ要スルコト多シ設立ニ難スルノ虞アルヲ以テ組合組織獎勵ノ一端トモナリ養蠶家ノ利益モ亦タ増進スヘキカ故ニ相當之レカ補助ヲ交付スルノ必要アリ而シテ僻遠ノ地方ニ對シテハ特ニ小規模ノモノニモ之レカ補助ヲ與フルノ必要アリ

蠶絲會補助

蠶絲會ヲシテ活動セシメントスルニハ少クモ現在ノ補助金ヲ交付スルノ必要アリ而シテ其主要ナル事業トシテハ蠶種同業組合ニ對スル補助製絲製綿ノ傳習繭共同販賣繭絲委託販賣蠶具其他ノ共同購入販路調査等ナリトス

(二) 蠶種及桑苗配布

蠶種及桑苗ハ從來一般希望者ニ配布スルノ方針ヲ取り來リタリト雖モ其成績良好ナリト謂フヘカラサルモノアリ且ツ限リアルノ經費ヲ以テ一般ニ之ヲ配布セントスルハ到底行レサルモノアリ故ニ蠶種ハ蠶種製造家ニ限リ其原蠶種ヲ配布スルコト、シ桑苗ハ親木圃ヲ有スルモノ若クハ親木圃ヲ造成セントスルモノニ限リ親木トシテ優良ナル桑苗ヲ配布スルコト、スルハ緊要ナリト然レモ蠶業ノ未タ發達セサル地方ニ在リテハ之ヲ誘掖指導スルノ必要アルヲ以テ特ニ蠶種及桑苗ヲ普通養蠶等ニ配布スルハ斯業ノ發達上甚タ必要ナリト認ム然レモ此場合ニハ豫メ其地方ヲ指定シ置クハ事務ノ遂行上緊要ナルカ如シ

町村若クハ農會ニ於テ蠶種及桑苗ヲ生産シ又ハ之ヲ購入シテ配布スルハ其生産費若クハ購入費ノ半額以内ヲ補助スルコト、セハ特ニ養蠶ヲ副家トシテ發達セシメントスル町村ニ限ラレ町村ノ活動ヲ助長シ且ツ散漫タル補助ノ弊ヲ除去スルヲ得ヘシ

(三) 指導及講習

蠶業指導ニ關シテハ專任農業技手ノ外ニ臨時囑託員アリ是等ハ蠶業ノ專問的技能ヲ有スルモノニシテ前者ハ一般の指導ヲ

ナシ後者ハ特ニ養蠶ノ發達スヘキ地方ニ派遣シテ各養蠶家ニ就キ指導スルモノナリ蠶業ハ農家ノ副業ニ適シ之ヲ普及セシムルノ必要アリト雖モ本道ノ如キ新開ノ殖民地ニ在リテハ農業組織上未タ之ヲ普及セシムルコト能ハサルノ事情ナキニアラス故ニ其地方ノ狀況農業組織ノ關係ヲ考ヘ副業トシテ蠶業ノ發達ヲナシムルニ適當ト認ムル地方ヲ定メ其誘掖指導ニ努ムルハ其確實ナル發達ヲ遂ケシムルニ必要ナリト認ム

蠶業講習所ハ從來蠶業ニ關スル試驗及調査ヲ行フト共ニ其主力ヲ講習生ノ養成ニ注キタリ講習生ハ之ヲ本科及別科ニ區別シ學資トシテ毎月六圓宛補給セリ然レモ其過去ノ成績及本道産業ノ現狀ニ鑑ミ蠶業講習所ノ事業組織及内容ヲ左ノ如ク改ムルヲ至當ト認ム

一 蠶業講習所ハ主トシテ蠶業ニ關スル試驗機關タラシメ左ノ事業ニ從事セシムルコト

(一) 蠶業ニ關スル各種ノ試驗及調査

(二) 優良ノ蠶種及桑苗ノ育成製造及配布

二 蠶業講習所ハ左ノ方針ニ依リ講習生ノ養成ニ從事セシムルコト

(一) 蠶業技術者ヲ養成センカ爲メ甲種農學校卒業生若クハ之ト同等以上ノ學力アルモノヲ收容シ一ケ年以上專ラ蠶絲業ニ關スル實務ノ練習ヲナシムルコト

(二) 蠶業實務者ヲ養成センカ爲メニハ本道農家ノ子弟ニシテ年齡十七歳以上高等小學校卒業者若クハ之ト同業以上ノ學力ヲ有スルモノヲ收容シ一ケ年間蠶絲業ニ關スル學科ヲ授ケ實習ニ從事セシムルコト

(三) 講習生ノ定員ハ二十名以内トシ學資補給ヲ廢止シ其夫役ニ從事セシメタル時ハ相當ノ手當ヲ支給スルコト

大正四年三月二十七日印刷
大正四年三月三十日發行

北海道廳

印刷者 山中 國松
札幌區北一條西三丁目二番地

印刷所 博光社
札幌區大通西三丁目八番地

終